

近中四農研年報
Ann. Rep. West. Reg.
Agric. Res. Cent.

近畿中国四国農業研究センター

年報

平成 27 年度

Annual Report of
Western Region Agricultural
Research Center

2015



NARO

農研機構

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構

近畿中国四国農業研究センター

近畿中国四国農業研究センター年報

平成 27 年度

目 次

I	主な動向と経過	1
1.	近農研を巡る情勢	1
2.	運営に関する主な動向	2
3.	研究成果の普及	3
II	組織の概要	5
III	研究の実施状況	7
IV	平成 27 年度研究予算課題一覧	24
V	研究情報活動	36
1.	主な研究成果	36
2.	研究成果の発表	37
1)	著書	37
2)	原著論文等	38
3)	学会発表等	43
4)	その他	53
3.	知的財産権	66
1)	産業財産権の登録および出願	66
2)	新品種の登録および出願	67
4.	広報活動	68
1)	記者発表（資料配付含む）	68
2)	近畿中国四国農業研究センター刊行物（会議資料等除く）	68
3)	一般公開、イベント、講演会、シンポジウム等の開催	71
4)	技術相談および見学	73
5.	図書資料の収集・受入、サービス	74
1)	収書数	74
2)	除籍数	74
3)	サービス	74
VI	研究交流	75
1.	研究員などの受入・研修	75
1)	国際農林水産業研究センター（JIRCAS）研究員	75
2)	国際協力機構（JICA）研究員	75
3)	日本学術振興会（JSPS）研究員	75
4)	科学技術振興機構（JST）研究員	75
5)	その他の制度等による海外研究員の受入	75
6)	流動研究員	75
7)	依頼研究員	75
8)	技術講習生	75
9)	国内留学	76

10) 連携大学院	76
2. 研究員の派遣	76
1) 流動研究員	76
2) 国内留学	76
3) 海外派遣・出張	76
3. 技術協力・指導	76
1) 連携大学院への派遣	76
2) 他機関主催研修会等への講師派遣	76
3) 当センター主催の技術指導	79
4) 依頼分析、試験および同定	79
4. 共同研究	79
5. 協定研究	80
6. 開放型研究施設（オープンラボ）の利用状況	80
VII 組織・人事・会計	81
1. 組織	81
2. 人事	82
1) 現在員数	82
2) 農研機構特別研究員	82
3) 委員等の就任状況	82
4) 叙位・叙勲	84
5) 受賞	84
6) 学位授与	84
3. 会計	85
1) 決算（所在地別内訳）	85
2) 固定資産（所在地別内訳）	86
VIII 主な会議等	87
1. 近畿中国四国農業試験研究推進会議	87
2. 近畿中国四国地域問題別研究会	87
3. 地域研究・普及連絡会議	88
4. 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業推進会議等	88
5. 革新的技術緊急展開事業関係会議等	89
6. その他会議	90
IX 所在地	91

I 主な動向と経過

1. 近農研を巡る情勢

平成 27 年度は、農業・食品産業技術総合研究機構（以下、農研機構）の第 3 期中期計画の最終年度にあたる。近畿中国四国農業研究センターは、近畿中国四国地域の特徴である中山間地、傾斜地および都市近郊における農業のさまざまな課題の解決と地域の活性化を目指し、研究・技術開発に取り組んだ。

1) 組織体制と運営

ア 組織体制

農研機構の第 3 期中期目標期間における研究推進については、実施すべき研究課題を大課題・中課題として整理し、大課題毎に大課題推進責任者（プログラムディレクター）を、中課題毎に中課題推進責任者（プロジェクトリーダー）を配置するとともに、中課題推進責任者を補佐するため必要に応じて中課題推進副責任者（サブリーダー）を配置する体制としており、大課題・中課題の推進は大課題推進責任者・中課題推進責任者が責任を持って対応する一方、研究所では、中長期的な観点からの研究者の人材育成および人的な管理を中心に、研究成果の社会還元、研究環境の整備、研究資産の管理等の業務を行うこととし、これらの研究所の業務を効率的に遂行するため、研究所に研究領域を置いている。

近畿中国四国農業研究センターには、引き続き、6 名の中課題推進責任者および 7 名の中課題推進副責任者が配置された。

また、近畿中国四国農業研究センターに 6 つの研究領域を置き、営農・環境研究領域および水田作研究領域の 2 つの研究領域を近畿中国四国農業研究センター本所（福山）に、作物機能開発研究領域および傾斜地園芸研究領域の 2 つの研究領域を四国研究センターに、環境保全型野菜研究領域を綾部研究拠点に、畜産草地・鳥獣害研究領域を大田研究拠点にそれぞれ設置するとともに、近畿中国四国農業研究センター独自の内部組織として、各研究領域内に以下の 18 の研究グループを設置している。

○営農・環境研究領域（本所）

- ・農業経営研究グループ
- ・機械作業・情報研究グループ
- ・農地・水環境研究グループ

○水田作研究領域（本所）

- ・水稻育種研究グループ
- ・小麦育種研究グループ
- ・栽培管理研究グループ
- ・輪作体系研究グループ
- ・病虫害研究グループ

○作物機能開発研究領域（四国研究センター）

- ・大麦育種研究グループ
- ・大豆育種研究グループ
- ・食品機能性研究グループ

○傾斜地園芸研究領域（四国研究センター）

- ・カンキツ生産研究グループ
- ・傾斜地野菜生産研究グループ
- ・園芸経営研究グループ

○環境保全型野菜研究領域（綾部研究拠点）

- ・生産基盤研究グループ
- ・野菜生産研究グループ

○畜産草地・鳥獣害研究領域（大田研究拠点）

- ・黒毛和種放牧飼料研究グループ
- ・鳥獣害対策研究グループ

また、所の広報活動や産学官連携活動を円滑に実施するため、広報普及室を設置している。広報普及室は、広報、産学官連携活動が一体的に行えるよう、企画管理部情報広報課、四国企画管理室連絡調整チームおよび専門員をメン

I 主な動向と経過

バーとしており、広報普及室長には研究調整役をあてている。

イ 予算

第3期においては、運営費交付金による研究資金を効率的・効果的に活用することにより中期計画の着実な推進を図るため、研究資金の配分については、中期計画の大課題ごとに配分される大課題研究費を、当該大課題を構成する中課題を担当する研究職員の所属する研究所に配分しており、研究所長は、この配分された大課題研究費から共通経費を徴収し、光熱水料、機械施設の維持管理費等のほか、研究所長の裁量で所研究活動強化費の財源として使用している。

また、産学官連携、現地技術実証、広報・普及、行政との連携等を通じて、研究成果の社会還元を一層促進するとともに、新たな研究ニーズを踏まえた先行的・試行的研究を実施し、人材育成、外部資金の獲得促進に資するため、研究活動強化費が設けられている。

平成27年度の近畿中国四国農業研究センターの運営費交付金の研究予算は、大課題研究費109百万円、研究活動強化費41百万円であった。

2) 近畿中国四国農業研究センターの研究の推進方向

第3期においては、近畿中国四国農業研究センターは、上記組織体制のもと、近畿中国四国地域の特徴である中山間地、傾斜地および都市近郊におけるさまざまな農業の課題の解決と地域の活性化を目指して、M（ミッション：使命）、V（ビジョン：展望）、P（パッション：情熱）をもって、下記の6つの課題を中心に戦略的に重点化して研究・技術開発に取り組んでいる。

- 中小規模水田における輪作技術の開発
- 飼料用稲や放牧などを利用する牛肉生産技術の開発
- 日光温室などの施設園芸技術の開発
- カンキツの高品質安定生産技術の開発
- 環境負荷物質の動態モデルと環境負荷の評価手法の開発
- 土壌病害虫防除と耕種的防除による環境保全型野菜栽培技術の開発

2. 運営に関する主な動向

1) 近畿中国四国農業試験研究推進会議

平成27年度近畿中国四国農業試験研究推進会議本会議は、平成28年2月5日に福山市ものづくり交流館で開催した。

本年度の重点検討課題は「『新たな農林水産研究基本計画』を踏まえた地域農業研究の推進方向」であり、課題検討に先立ち、企画管理部長からテーマに関するアンケート収集の経緯と論点整理を行い、その後中国四国農政局部長からT P P対策とそれにかかる平成27年度補正・28年度予算などについて、大臣官房政策課技術政策室課長補佐から今後の現場ニーズの把握と取りまとめ・公開について、技術会議事務局研究企画課係長から6月に開催された地域農研と公設試・普及組織、生産者等との連携の強化に関する意見交換会で出された意見への対応方針について、それぞれ話題提供がなされた。続いて、それぞれの府県からアンケート回答に基づきアドバイザーボードとコミュニケーターに関して要望・意見が出され、研究資金応募におけるコミュニケーターの支援への期待やニーズ把握のあり方について議論した。

次に、各推進部会長等から、平成28年1月に開催した各推進部会および平成27年8月に開催した評価企画会議における地域重要研究問題の措置方向等の議事概要の報告を行った。

また、第4期の推進会議のあり方について、地域重要研究問題素材を地域研究・普及連絡会議に技術的課題として上げていく過程の明確化、普及関係者が参加しやすい推進部会の開催時期などについて議論がなされた。これを踏まえ、平成28年度以降の推進会議の体制を見直す方向で引き続き検討することとされた。

2) サポーターズ会議および先進的生産者等との意見交換会

I 主な動向と経過

近畿中国四国農業研究センターでは、研究成果の広報、普及促進および定着に資するため、平成 23 年度から、農業関係者、行政・普及関係者、試験研究機関関係者、民間企業関係者、消費者、報道関係者および学識経験者の中から所長が委嘱する委員および所議構成員で構成する「近畿中国四国農業研究センターサポーターズ会議」を開催している。

平成 27 年度のサポーターズ会議は、平成 28 年 1 月 13 日に近畿中国四国農業研究センターにおいて開催した。はじめに、育種関係の成果 3 課題（稲、小麦、大麦）について、近中四農研の女性研究者より説明がなされた。次に、屋外で平成 28 年に市販が予定されている農食事業で開発された飼料用稲収穫機の紹介を行うとともに、講堂ではドローンを活用した農業研究の取組の紹介の一環として実演を行った。さらに、「恋の予感」のご飯、「中国 D166 号（セトデュール）」のパスタ、「旨赤ビーフ」の焼肉、「キラリモチ」と黒もち麦のシフォンケーキ、はれひめ（瀬戸の晴れ姫）のジュースの試食、革新的技術緊急展開事業（水田作、赤身牛肉）の取組状況の説明、研究成果の普及・実用化方策について意見交換を行った。その後、委員 8 名と意見交換を行い、女性研究者の活躍、自給率向上に向けた取組に期待していること、成果の普及や広報は対象を考慮して新聞・TV などのメディアを活用することが重要等とのアドバイスをいただいたほか、公設試、機器メーカー等との連携の重要性や研究と普及が一体となって取り組む必要性がある等の講評が行われた。

また、次期中長期計画において的確な研究課題を設定して、効率的に研究を遂行するための研究ニーズの把握の一環として、先進的生産者等との意見交換会を、平成 27 年 8 月 18 日近中四農研四国研究センターにて開催した。近中四農研の概要や主な研究成果の紹介のほか、傾斜地園芸研究領域 傾斜地野菜生産研究グループの研究成果として、生野地区では防風ネットによる保温性向上、ダブルアーチハウス、建設足場資材利用園芸ハウス、仙遊地区では布団ハウス、イチゴの間欠冷蔵育苗と栽培試験、拍動灌水システムの説明を四国研究センターの研究施設の見学と併せて行った。

3. 研究成果の普及

1) 連携普及計画

農研機構の第 3 期における産学官連携、広報、普及活動については、これらを一体的に推進し実施する体制を整備するとともに、実用化に向けた産学官連携研究、成果の活用による事業化・普及のためのマッチング活動、国民との双方向コミュニケーション確保の取組、多様な手法を用いた研究成果の効果的広報等について計画を策定して重点的に取り組むため、各研究所等において連携・普及計画を毎年度作成し、これらの取組を推進し実施する体制を着実に整備することとしている。

近畿中国四国農業研究センターの平成 27 年度の連携・普及計画では、所として重点的に取り組む事項として、「高温登熟成に優れ、両食味で多収の水稲品種『恋の予感』」、「二重ネット工法を用いた畦畔法面におけるシバの植栽技術」、「高断熱資材で保温性を高め、ダブルアーチで構造強化したパイプハウス」の普及を掲げるとともに、①実用化を目的とした共同研究、②現地実証試験、③マッチング、④ニーズ把握、⑤現場活動、⑥国民理解促進のための情報発信の 6 項目についての取組事項を記載した。

2) 地域マッチングフォーラム

ア 近畿地域マッチングフォーラム

平成 27 年 11 月 5 日に、大阪市の新大阪丸ビル別館を会場として、「中山間地域や都市近郊においてイチゴ栽培等で高収益生産を実現するために」と題して開催し、行政機関 13 名、普及指導 24 名、研究機関 30 名、大学等 2 名、生産者・農業団体 18 名、民間企業・団体 32 名等、全体で 120 名の参加があった。

本フォーラムでは、生物系特定産業技術研究支援センターから「イチゴの収穫ロボットとパック詰めロボットの研究開発と導入に向けた課題」について、山口県農林総合技術センターから「栽培施設リノベーションと 6 次産業化による攻めのイチゴ生産実証」について導入講演、「イチゴ栽培に必要な環境制御とのぞみファームでの取組」と題して岡山大学吉田教授より基調講演が行われた。続いて、島根県農業技術センター、農研機構近畿中国四国農業研究センター、大阪府立環境農林水産総合研究所、奈良県農業研究開発センターからイチゴ栽培に係る技術講演が行われた。ポスターセッションでは、講演で紹介された栽培技術によって生産されたイチゴやイチゴ加工品の試食を交え、

I 主な動向と経過

研究開発者と参加者との間で積極的な情報交換とマッチングが行われた。最後に、講演者に若手生産者、普及機関関係者が加わり、省力化技術への課題や期待、6次産業化の可能性についてパネルディスカッションを行った。

イ 中国四国地域マッチングフォーラム

平成27年10月21日に、愛媛県松山市のにぎたつ会館を会場として、「カンキツ農業における担い手の規模拡大と新規就農者支援による産地力強化を目指して」をテーマに開催し、行政機関23名、普及指導21名、研究機関36名、大学1名、生産者団体93名、民間企業・団体7名等、全体で186名の参加があった。

本フォーラムでは、鹿児島大学かごしまCOCセンターから「カンキツ栽培技術の最近の進歩」について、NECソリューションイノベータ株式会社から「ICT技術の進歩で可能となる新たな農業生産支援サービス」について、近中四農研から「園地気象推定技術の生産現場での活用に向けた取り組み」について、それぞれ講演があった。カンキツの高品質安定生産技術および園地整備技術の紹介では、講演者と参加者、または参加者同士で活発な情報交換とマッチングが行われた。また、優良園地の集積と担い手の育成および外部労働力の活用事例として、JAえひめ中央、JAおちいまばりから取り組みが紹介され、その後、「競争力のある産地確立に向けて」をテーマとしてパネルディスカッションを行った。

3) サイエンスカフェ

ア 食と農のサイエンスカフェ in ふくやま

第3期においては、国民との双方向的コミュニケーションの強化が広報普及活動のひとつの柱となっており、近畿中国四国農業研究センター本所（広島県福山市）では、平成26年度に引き続き、研究者と一般市民との率直な意見交換が可能なサイエンスカフェ形式の公開講座を開催した。

平成27年度は広島県福山市の近畿中国四国農業研究センター講堂を会場として8月1日、12月12日の2回開催し、一般市民45名の参加があった。

イ 食と農のサイエンスカフェ（四国研究センター）

平成27年度は、近畿中国四国農業研究センター四国研究センター（香川県善通寺市）でもサイエンスカフェを2回開催した。第1回は7月25日において、第2回は11月28日においてそれぞれ開催し、2回の合計で42名の参加があった。

II 組織の概要

1. 企画管理部

企画管理部は、近畿中国四国農業研究センターの実施する試験研究の総合的な企画・調整・評価、研究予算の配分、庶務、会計、情報システムの管理等、研究活動を支える企画管理業務を担当する。また、試験研究推進会議の開催、共同研究の推進、オープンラボの利用促進等を通じた他研究機関や行政部局等との連携・交流、研究成果の普及・広報など、研究センターの総合窓口としての役割を担う。

2. 営農・環境研究領域【福山】

営農・環境研究領域では、近畿中国四国地域に多い中山間地域の地域農業振興方策の解明、近畿中国四国地域に広く存在する中小規模水田を対象とした省力作業技術の開発と体系化および生産効率化のための情報利用技術の開発、瀬戸内海沿岸地域における環境負荷評価手法の開発を行う。

○地域農業活性化の核となる農産物直売所の活動を起点として、地元農産物の販売や消費者との交流によって地域農業を6次産業化し、小規模農家も利益を確保できるビジネスモデルを提案する。

○中小規模水田作の生産コスト低減に向け、麦・大豆の簡易耕による省力安定栽培技術、牧場調製型の飼料用稲収穫・調製システム、携帯情報端末を用いた情報記録システム等を開発する。

○琵琶湖や瀬戸内海等の閉鎖的水系が多いことから、農業由来の環境負荷を軽減する技術の改良と技術導入時の環境影響評価手法の開発、水質予測モデルの汎用化等を行う。

3. 水田作研究領域【福山】

水田作研究領域では、多様性に富む近畿中国四国地域の気候的・土地的条件に適合し、かつその条件を最大限活用する水田作物の生産技術の開発を行う。

○新品種開発については、水稲では良食味の業務用・主食用品種や多収で飼料栄養価に優れた飼料用品種、病虫害複合抵抗性品種、米粉や酒米用途など、多様なニーズに応えることのできる品種育成に取り組む。小麦では、自給率向上に資する国内産の増産を目指し、パン用や日本めん、中華めん、パスタ向けなどの多様な用途に適した品種育成に取り組む。

○近年進行しつつある地球温暖化の中においても、高温条件を克服し、かつ利用しうるような水稲多収栽培法、直播栽培法など、作物の低コスト安定多収生産技術の開発に取り組む。

○地下水水位制御システム等新技術の利用方法を明らかにしつつ、水稲、麦類、大豆など水田作物の合理的輪作技術、畦畔を含む雑草管理技術等の活用による中山間農地、中小規模水田に適した作物生産技術の開発に取り組む。

○消費者・生産者の双方に受け入れられる環境負荷が少ない作物生産技術として、土着天敵生物の温存・利用による害虫防除技術、未利用有機物資源活用による土壌病害防除技術など環境保全型生産技術の開発に取り組む。

4. 作物機能開発研究領域【仙遊】

作物機能開発研究領域では、近畿中国四国地域における水田輪作システムを確立し、農産物の需要拡大とブランド化を支援するため、裸麦や大豆品種の育成、農産物の健康機能性の解明と有効利用技術の開発を行う。

○大麦（特に裸麦）では、生産拡大や安定供給の実現に向け、味噌や麦ご飯用に適し、多収で硝子率・欠損粒率が低い品種や、食物繊維（β-グルカン）含有量が多く、付加価値が高い新規用途向け品種等を育成する。

○大豆では、安全な国産大豆の自給率向上・安定供給の実現に向け、DNA マーカー等を利用して重要病虫害抵抗性や難裂莢性等を基幹品種へ導入することで、温暖地に適した安定多収・良品質な品種を育成する。

○健康機能性については、生活習慣病を予防・改善できる食品成分の解明に向け、筋肉・肝臓の脂質代謝機能を強化する成分や、免疫調節作用等を持つ成分を明らかにする。また、小麦ふすま由来血圧降下ペプチドの商品化を目指し、その肝機能改善効果を明らかにする。

5. 傾斜地園芸研究領域【生野】

傾斜地園芸研究領域では、近畿中国四国地域に多い傾斜地の特性を活かし、野菜の新たな高収益・安定生産施設園芸生産技術ならびにカンキツブランド化を支援するための栽培技術の開発を行う。

○中山間・傾斜地における野菜生産では、日光を利用した日本型日光温室等の活用による高収益・安定生産施設園芸技術の開発に重点的に取り組むとともに、分子生物学的手法による新形質花きの開発に取り組む。

○カンキツ生産では、早期成園の省力化と正品果率の向上による高収益型カンキツ生産技術体系の確立を推進するための技術システム、傾斜地園の園地整備技術の開発に取り組むとともに、「団地型マルドリ方式」の普及を進める。

○施設園芸経営ならびにカンキツ経営による中山間・傾斜地地域における多角化ビジネスモデルを提案する。

6. 環境保全型野菜研究領域【綾部】

環境保全型野菜研究領域では、化学農薬の使用量を減らして持続的・安定的な環境保全の野菜生産を行うために必要な、土壌病害虫の診断技術の開発や、病虫害抑制および生長制御に有効な耕種技術の開発を行う。

○線虫や糸状菌等による野菜の被害について、メタゲノム解析等を用いた高感度定量法の開発や、要防除水準の作成を行い、これらに基づいた病虫害リスクの予測・診断技術を開発する。

○これまで廃棄されていた抗菌物質が含まれる地域未利用資源を活用し、より低コストで効果的な環境保全型の土壌還元消毒技術を開発する。

○ハウレンソウやイチゴにおいて収量や品質の向上、病虫害防除を可能とする、新規の光質選択性被覆資材や照明技術、遮光栽培法を含めた実用的な光環境制御技術を開発する。

7. 畜産草地・鳥獣害研究領域【大田】

畜産草地・鳥獣害研究領域では、中山間地が多い近畿中国四国地域において、地域の飼料資源を活用した黒毛和種の生産技術および近年深刻な鳥獣害への対策の研究を行う。

○輸入飼料依存から脱却し、自給飼料基盤を充実させた畜産を展開するためには、水田、野草地そして増加が著しい耕作放棄地などを積極的に活用する必要がある。そこで、新品種の飼料用稲や野草地放牧などの地域の自給飼料資源を活用した黒毛和種の繁殖から肥育までの生産技術の開発に取り組む。

○全国的に鳥獣による被害は深刻さを増しているが、従来の駆除や防護柵では被害防止効果は小さいため、イノシシ、ハクビシン、サルなど野生動物の行動解析をもとに、より省力的で効果の高い侵入防止技術の開発に取り組む。また、これらの成果をもとに地域の住民が主体的に取り組める鳥獣害対策プログラムを提案する。

8. 研究支援センター

研究支援センターは、試験研究活動の円滑な進行を支えるため、試験圃場・施設の管理、作物・動物の栽培と飼育に取り組んでいる。

多様な近畿中国四国地域の立地条件を反映し、試験圃場は平坦な水田や畑地だけでなく地域特有の傾斜地圃場（畑地・樹園地・草地・放牧地）、ハウス等の施設などさまざまな種類に及ぶ。扱う作物も水稲や大豆・麦類などの普通作物、牧草・飼料作物、野菜などの園芸作物、カンキツなどの果樹類まで多様である。動物に関しては、家畜である肉用牛のほか、近年は獣害防止技術開発に必要なイノシシやシカなどの野生動物も飼育している。これら作物や動物の管理・栽培・飼育業務全般のほか、技術利用者、作業員の視点から技術開発に有用な助言を行うとともに、業務改善に資する工夫・考案なども行っている。また、現地実証試験など所外での研究活動にも対応する中で、新技術をいち早く修得し、模範実演を担当することにより、開発技術の生産者への速やかな技術移転の一翼を担う。

Ⅲ 研究の実施状況

- ・領域名：営農・環境研究領域
- ・研究グループ名：農業経営研究グループ
- ・研究担当者：千田雅之、尾島一史、坂本英美、渡部博明、大室健治、友國宏一
- ・研究活動の概要

①地域農業の将来動向、与件変化等を踏まえた経営展開方向及び技術開発課題の提示

中山間地域農業の担い手として期待される集落営農法人を素材に、線形計画法を適用した営農計画モデルを構築し、労働力減少や近年の経営環境変動（米価下落、米の直接支払交付金半減等）を考慮しつつ、地域農業維持のために要請される経営面積と農業専従者が他産業並みの労働報酬を得られる高い収益性を兼ね備えた営農モデル（部門構成と導入技術）を検討した。このなかで、水稻、麦、大豆作の新技術の導入効果の評価に加えて、野菜作や飼料作、放牧畜産導入による営農の維持・発展の可能性と条件を検討した。【革新プロ】【農水委託プロ「水田複合経営の新作型開発研究」】

②生産力、収益性向上に向けた畜産経営の展開方向の提示

ロボットや ICT を活用した酪農経営、水田・里山での放牧飼養による肉用牛繁殖経営の先進事例の生産管理と経営成果の分析を行い、生産力が高く、高い収益性の確保可能な大家畜経営の展開方向とその普及条件等を明らかにした。また、稲 WCS の生産利用による耕畜連携が地域経済に及ぼす効果を、産業連関分析を用いて定量的に明らかにした。【革新プロ「畜産経営評価研究」】

③農産物直売所のビジネスモデルの提示

農産物直売市を都市部で開催し、有機農家の販売収入の確保を図る有機農家直売市ビジネスモデルを先進事例の解析を通して策定するとともに、調査対象とした先進事例以外においてもビジネスモデルが有効であるかを検討した。【交付金】また、日本園芸農業協同組合連合会（日園連）が発行する『京浜・京阪神市場落葉果実・果菜類販売年報』を用いて、京阪神と京浜の2つの市場における都府県別のシャインマスカットの出荷量ならびに単価を整理し産地の類型化を図った。

④ Web 版農業経営診断サービスのユーザ評価と集落営農法人を対象とした経営診断手法の検討

Web 版農業経営診断サービスの利用者の評価を踏まえて、利便性の向上を図った。また、東広島市において米粉パン直売店を運営する等の多角化型集落営農法人の財務データを収集・分析し、経営診断の際の留意点を抽出した。

・主な研究成果

中山間集落営農法人の展開方向として、労働力減少・米価等低落下では水稻作業の省力化技術および WCS 用稲の高単収品種の開発と導入、水稻作業と競合しない野菜作やその加工部門の適切な組合せにより、経営面積拡大と農業専従者の雇用可能な高い収益が確保できること等を明らかにした。また、地域農業の将来動向と必要とされる担い手経営像、その実現に必要な技術開発等を、「地域農業の将来動向と担い手展望及び技術開発方向」（中央農研研究資料 10 号第 I 部および小冊子）に取りまとめ公表した。

高収益な畜産経営の展開方向を明らかにするため、肉用牛繁殖経営計画モデルを構築して、放牧方式等の相違による経営成果の比較検討を行った結果、周年親子放牧方式と飼料作の分業による生産方式の子牛生産コストが最も低く、収益性が最も高いこと等を明らかにした。また、ロボット等による搾乳および飼養管理の省力化と飼料生産等の外部化等により、夫婦 1 世代で経産牛約 120 頭の飼養と収益性の高い酪農が可能となるが、高泌乳牛飼養となるため収益確保には ICT 等を活用した個体の観察・管理の充実が必要であること等を明らかにした。これらの研究成果を「大家畜畜産及び飼料作経営の展開方向と技術開発課題」（中央農研研究資料第 11 号および小冊子）に取りまとめ公表した。

都市近接地域における有機農家直売市の存立条件を分析した結果、ア．信頼の確保、イ．出店者と来客者の確保、ウ．運営体制の確立が重要な要件であることが明らかにされた。このため、有機農産物のみ販売を基本にした出店基準の設定、基準遵守の確認、出店者を有機農家中心とし毎週開催すること、ボランティアと事務局専従者の確保によって事務局機能を強化すること、有機農家直売市の存続に有効であることを明らかにした。

Web 版農業経営診断サービスのユーザ評価を解析した結果、複数の診断指標を統合して経営を総合的に評価できる

Ⅲ 研究の実施状況

指標や、ベンチマーク（目指すべき経営像）との比較機能等が指摘された。多角化型集落営農法人の経営評価に際しては、法人活力向上の観点から、多角化に伴う集落労働還元率（＝集落内労務費／集落還元額）が重要な指標になると考えられた。

・広報・普及・産学官連携活動

研究活動強化費により、研究セミナー「国土資源を活用した酪農・肉用牛経営のコスト低減の可能性と条件」を開催し（11月11日東京滝野川会館）、畜産経営の生産力および収益性向上につながる経営の展開方向、ならびに国土資源活用型の畜産経営の展開を図る上での経営対応、地域支援システム、研究開発課題等について、認識の共有化を図った。その成果の一部は、27補正革新技術開発・緊急展開事業に、「ICT等を活用した低コスト・省力子牛生産による高収益な肉用牛繁殖経営モデルの構築」、「和牛産地を支える水田里山の戦略的展開」として提案化されるなど今後の技術開発にも活用されている。

研究活動強化費により、研究セミナー「水田里山の畜産利用と土作りを基礎にした中山間地域営農発展の可能性と研究課題」を開催し（12月7日岡山国際交流センター）、中山間地域において生産力および収益性の高い営農を行い青壮年の雇用を実現している先進的経営者4名より、生産管理技術等について話題提供を行い、生産力および収益性の高い中山間地域営農の展開方向について理解するとともに、その実現を支援する基盤整備や、研究課題、地域支援等について検討を行った。

・領域名：営農・環境研究領域

・研究グループ名：機械作業・情報研究グループ

・研究担当者：高橋英博、奥野林太郎、高橋仁康、窪田潤、寺元郁博

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①中小規模水田輪作体系の確立、②牧場調製型収穫システムの開発（微細断収穫・調製体系）、③通信制御の共通化技術の開発、④生産現場における簡易データ収集・統合管理システムの開発に取り組んだ。①では、条間30cmの大豆狭畦栽培におけるグルホシネート液剤の畦間・株間処理の適期は大豆5葉期から7葉期で、特に5葉期処理は慣行のベンタゾン液剤以上の防除効果が得られた。大豆晩播狭畦栽培において土壌処理剤、選択性茎葉処理剤、非選択性茎葉処理剤の除草剤3回体系でマルバルコウ防除が可能であることを明らかにし、播種法を部分耕にした場合は土壌処理剤、非選択性茎葉処理剤の2剤で防除が可能であることが示唆された。汎用利用可能な簡易リモートコントローラおよびISO11783の通信情報に準じ操出量のキャリブレーションや操出量の設定、速度連動制御が可能な播種機用ECUを開発した。また農用車両の作業記録を収集するGPSデータロガーを試作し、現地農業法人の作業を記録した。②では、収穫物を理論切断長6mmで微細断する長程対応微細断収穫機（株式会社タカキタ製市販型試作機）により延べ6カ所において「たちすずか」等のWCS用稲4品種およびデントコーンについて微細断収穫・調製体系の現地実証を行い、微細断した収穫物をトラックのバラ積みで高密度輸送して飼料基地や牧場でロールバールやバンカーサイロに調製する低コスト体系を確立した。③では、国際規格に対応する作業データの収集技術の検証用の機器として利用できる作業機用ECUを試作し、市販のブロードキャストに実装してCAN通信データの記録から作業時の走行速度変化に応じて目標値に対するシャッタ開度制御が行われていることを確認した。④では、PMS（作業計画・管理支援システム）を東広島市の農業法人で運用してもらい改善点を抽出するとともに、入力された作付・作業データを活用して大豆の出葉速度モデルに基づき圃場毎に雑草防除作業の適期を推定・提示するシステムのプロトタイプをMicrosoft Excelを用いて作成した。3G/GPSトラッカーを使用し能代市の農業法人のコンバインの稼働状況をインターネット経由でモニタリングして水稻の収穫作業記録を作成し、作業計画計算システムで作成した圃場間の移動距離を考慮した効率的な収穫作業計画と対象法人の作業実績とを比較・評価した。また改良を加えたスマートフォンを用いた収穫記録作成ツールを現地で試験運用するとともに、PMSとの相互運用性を得られるようにした。データ管理ツールの開発を行い、JSONベースのラスタデータを配信する「基盤地図情報DEM切り取りサービス」を公開した。

・主な研究成果

現地のダイズ栽培で問題となっている帰化アサガオの一種である難防除雑草の「マルバルコウ」が多発する圃場であっても、晩播でも収量が減少しにくい大豆品種「あきまる」を用い30cm狭畦密植で梅雨明け後の晩播栽培を行い、

Ⅲ 研究の実施状況

FOEASにより苗立ちを確保し、適期に土壌処理剤、選択性茎葉処理剤の全面散布、非選択性茎葉処理剤の畦間株間散布を実施することで防除が可能となり、収益の向上も見込める技術を開発した。

農食事業において「たちすずか」等の高糖分 WCS 用稲を 6 mm まで微細断することで、低コストだが今まで困難と言われてきたバンカーサイロ調製を可能とする「微細断収穫・調製体系」を近中四農研大田拠点、株式会社タカキタ、広島県立総合技術研究所畜産技術センター、広島県酪農業協同組合、岡山大学と連携して実用化した。「微細断収穫・調製体系」に対応する収穫機として、株式会社タカキタより平成 28 年 6 月に「汎用型微細断収穫機（ワゴンタイプ）」が発売予定で、WCS 用稲だけでなく飼料用トウモロコシやソルガム類、エン麦にアタッチメント交換なくそのまま対応できるため、汎用的な利用によるコスト低減も期待される。また、収穫機の開発に関連して、株式会社タカキタと「収容物の分散化構造」の特許出願（特願 2015-168385）をした。「微細断収穫・調製体系」のコストは、圃場と輸送先の飼料基地の地理的条件により大きく異なり、バンカーサイロ（コンクリート枠内等でまとめて嫌気性発酵する）調製で片道輸送時間 30 分以内、ロールベール調製で同 20 分以内をコスト低減の目安とする。これらの成果を含め、農食事業全体の成果を取りまとめた「画期的 WCS 用稲「たちすずか」の特性を活かした低コスト微細断収穫調製・給与マニュアル」を作成した。

小型農業機械の電子化や高機能化を進めることを目的として、農用車両通信規格 ISO11783 の通信フォーマットを用い、作業機 ECU（電子制御装置）から、作業機制御用の数値入力項目とその通信様式などの設定情報を送ることで、異なる作業機の操作や情報表示ができる簡易で汎用的な共通リモートコントローラを開発した。

・広報・普及・産学官連携活動

革新プロ（水田作）に関連して、近畿中国四国農業試験研究推進会議問題別研究会やアグリビジネスフェア、東北農業試験推進会議作業技術研究会等において、研究内容について紹介した。

平成 27 年 8 月のサイエンスカフェにおいて「お米作りの大転換～最先端の農業機械で水田を守る～」を講演した。内容は米余りによる減反政策から最近の飼料用稲・飼料用米への転換、耕作放棄地の増加と対策、大規模化の必要性、大規模化に伴う安全性の向上、最新の農業機械の紹介、一人で大面積を栽培するための ICT、近中四農研が取り組む WCS 用稲収穫・調製体系、近中四農研で試作した収穫機、福岡科員による 3D_CAD の実演などであった。

また ICT 関連で、岡山県農林水産総合センターで実施された普及員を対象とした ICT 研修におけるマルチコプター（ドローン）に関する講演および空撮の実演、岡山県総社市の農業法人からの要請による PMS 説明会における研究紹介とデモ、平成 27 年度農研機構シンポジウム「北海道畑作営農システムの確立に向けた農業 ICT 研究の最前線」における北海道で実施したリモートセンシング実用化についての研究内容および経緯と導入の鍵となる点の紹介を行った。

・領域名：営農・環境研究領域

・研究グループ名：農地・水環境研究グループ

・研究担当者：松森堅治、笠原賢明、石岡徹、志村もと子、望月秀俊、渡邊修一

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①農地からの環境負荷物質を低減する技術の開発、②負荷低減対策技術の導入効果の予測が可能な環境負荷物質動態モデルの構築、③水系における環境負荷リスクの評価、④地下水位制御システム圃場における土壌中の水分・養分の動態解明、⑤還元消毒時の土壌環境変化と消毒効果の関係の解明に取り組んだ。①では、拍動灌水装置を棚田転換畑のアスパラガス栽培や高所の貯水タンクを必要としないブドウのコンテナ栽培に導入できるように改良するとともに、露地イチジク栽培への導入では梅雨明けの水分ストレスを緩和することによりヤケ果の発生が低減することを確認した。また、マルドリシステムでは、窒素溶脱量が慣行の 1/10 以下になることを明らかにした。②では、多雨・施設園芸地域（高知県）、茶園地域（京都府）、水田地域（奈良県）で検証し、その結果、高知県と京都府は、予測値が実測値の概ね ± 20% 以内で適用できたが、奈良県では水田の係数が有意とならず、流域を越える灌漑水路網のある地域では、低平地を細分する流域によるモデル化は困難であることを確認した。③では、温室効果ガスの市場取引価格による温暖化影響コストと、河川等の浄化施設に基づく単価設定による水質保全影響コストを算出し、これらと生産コストの合計で新技術導入栽培と慣行栽培の経済性を比較評価できる総合評価手法を開発した。④では、所内 FOEAS 圃場では設定地下水位と実際の地下水位がおおよそ対応した。大豆栽培の結果よ

Ⅲ 研究の実施状況

れば、水位管理者をフロートより高い位置に設定することで降雨を有効に利用できることを明らかにした。⑤では、土壌還元消毒に用いる有機質資材の好気条件での分解性は資材によって大きく異なり、嫌気条件での培養後に残存する易分解性有機物量も同様であるが、培養時の水分量が多いと残存量が多くなる。また、消毒時に大気中に放出される一酸化二窒素はごく僅かであることを明らかにした。

・主な研究成果

拍動灌水装置を棚田転換畑のアスパラガス栽培へ適用する技術開発については、中山間地域に今後適用が見込まれる技術であり、原著論文として発表するとともに普及成果情報としてまとめた。また、ブドウコンテナ栽培のための太陽電池駆動ポンプによる灌水装置は、拍動灌水装置で高所の貯水タンクを必要としないなどの改良を加えた装置で、装置の管理作業を容易かつ安全にできるようにし、その成果を原著論文としてまとめた。

・広報・普及・産学官連携活動

環境負荷低減技術とその評価手法の開発の成果については、農研機構シンポジウム「露地栽培における点滴灌水技術の展開と進化」を開催するとともに公設試・普及機関と連携して研修会での紹介や岩手県、山形県、神奈川県、長野県、山梨県、広島県で実証展示圃を設置するなど普及を進めるなど情報発信に努め、平成 27 年度までに 315 台の拍動灌水装置が導入された。また、水質予測モデルの開発においては、水文学を専門とする学振 PD（平成 25-27）を受け入れるとともに、科研費基盤 A（平成 25-27）において広島大学、岡山大学、カンキツ生産研究グループ（カンキツブランド化 142d0）と連携してマルチした点滴灌水の影響評価を行い、マルドリノ効果が検証された。また、茨城県霞ヶ浦環境科学センター、農業環境技術研究所、茨城大学との銚田川流域の窒素蓄積・動態に関する共同研究（平成 25-27）を行った。

・領域名：水田作研究領域

・研究グループ名：水稲育種研究グループ

・研究担当者：出田収、重宗明子、中込弘二

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①主食用、加工用水稲品種の開発・利用、②飼料用稲品種の開発に取り組んだ。①では、温暖地向けで縞葉枯病抵抗性の高アミロース系統「中国 215 号」の品種登録出願を行った。製麺適性に優れ、米粉麵用としての普及が期待される。また、「きぬむすめ」より 10%程度多収で、「きぬむすめ」並の良食味縞葉枯病抵抗性で中生熟期の多収良食味系統「中国 221 号」を育成した。さらに、広島県立総合技術研究所、JA 全農ひろしま、広島県酒造協同組合との酒米共同育成を実施し、系統の育成・選抜を進めた。②では、やや晩熟期の短程で耐倒伏性に優れ飼料用米の生産に適した「中国 217 号」およびかなり晩熟期で縞葉枯病に抵抗性を有する極短穂の稲発酵粗飼料用系統「中国飼 219 号」の品種登録出願を行った。また、縞葉枯病抵抗性で中生熟期の極多収系統「中国 222 号」を育成した。

・主な研究成果

やや晩熟期の温暖地向けで縞葉枯病抵抗性の高アミロース系統「中国 215 号」、やや晩熟期の短程で耐倒伏性に優れ飼料用米の生産に適した「中国 217 号」およびかなり晩熟期で縞葉枯病に抵抗性を有する極短穂の稲発酵粗飼料用系統「中国飼 219 号」の品種登録出願を行った。

・広報・普及・産学官連携活動

水稲品種「恋の予感」については、広島県、広島県穀物改良協会、JA 全農ひろしまに協力するとともに、農研機構発！西日本向け水稲良食味品種お披露目会、FABEX 関西、プロ米 EXPO、食のセミナー in 東京に出展することにより普及促進を図った。また、中生熟期の良食味多収水稲品種「せとのかがやき」については、瀬戸内市振興公社との協定研究やオンデマンド品種マッチングミーティングへの出展による普及促進を図った。高アミロース多収系統「中国 215 号」および低アミロース多収系統「中国 216 号」については、民間企業との協定研究で品種化や普及促進を図った。民間企業との共同研究では温暖地向けの金芽米用系統の育成も進めている。さらに、酒米については、広島県立総合技術研究所、JA 全農ひろしま、広島県酒造協同組合との共同研究により、飼料稲については、作物研究所、九州大学および広島県畜産技術センターとの共同研究や民間生産者団体との協定研究で「中国 217 号」等の育成や品種化を進めた。その他、極短穂の稲発酵粗飼料用品種「たちあやか」について、家畜改良センター長野支場との研

Ⅲ 研究の実施状況

究協定により、採種法の検討を行った。

- ・領域名 水田作研究領域
- ・研究グループ名 小麦育種研究グループ
- ・研究担当者 高田兼則、池田達哉、谷中美貴子、船附稚子（～5月）、伴雄介（10月～）、加藤啓太（10月～）
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①栽培地域の気象生態に対応した高品質な用途別小麦品種の育成、②加工適性に優れるグルテンタンパク質組成の解明とDNAマーカーの開発、③DNAマーカー等の開発・利用による抵抗性遺伝子の集積と複合障害抵抗性素材の開発の課題に取り組んだ。①では、パン用品種「せときらら」については、種子生産や栽培情報の提供を継続し、山口県以外でも主に西日本各地で普及が進んだ。低カドミウム（Cd）蓄積系統の中国165号は、製粉性が優れ、製麺性の評価もASWと同等に高く、奨励を継続し、現地試験を実施中である。秋播型パン用系統の農研小麦1号と農研小麦2号は品種化の検討のため現地試験を実施している。「せときらら」の後継系統として、製パン性に優れ早生の中国168号と極早生の中国169号を開発した。②では、輸入小麦6銘柄について、継続してグルテニン・サブユニット、硬軟質、アミロース合成酵素の遺伝子型の構成を調査した。その中でASWは2ロットとも硬質の割合が7割を超えているなど新たな情報が得られた。また、生地の色相劣化に関与するPPO遺伝子型を調査した結果、Ppo-D1bが縞萎縮病抵抗性遺伝子Ymlbと連鎖しているため、北海道の品種系統を中心に抵抗性品種が色相を劣化させる遺伝子型Ppo-A1a/Ppo-D1bを持つことを明らかにした。③では、デュラム小麦系統中国D166号に赤い種皮色と穂発芽耐性に関わるMFT、5AL-QTLを導入した場合に穂発芽耐性の向上が確認された。赤かび病抵抗性3BS-QTLの導入による効果も確認された。デュラム小麦由来のCdu1の普通系小麦における子実Cd濃度低減の効果は判然としなかった。そのほか、日本製粉との共同研究をもとに、日本初のデュラム小麦品種として中国D166号を品種登録出願した。次年度以降は、温暖地向けのパンおよび日本めん用の品種育成を継続する。低Cd蓄積系統は農業形質の改良と遺伝解析を進める。農食研究事業を中心に中国D166号の普及に取り組む。また、穂発芽耐性、赤かび病抵抗性、粉色等を改良したデュラム小麦系統の開発を進める。品質に関しては、2015年流通の輸入銘柄の遺伝子型の解析を行い、データの蓄積を図るほか、グリアジンのタンパク質と遺伝子の解析を進めDNAマーカーを開発する。Ppo遺伝子とタンパク質の解析とPpo-D1bとYmlbの連鎖が外れた系統品種を探索する。

・主な研究成果

普及成果情報のパン用小麦品種「せときらら」は、主要普及成果および大課題主要成果の1つに選定された。デュラム小麦「中国D166号（セトデュール）」を品種登録出願（平成28年3月26日公表）し、研究成果情報として提出した。

・広報・普及・産学官連携活動

日本製粉とのデュラム小麦に関する共同研究は、「中国D166号」の品種登録出願を行い、農食研究事業へ展開して進めている。「せときらら」については情報提供と種子の生産・配付を継続して実施し、兵庫県と岡山県で新たに産地品種銘柄に設定されたほか、愛媛県でも銘柄申請が行われた。京都府では奨励品種採用に向けた取り組みが始まった。

- ・領域名：水田作研究領域
- ・研究グループ名：栽培管理研究グループ
- ・研究担当者：長田健二、黒瀬義孝、千葉雅大、小林英和
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①水稲収量・品質の変動要因の生理・遺伝学的解明と安定多収素材の開発、②栽培・生体情報に基づいた高品質カンキツ生産技術の開発、③かび毒産生病害からの食品安全性確保技術の開発、④気候変動下における水稲の高温障害対策技術の開発に取り組んだ。①では、大粒形質の付与により高温登熟条件下での水稲品質収量低下を軽減できる可能性を明らかにした。②では、収穫までに簡易土壌水分計の水位を目標値まで低下させれば、設定した果実糖度に達するというかん水管理法を確立した。③では、赤かび病適期防除等に重要となる小麦の

Ⅲ 研究の実施状況

開花期予測システムを運用した結果を踏まえ、発育予測モデルのパラメータの見直しや予測結果の公開方法の見直し等を進めて、機関公式ウェブサーバで予測結果を公開する小麦の開花期予測システムの運用を開始した。④では、出穂直後のフェーンによる白穂の発生程度における品種間差を検出したほか、飼料用および業務・加工用育成系統の生育収量特性解明を進めた。

・主な研究成果

簡易土壌水分計の水位低下量とカンキツが受けている乾燥ストレスおよび糖度との関係を調査し、簡易土壌水分計の1日あたり水位低下量はカンキツが受けている乾燥ストレスの指標となり、水位低下量を積算した値は糖度の指標になることを明らかにした知見は、カンキツの高品質生産に寄与する有用な成果であり、原著論文が採択されて今年度の主要普及成果情報とした。また、過年度に開発した温風導入型オープントップチャンバーによる圃場高温処理法について風条件の不安定な地域への改良を進め、原著論文として発表した。さらに、「北陸193号」の粗玄米収量は出穂期までの窒素吸収量と出穂前後の日射量で決定されることを見出し、収量900kg/10aを実現するために必要な出穂期地上部窒素吸収量や最適出穂期について1kmメッシュ農業気象データを用いてマップ化して、今年度の中課題主要成果とした。

・広報・普及・産学官連携活動

気候予測情報を活用した農業技術情報の高度化に関連して、気象庁との共同研究に参画した。水稻の精米特性に関する協定研究を(株)ケツト科学研究所と行った。近畿中国地域水稻作況連絡試験の全体とりまとめ、府県サンプルの玄米外観品質測定を行い、データを蓄積した。水稻栽培やカンキツ生産に関する技術相談対応や講演、イベントでのポスター展示等を通じて生産者や普及関係者に研究成果を紹介した。インターンシップ受入れや連携大学院講義、学会や各種団体の委員等を通じて、産学官の連携、協力への貢献を行った。

・領域名：水田作研究領域

・研究グループ名：輪作体系研究グループ

・研究担当者：岡部昭典、石川直幸、片山勝之、橘雅明、伏見昭秀、竹田博之、藤本寛、森伸介、山崎諒

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、全員が中課題「中小規模水田に対応した生産性向上のための輪作システムを確立」を担当した。この中で、1) 地下水位制御システム試験関係では、FOEASを利用して地下水位-10cmに維持する水稻の節水型乾田直播栽培を検討した。また、小麦では登熟期地下灌漑の増収効果を検証するとともに、水稻栽培後の過湿対策としてスタブルカルチ等の検討を行った。2) 省力・低コスト栽培関係では、少量播種ロールを用いて現地生産者圃場で水稻の少量播種乾田直播栽培の開発を行った。また、乾直における新規除草体系を確立するため、対象草種の埋土種子量と必要除草回数との関係を検討するとともに、水稻直播栽培における出芽、苗立ちの安定化についても検討した。また、大豆では狭畦栽培で問題となる倒伏対策として摘心の効果を検証するとともに、土壌水分管理による青立ち抑制を目的として、ライシメータで開花期以降の一定期間を低水位とし、青立ちの程度や収量に及ぼす影響を調査した。さらに、大豆のチゼルプラウ耕等の新たな耕起播種技術を慣行栽培と比較検討した。麦類では部分耕播種の長所と短所を明らかにするとともに、殺菌剤と稲藁が出芽率や生育収量に及ぼす影響を検討した。畦畔管理では、シバを主体とする畦畔への速やかな植生転換技術を開発するとともに、岩手県の災害復旧地区の畦畔で植生転換による省力管理技術の実証を行った。3) 現地実証試験関係では、世羅町のFOEAS圃場で水稻乾田直播栽培の実証試験を実施するとともに、大麦のFOEAS圃場における施肥改善および排水不良圃場におけるチゼルプラウ耕等の増収効果を検証した。また、革新的事業(水田作)において、東広島市で大豆品種「あきまる」の晩播狭畦栽培、FOEASによる大豆の出芽促進効果の検証、二重ネット工法による芝生畦畔転換技術の実証、等の試験を実施した。

・主な研究成果

地下水位制御システム試験関係では、麦作後の水稻乾田直播栽培で地下水位を-10cmに維持する節水管理によって、800kg/10a程度の多収が可能であることを実証した。また、麦類における登熟期地下灌漑は、登熟期に降雨が多かったため収量等への効果は不明瞭であったが、スタブルカルチ耕により土壌の乾燥が早まり、バーチカルハローできれいに碎土整地でき、湿害対策として効果的であった。

省力・低コスト栽培関係では、大規模生産者が実際に営農に取り込める水準の水稻の少量播種乾田直播栽培技術

Ⅲ 研究の実施状況

を開発するとともに、ヒメタイヌビエとクサネムの埋土種子数に応じた適切な除草体系を提示した。また、乾田直播栽培の出芽性の安定化に鎮圧とプライミング処理が有効であることを明らかにした。大豆では、摘心は坪刈収量の増加には繋がらなかったが、倒伏対策として有効であること、開花期と莢伸長期の土壌乾燥処理は青立ちを増加させるが、子実肥大期の処理では影響しないことを明らかにした。また、チゼルプラウ耕等の新たな耕起播種法は従来のロータリー耕播種に比べて播種時の土壌水分が低く、砕土性が高まり、大豆の生育は旺盛で根の数も多かったが、倒伏程度は大きく、収量には差がなかった。水稻後小麦では、部分耕起播種は全面耕起播種に比べて出芽率に差はなかったが、収量と蛋白質収量は低くなった。また、殺菌剤処理により部分耕起播種栽培の収量が向上する可能性が示唆された。畦畔管理では、植栽年のシバは個体毎にサイズが小さいため、寒冷地では低温、少日照等の影響を受け易いとみられた。

現地実証試験関係では、水稻乾田直播栽培は FOEAS 圃場の収量および収量構成要素に関する優位性は認められなかった。また、大麦の新耕起播種法は従来の弾丸暗渠施工+ロータリーシーダーに比べて作業時間が 16%削減できた。一方、「あきまる」の梅雨明け晩播では生育期間は短くなるが、密植と地下水位制御により安定した収量を確保できた。FOEAS による大豆の出芽促進効果に関しては、播種後に降雨があったため、出芽率は対照圃場と差がなく、効果は検証できなかった。また、二重ネット工法によるシバ植栽により、芝生畦畔での畦畔管理コスト 25%削減が達成できた。

・広報・普及・産学官連携活動

平成 26 年度の普及成果情報に選定された畦畔向けシバ植栽技術のさらなる周知と普及を目指して、広報活動および技術セミナーと実証現地での技術実演会等を開催した。

広報活動としては、①生産者等向きと②普及員等向きの各マニュアルを 3,500 部ずつ刊行するとともに、技術紹介として HP に掲載した。次に、チラシ「シバ二重ネット工法」を 1,500 部発行した。技術セミナー、関連講演および来場者への対応で、2つのマニュアルは、1,500 部ずつ、チラシは 700 部、それぞれ配布済みである。また、広報の見学対応として芝生畦畔（200 平方メートル）を西深津地区に造成中である。

技術セミナーは 10 月 29 日に東広島市市民文化センターで開催し、154 名の参加があった。また、技術実演会は 10 月 30 日に農事組合法人ファーム・おだの協力のもと、革新的技術緊急展開事業を実施している東広島市小田地区で開催し、134 名の参加があった。

産学官連携活動に関しては、各々の専門知識を活かして農政局や公益財団法人からの委嘱による委員等を務めるとともに、学会支部の役員として地域の学会活動に貢献した。

・領域名：水田作研究領域

・研究グループ名：病虫害研究グループ

・研究担当者：竹原利明、三浦一芸、大崎秀樹、富岡啓介、世古智一、安部順一郎、野見山孝司（関口博之、西森敬晃、高敬喆）

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度主として、①露地や非閉鎖環境の施設での野菜栽培に活用できる土着天敵利用技術の開発、②病害診断と耕種的防除による野菜の環境保全型生産技術の開発、に取り組んだ。①では、飛翔能力を欠くナミテントウの製剤を露地でも使用できるようにするため、天敵温存植物とナミテントウを併用する技術の開発を進め、また、各種天敵を温存できる植物の効果の検証、天敵の捕食歴を解析できる手法の開発等に取り組んだ。②では、現地圃場における生物的土壌消毒の効果を確認するとともに、レタス等野菜類の病害の診断技術・抑制技術の開発を進めた。また、土壌消毒の省力化等のため、緑肥作物を細断と同時に鋤き込むことのできる機械の製作を試みた。

・主な研究成果

①では、スカエボラの混植密度は、作物とスカエボラの比率が 7 : 1 以上であれば十分な飛ばないナミテントウ成虫の温存効果が期待できること、ブラインシュリンブ耐久卵が露地および施設圃場において飛ばないナミテントウ幼虫の発育を補助し、成虫の発生数を増加させるのに有効であることを明らかにした。また、捕食性天敵の餌となる害虫などの種特異的な DNA 塩基配列を利用したプライマーを作成し PCR 法を行うことにより、捕食性天敵の圃場での捕食歴を調査し、捕食性天敵の評価や新しい天敵の探索に活用できる手法を開発した。②では、コマツナ幼苗で生じ

Ⅲ 研究の実施状況

た立枯性病害が、糸状菌の *Rhizoctonia solani* AG-4 HG-III によることを明らかにした。また、緑肥作物を細断と同時に鋤き込むことのできる機械の試作機ができ、圃場での刈り取り・鋤き込み試験により、今後の改善点を抽出することができた。

・広報・普及・産学官連携活動

平成 27 年度農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（実用技術開発ステージ、現場ニーズ対応型）として採択された、「中山間の未利用有機性資源を活用した 人にも環境にもやさしい土壌消毒技術の実用化」の中で、近畿中国四国地域の 4 県等と連携して土壌消毒技術の実用化を図った。また、平成 27 年度事業化を加速する産学連携支援事業・事業化可能性調査に採択され、ワークショップ「露地野菜で使える飛ばないナミテントウ利用法の開発～露地でもトバテン～」を開催し、実用化された飛ばないナミテントウ技術の課題の抽出、ニーズの把握、課題化に向けての指針・方向性を検討した。

・領域名：作物機能開発研究領域

・研究グループ名：大麦育種研究グループ

・研究担当者：吉岡藤治、高橋飛鳥

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、大課題「土地利用型耕種農業を支える先導的品種育成と基盤的技術の開発」の中課題「需要拡大に向けた用途別高品質・安定多収大麦品種の育成」において、①温暖地西部の気候生態に対応した多収で加工適性に優れた大麦品種の育成、②胚乳成分等を改変し付加価値のある新規特性をもつ大麦品種の育成に取り組んだ。①では、ant28 遺伝子を持つプロアントシアニジンフリー系統で加熱後褐変が極めて少なく、穂発芽耐性が有り「イチバンボシ」並の早生・多収の六条裸麦「四国裸 133 号」と、早生・多収で精麦白度が高く硝子率が低い六条裸麦「四国裸 134 号」を奨励品種決定調査に新配付した。長崎県との共同育成による味噌用裸麦系統として「長崎裸 1 号」を品種登録出願予定であったが、諸般の事情により断念し、「長崎裸 3 号」の出願を検討することになった。②では、「バリューチェーン（麦類）プロ」において「四国裸糯 127 号」「仙系 SA0160」などの amo1 遺伝子を持つ系統の品質特性や製粉・製麺加工特性について検討し、「機能性食品開発プロ」においては、「キラリモチ」の多収化・高 β -グルカン化の穂肥・実肥施肥体系を明らかにした。摂取用の麦ごはんレトルトパックを提供したヒト試験では、「キラリモチ」摂食により内蔵脂肪細胞が減少することが明らかになった。また所研究強化費において、 β -グルカン含量に関する数種類の準同質遺伝子系統について追肥による高 β -グルカン化の効果を調査した。さらに「オンデマンド事業」でモチ性裸麦「キラリモチ」「四国裸糯 129 号」「四国裸糯 131 号」の地域適応性栽培試験と加工試験を実施した。加工試験では「キラリモチ」粉を 2 割配合したオール国産粉を使用したホームベーカリー用ミックス粉、「キラリモチ」丸麦 3 割麦ごはんレトルトパックを製造した。

・主な研究成果

β -グルカン含量に関わる様々な遺伝子を持つ裸麦系統（ β -グルカンフリー (bgl)、高リジン (lys3a, lys1)、wax, amo1、破碎澱粉粒 (fra)、lys5h を単独または複合的に有する準同質遺伝子系統）において、 β -グルカン含量に与える実肥の効果を明らかにした。

次年度に「長崎裸 3 号」を品種登録出願する目途が立った。

・広報・普及・産学官連携活動

ベーカリー素材 EXPO(6/16～18)に「キラリモチ」「せときらら」粉入りホームベーカリー用ミックス粉などを出展した。

JA グループ国産農畜産物商談会（3/9～10）では「キラリモチ」の生産地である JA たきかわと連携して、丸麦サンプルと 3 割麦ごはんレトルトパック、「キラリモチ」粉入りホームベーカリー用ミックス粉などを出展した。

医食農連携プラットフォーム研究会（4/28 東京、7/24 北海道、11/14 愛媛）で健康機能性食材としてのもち麦を紹介するとともに、健康レストランや老舗旅館で“もち麦”メニューを試作してもらった。

美作大学等と「要介護高齢者を対象とする『キラリモチ』もち麦ごはんの健康機能性評価」について協定研究を継続し、継続摂取による排便効果および血液検査等についての試験を行った。

Ⅲ 研究の実施状況

8月に新居浜高専からのインターンシップ1名を受け入れた。

- ・領域名：作物機能開発研究領域
- ・研究グループ名：大豆育種研究グループ
- ・研究担当者：高田吉丈、猿田正恭
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①基幹品種のピンポイント改変等による優良品種の育成、②草型や栽培特性の改変による省力超多収品種・系統の開発、③大豆の需要拡大を可能とする新規用途品種・素材の開発に取り組んだ。①では、「サチユタカ」に難裂莢性 (pdh1) やダイズモザイクウイルス (SMV) 抵抗性 (Rsv3、Rsv4)、ラッカイわい化ウイルス (PSV) 抵抗性 (Rpsv1) およびインゲンマメ南部モザイクウイルス (SBMV) 抵抗性 (Rsbmv1) を集積した系統の農業特性を評価し、「サチユタカ」と比較した場合、四国 25 号は裂皮が少ないものの青立が多くやや晩生、四国 28 号、四国 29 号は裂皮が少ないものの百粒重が軽くやや晩生、善系 131 号、善系 132 号は収量性が高いものの青立が多くやや晩生であることを明らかにした。②では、海外品種との交配後代の善系 124 号、善系 125 号、善系 126 号を生産力検定試験に供試したところ、今年度の子実重は「サチユタカ」並〜低収であったが、2カ年平均では「サチユタカ」並〜多収を示した。しかし、倒伏や青立ちが多く、外観品質が劣っていた。葉形に関する NIL の3カ年の結果から、長葉 (ln) 遺伝子あるいはその周辺領域により有意に一莢内粒数を増加させ、裂皮粒率を減少させる効果が認められたが、収量性などその他の形質に関しては有意な差は認められなかった。③では、サポニン組成を改良した「フクユタカ」準同質遺伝子系統の開発を進め、B6F2 系統は「フクユタカ」と同様に倒伏・甚で、その他の形質も似ていた。このうちの 24 個体について、SSR パネルによりグラフ遺伝子型を調査したところ、99.1 ~ 99.7%が「フクユタカ」型であった。グループ A アセチルサポニン欠失の A0 型の遺伝子 Sg-1 が座乗する Chr7 以外では、Chr6、14、20 で「きぬさやか」の領域が残っていた。

- ・主な研究成果

研究成果情報：難裂莢性で耐倒伏性が強く醤油加工に適した大豆新品種「たつまる」

- ・広報・普及・産学官連携活動

兵庫県たつの市で開催された「大豆新品種説明会および醤油醸造仕込み試験見学会」(平成 27 年 5 月 14 日)において、醤油用大豆品種「こがねさやか」「たつまる」の品種特性について紹介した。

滋賀県において行われた農林水産省主催「大豆の需要に応じた生産推進に向けた意見交換会」(平成 27 年 6 月 30 日)に出席し、意見交換を行った。

育成品種の種子提供について、利用許諾に伴う原種苗提供 (5 件:計 263kg)、育成品種の原種苗提供 (4 件) し、品種の普及に努めた。

- ・領域名：作物機能開発研究領域
- ・研究グループ名：食品機能性研究グループ
- ・研究担当者：野方洋一、齋藤武、川瀬眞市朗、阿部大吾
- ・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①農作物成分による脂質代謝の促進作用の解明と利用技術の開発、②加齢に伴う生体防御機能の低下を抑止する農作物成分の作用の解明と利用技術の開発、③かんきつ成分による脂質代謝の促進作用の解明と利用技術の開発、④麦類に関する抗酸化能の評価、⑤需要拡大のための米の未利用成分新規素材の特性解明と利用技術の開発に取り組んだ。①では高脂肪食マウスにロスマリン酸を摂取させ、肥満に関連するホルモンおよびサイトカインの発現量の変化を解析した。この結果、ロスマリン酸摂取により食餌誘導性肥満マウスの血中サイトカインおよび骨格筋の脂肪酸代謝関連遺伝子発現の改善を確認した。ふすまペプチドは急性経口毒性試験での安全性を確認した。②では老化促進マウスにノビレチンを 8 週間摂取後、NK 活性の変動、関連遺伝子の発現解析、およびポリメトキシフラボンの受容体タンパク質の同定を実施した。この結果、ノビレチンは老化促進モデルマウスの NK 細胞活性および細胞傷害関連因子の発現をわずかに上昇させた。その作用機序の一つとして、タンパク質の核外輸送に

Ⅲ 研究の実施状況

関わる Exportin 1 を阻害することにより NK 細胞を活性化させることが示唆された。③ではグレープフルーツの果皮からフラボノイドのボンシリンを分離・精製した。現在、動物に対する効果を検討中である。④では、搗精程度の異なる大麦種子の L- および H-ORAC 値を分析した。この結果、L-、および H-ORAC 関与成分の種子内分布には類似した傾向があり、果皮や糠部分での数値は高いが、60% 搗精麦には全粒の 4 割程度、50% 搗精には 3 割程度の関与成分が分布することが明らかになった。また、大麦種子の焙煎により、ORAC 値が増加することを確認した。⑤では、イオン交換樹脂の利用により、コメ糠抽出物から酸性糖化合物画分を効率的に精製する条件を確立した。

・主な研究成果

ロスマリン酸が骨格筋細胞のエネルギー代謝促進作用に関し、CaMKK および SIRT1 が関与することを見出し、論文を投稿した。大麦・小麦各 10 品種の ORAC 値を明らかにし、中課題主要成果として採用された。開発したコメ糠の酸性糖の抽出・精製法は論文投稿中である。

・広報・普及・産学官連携活動

四国オープンイノベーションワークショップ（産総研主催）で、研究グループの担当課題を紹介し、産総研四国センターとの研究交流の目処を付けた。

産業技術連携推進会議四国地域部会・食品健康産業分科会食品機能性評価研究会に参加し、研究紹介を行い、産総研および四国地域の公設試との交流を深めた。

久留米大学との小麦ふすま由来ペプチドの非アルコール性脂肪性肝疾患改善効果に関する共同研究を実施し、国際研究集会で成果を発表した。

・領域名：傾斜地園芸研究領域

・研究グループ名：カンキツ生産研究グループ

・研究担当者：根角博久、星典宏、中元陽一、國賀武、植山秀紀、向井章恵（井上久義、細川雅敏）

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①軽労化と高品質果実生産を可能とする園地整備技術と運搬作業体系の確立、②栽培・生体情報に基づいた高品質カンキツ生産技術の開発、③ブランド化支援のための技術の実証と体系化に取り組んだ。①では、20°未満の傾斜地において、幅 1.2 m、長さ 10 m の作業道を 10 分で造成することができる作業道造成機を開発・実証し、傾斜度別の作業道造成技術体系を示した。また、開発した園内道設計支援システムを用いて、2ヶ所の樹園地で園内道の設計を行い、地形概要の把握や道路の配置計画がし易い、整備後の道路をイメージし易いとの農家の評価を得た。さらに、循環かんがいを実施する調査園の水源への土砂流入量は、WEPP モデル（土壌侵食量を推定するモデルの一種）によって精度良く予測でき、モデルを用いたシミュレーションにより、調査園では未舗装園内道を舗装することで土砂流入量を約 45% 減少できることを明らかにした。②では、気温データ自動収集装置を活用することにより、個別園地の気温、湿度、日射、降水量及び基準蒸発散量を推定し生産者間等で共有できる、園地環境推定システムを開発した。また、土壌が乾燥し易い園地においては、不断多頻度かん水（継続的に少量かん水する方法）により、精度よく樹体の水分状態を制御できることを明らかにするとともに、1 孔あたり時間吐出量が 1.0L/h の点滴かん水チューブを用いると 2.3L/h のチューブを用いた場合と比べ、土壌の物理特性による湿潤幅の違いが小さくなり均一化できることを Hydrus（土中水分・塩分移動予測汎用プログラム）によるシミュレーションにより明らかにした。また、簡易土壌水分計の 1 日あたり水位低下量がカンキツの乾燥ストレス程度と関連し、その積算値が高糖度果実を生産するための指標になることを明らかにした。さらに、遮光性の異なるマルチシートを作製し、遮光率 99% 以上のシートマルチで春草の除草効果及びササ属雑草などに対する除草効果を確認した。③では、栽培技術の高度利用に関する技術や知見の体系的な活用を図ることにより、極早生ウンシュウミカンや「はれひめ」の高品質安定生産ができることを実証するとともに、園内道設計支援システム、作業道造成技術、ソーラーポンプシステムなどの園地整備技術も合わせて取りまとめた技術カタログ集を作成した。

・主な研究成果

本年度は、「傾斜地果樹園に簡易に作業道を造成する作業道造成機」と「簡易土壌水分計の水位低下量はカンキツが受けている乾燥ストレスの指標となる」という研究成果について、生産現場に普及し役立たせることができるものとなったので、普及研究成果とした。概要は、それぞれ下記のとおりである。

Ⅲ 研究の実施状況

①傾斜地果樹園に簡易に作業道を造成する作業道造成機

作業道造成機は掘削能力を高めた歩行型管理機と土壌の排土および整地を行う排土板から構成される。傾斜 20°未滿の果樹園において、幅約 1.2 m の作業道 10 m を 10 分で造成することができる。

これは、作業道造成機は重機（1.4t クラスのバックホー）を用いるより効率よく造成可能である。また、重機の利用が困難な栽植済みの果樹園で利用可能であり、未栽植時には、階段状に栽植場所を整備することができる。

②簡易土壌水分計の水位低下量はカンキツが受けている乾燥ストレスの指標となる

簡易土壌水分計は、塩ビ管内の水位低下量で土壌の乾燥程度を判定する測器である。簡易土壌水分計の 1 日あたり水位低下量はカンキツが受けている乾燥ストレスの指標となり、水位低下量を積算した値は糖度の指標になる。簡易土壌水分計の 1 日あたり水位低下量を適度に保ち、収穫時の積算水位低下量を目標値まで低下させれば、設定した果実糖度に達するというかん水管理が可能である。積算水位低下量と糖度の関係は園地や品種によって異なるため、個別に目標値を設定する必要があるが、大三島農家園地では、1 日あたり水位低下量を 5 cm 程度に保ち、収穫時の積算水位低下量をおよそ 310cm 以上にすれば、樹体に過度の乾燥ストレスを与えることなく、糖度 13 度以上の「石地」が収穫できる。

・広報・普及・産学官連携活動

「果樹の省力化・軽労化及び安定生産を可能とする技術体系」公開現地検討会（平成 27 年 10 月）を開催して、全国の関係者に紹介した。また、同時開催で平成 27 年度中国四国地域マッチングフォーラム「カンキツ農業における担い手の規模拡大と新規就農者支援による産地力強化を目指して」（平成 27 年 10 月）において、「団地型マルドリ方式」や軽労働で高品質生産を行うための園地整備技術が産地においてどのような取り組みに活用されるかについて紹介し、マッチングを促進した。また、アグリビジネス創出フェア 2015 に出展し、「攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業（うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立）」で取り組んでいる実証研究の内容を広く紹介した。

さらに、平成 28 年 2 月には、「高品質安定生産を支えるマルドリ方式を基軸とした技術カタログ集」を作成し、静岡県静岡市においてカンキツ産地改革フォーラム「産地力強化を支援する生産技術体系と機能性成分（ β -クリプトキサン）含有量保証供給に向けた取り組みの成果」を開催し、実証研究の成果を多くの生産者や関係者を対象に報告した。

・領域名：傾斜地園芸研究領域

・研究グループ名：傾斜地野菜生産研究グループ

・研究担当者：川嶋浩樹、佐藤恵一、松田周、黒崎秀仁、畔柳武司、吉越恆、杉浦誠、添野和雄、矢野孝喜

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、中課題「温暖地施設園芸」に関連する、①パイプハウスの低コストリノベーション施工技術ならびに温暖地における日本型日光温室の導入指針のとりまとめ、②中山間地域資源を活用した効率的な低投入型の環境制御技術の開発とゼロ・エミッション化への技術開発要素の解明、③日光温室をベースとした自然エネルギー活用型栽培装置の開発、節水・減肥栽培技術の確立および中課題「新形質花き創出」に関する④オーキシン合成阻害剤を利用した草姿制御技術等の開発に取り組んだ。①では、日本型日光温室における室温推定モデルを作成するとともに日光温室導入マニュアルを作成した。建設足場資材利用園芸ハウスについて、その適用範囲を寒冷地へ拡大するために陸前高田における実証試験を通じて、内張りの施工技術を開発し密閉性を向上させ、施工マニュアルを作成した。中山間地域の地形に起因するハウスの強風被害の軽減をはかるため、対象地域の平均風速等を推定する風況シミュレーションプログラムを開発した。また、ハウスにおける暖房時の投入エネルギー量の削減を図る上で、多層断熱資材や防風ネットの利用およびハウス内に設置する蓄熱材として水や特殊コンクリートは暖房負荷軽減効果があることを明らかにした。②では、太陽エネルギーにより駆動する日射量対応型自動灌水装置に加え、液肥混入機が不要な CRF（肥効調節型肥料）による養液栽培システムを開発し、トマト 4 段密植栽培において、従来の養液栽培と同等の可販収量が得られることを明らかにした。また、太陽エネルギーにより、巻き上げ換気や遮光カーテンを稼働させハウスの環境制御が可能であることを明らかにする一方、制御機器の待機電力が消費電力量の約 90% を占めることなどの課題を示した。③では、循環扇、簡易設置型パッドアンドファン等のリノベーションと杉皮培地利用バツ

Ⅲ 研究の実施状況

クと日射量対応型自動灌水装置の導入した技術体系により、夏秋トマト作で慣行(簡易雨よけ)の約 1.5 倍(15.7t/10a)を得ることが可能であることを実証した。④では、PPBo と BBo がグラジオラス小花の IAA 生合成を阻害していることを確認した。また切花においては鮮度保持の効果は現れないものの、PPBo、Kyn 処理による蕾の肥大、組織老化抑制効果が確認されたことから、IAA 生合成阻害が関与している可能性を示した。

・主な研究成果

中山間地域の地形条件を考慮して強風域を推定する風況シミュレーションを開発した(研究成果情報「中山間地における平均風速および突風率の推定法」)。本成果で開発した風況シミュレーションプログラムは、標高や土地利用、気象データと組み合わせることにより、中山間地の任意の地点における過去の平均風速および突風率を推定することができ、ハウスの強風被害軽減に資するものである。日本型日光温室における、室温推定モデルを作成し技術的な検討が行える環境を整えるとともに、日本型日光温室導入マニュアルを作成した。日本型日光温室で利用している多層断熱資材(布団資材)については引き続きマニュアルの配布等で普及を進め、農林水産省事業へも採択されるなど普及が進みつつある(普及面積は約 10ha 以上)。さらに、足場資材利用園芸ハウスは、設置のための問い合わせが本年度だけで 10 件以上あり、寒冷地における実証結果を踏まえて施工マニュアルを作成した。適用範囲を寒冷地にまで広げさらなる普及を図る。ハウス内の環境改善技術として、中課題 141b0 と連携して「温室における循環扇の設置マニュアル」を、また暑熱対策として「細霧ノズル付循環扇を用いた中山間地域向け簡易細霧冷房システムの利用法」を作成し技術の普及を図った。一方、パイプハウスの補強対策として、開発したダブルアーチ化補強技術への問い合わせも増えておりマニュアル等を配布して普及を進めている。

・広報・普及・産学官連携活動

広報連携重点的促進費により、近中四農研セミナー「布団資材の性能評価手法・規格の確立に向けた技術的課題」を開催し、産官学の各機関が集まり布団資材の性能評価手法や規格化を図るための基準等を確立するための検討を行った。また、民間企業、公設試験研究機関が参集した近中四農研セミナー「温室の省エネルギー技術の現状と防風施設の活用」では、中小規模の温室を対象とした省エネルギー技術の現状、温室の熱収支解析およびメッシュ農業気象データの活用方法について情報の共有を図った。その他、府県などが開催する講演会、勉強会の招きに積極的に応じ、成果の普及に努めた。サイエンスカフェ、2016 アグリビジネス創出フェアへの出展等の広報活動を行った。香川大学と研究試料提供契約を締結し、ヤーコン地上部を研究試料として提供した。ヤーコン種苗の許諾先(1 件)に対して、ヤーコン種苗の生産および送付を実施した。民間企業との協定研究 5 件を実施した。新居浜高専(2 名)、高知大(1 名)および普通寺市立東中(3 名)からインターンを受け入れた。

・領域名：傾斜地園芸研究領域

・研究グループ名：園芸経営研究グループ

・研究担当者：棚田光雄、齋藤仁藏、堀江達哉

・研究活動の概要

当研究グループでは、本年度、①「団地型マルドリ方式」の運営方法の策定、②マルドリ方式を軸とするカンキツ作経営モデルの作成、③カンキツ作及び施設トマト作の多角化型ビジネスモデルの作成に取り組んだ。①では、現地実証試験に参加するカンキツ作農家と、「団地型マルドリ方式」を導入している先進事例の実態を調査し、事例の類型化とその展開を図式化した。具体的には、組織化のプロセスや運営状況から「団地型マルドリ方式」を「地域集団型」「既存施設拡張型」「担い手選択型」の 3 タイプに類型化した。これらの類型は、地域条件に応じた導入・運営方法を検討する際の参考にすることができる。②では、線形計画法によりカンキツ作経営モデルを作成し、経営内における中晩柑比率やマルドリ方式導入比率に着目した経営シミュレーションを行い、経営単位でマルドリ方式導入の経済効果を推計した。その結果、温州ミカン・中晩柑両方にマルドリ方式を適用する中で、販売単価の上昇と同方式の導入比率の拡大が組み合わさることにより、目標所得(専従者 1 人当たり 600 万円)が達成された。③では、カンキツ作において全国に先駆けて農産加工に取り組む S 農園の経営調査に基づき、加工事業の成功要因を分析するとともに、事業活動がもたらす地域的経済効果を検討した。ここでは、原料の厳選等により差別化を積み重ね、ミカン高級加工品市場をつくり出すという先駆的なビジネスモデルを構築したことが成功要因であり、ビジネスモデルの構築によって、周辺農家の追加収入の確保、雇用の創出等の波及効果が発現していることを示した。また、トマト加工

Ⅲ 研究の実施状況

の事例分析によって、ビジネスを構成する要素としての顧客価値創造、利益創出、価値提供プロセスを有機的に結びつけて事業活動を展開している点が先進事例に共通することを確認した。

・主な研究成果

「団地型マルドリ方式」における「既存施設拡張型」の事例を分析し、第1導入者が共同利用への展開を許容する要因として、初期投資の負担が軽微であること、マルドリ方式は利用調整が容易であること、産地力強化が自身の利益につながることを示した。併せて、同事例をモデルケースとして、中核的生産者の存在、段階を踏んだ普及、余裕ある施設仕様などの「団地型マルドリ方式」の導入条件を明らかにした。また、周辺農家や地元食品メーカー等と連携してカンキツ作での6次産業化を推進するS農園の取り組みを「地域戦略」の具体例として分析し、「地域戦略」として成功するための条件として、産地条件を活かしたビジネスモデルの構築とその成長、地域で得られた利益を地域に落とすような循環を考慮した主体間の関係形成、人材の集積・活用に関わるマネジメントの重要性を指摘した。

・広報・普及・産学官連携活動研究

「マルドリ方式」の経済性・有効性を高めるためのポイント」「団地型マルドリ方式のタイプと取り組みのポイント」を分かり易く紹介した冊子を現地検討会等において生産者・指導機関に広く配布した。また、「団地型マルドリ方式」について、現地実証試験による具体的な取り組みを通して普及促進を図った。

・領域名 環境保全型野菜研究領域

・研究グループ名 生産基盤研究グループ

・研究担当者 伊藤陽子、福永亜矢子、佐藤恵利華

・研究活動の概要

・土壌病虫害診断と耕種の防除技術開発による野菜の環境保全型生産システムの構築

ハウレンソウ萎凋病の防除のため、カラシナ鋤込み土壌還元消毒を現地農家圃場において実証試験を行い、防除効果、出荷量等を調査し本法の有効性を確認した。

・次世代型土壌病害診断・対策技術の開発（農食事業）

ベビーリーフの立枯性病害について病原菌を同定し、セルトレイを用いた病原菌密度の簡易検定法を開発、利用マニュアルを作成した。

・共生ネットワークの分子基盤とその応用展開（JST ACCEL）

主にリン肥料の削減を目標に、ダイズに対する菌根菌資材の有効性について場内圃場を用いて試験を行ったが、土着菌の影響が大きく、効果の確認はできなかった。次年度、砂地の圃場においてネギを作付け予定である。

・有機農業を特徴づける客観的指標の開発と安定生産技術の開発（新有機）

ハウレンソウ萎凋病を対象に、ふすま加用土壌還元消毒を行い、処理時水分量の差が防除効果に大きな影響を与えることを圃場レベルで実証し、現場での不完全処理の原因の一つを明示した。

・主な研究成果

ベビーリーフ類の立枯性病害の病原菌を同定し、病原追加を行った。また、対策マニュアルを作成した。

現地圃場でのカラシナ鋤込み土壌還元消毒によるハウレンソウ萎凋病防除効果について、問題別研究会等で発表した（現在、論文執筆中）

・広報・普及・産学官連携活動

第5回根こぶ病研究会を開催し、根こぶ病研究の最新情報を交換するとともに、近中四管内のみならず全国で発生している問題を共有した。

月1回放送の地域FM局放送の「農業のライフアンドワーク」に出演し、消費者、生産者に広く研究内容を広報した。

青野圃場で継続中の有機肥料連用圃場の土壌について、3件のサンプル請求があり、うち1件について、学会発表された。

・領域名：環境保全型野菜研究領域

・研究グループ名：野菜生産研究グループ

・研究担当者：生駒泰基、村上健二、吉田祐子、山崎敬亮

Ⅲ 研究の実施状況

・研究活動の概要

①作物生育制御と病害虫防除に有効な光質環境の解明と制御技術の開発

高温期ハウレンソウにおける遮光栽培において、草丈 20cm 程度で遮光資材を除去し、5～8 日経過後の晴天が 2 日続いた翌日の午前中に収穫することにより、出荷基準を満たして硝酸含量が低減し、アスコルビン酸含量、株重・葉色が向上することを明らかにした。春から秋にかけての日射量が多い時期に、紫外域の光を赤色域の光に変換するフィルムを被覆資材としてハウレンソウ栽培に使用すると、慣行の紫外線カットフィルム条件に比べ生育が促進し、新鮮重、乾物重が増加し、草丈の伸長が優れることを明らかにした。イチゴの病虫害抑制において UV-B 光と緑色防蛾灯を併用照射してもイチゴ花成の抑制は見られず、うどんこ病防除効果も維持されることを確認した。また、青色 LED の照射によって花成促進効果が認められたが、品種によって効果に差異があることが明らかとなった。赤外線遮断機能を持つ顔料を練り込んだ糸で織った遮熱ネット資材は既存遮熱資材より昇温抑制効果が高く、夏季ハウレンソウの生育を促進することを明らかにした。

②野菜の高品質・安定生産につながる技術の開発に取り組んだ。

気化潜熱利用培地冷却技術と無育苗栽培法の組合せに適した品種は「かおり野」、「紅ほっぺ」であり、培地冷却により頂果房の分化が早期に安定化し、初期収量と栽培後期の収量が増加することを確認した。培地冷却の適期は 8 月上旬から 10 月上旬、窒素中断は 8 月上旬が適することを明らかにした。イチゴの促成栽培の年内収量の安定化や作期・労働の分散が図られる花芽分化誘起処理技術である間欠冷蔵処理において、間欠冷蔵処理期間の非低温処理時には受光量が多いほど、花芽分化を促進する効果が見られた。2 回目の処理終了後の 3 日間に受光量が少ないと花芽分化が遅れる可能性が示唆された。処理効果を安定化させる資材として、散乱光資材が有効であることを明らかにした。簡易設置型 PF 装置を用いたトマト育苗装置を開発し、トマトセル苗をポット移植し育苗装置内で二次育苗することで、セル苗を直接定植するより収量が増加し、収穫開始時期が早まることを明らかにした。

・主な研究成果

「高温期ハウレンソウにおける遮光栽培において、草丈 20cm 程度で遮光資材を除去し、5～8 日経過後の晴天が 2 日続いた翌日の午前中に収穫することにより、出荷基準を満たして硝酸含量が低減し、アスコルビン酸含量、株重・葉色が向上する」ことを明らかにし、普及成果情報「高温期ハウレンソウの収穫前遮光除去・晴天日遭遇後収穫による品質向上技術」として、提出した。

春から秋にかけての日射量が多い時期に、紫外域の光を赤色域の光に変換するフィルムを被覆資材としてハウレンソウ栽培に使用すると、慣行の紫外線カットフィルム条件に比べて生育が促進され、新鮮重、乾物重が増加し、草丈の伸長が優れることを明らかにした。

・広報・普及・産学官連携活動

近畿地域マッチングフォーラム「中山間地域や都市近郊においてイチゴ栽培等で高収益生産を実現するために」において、「高設イチゴ栽培における気化潜熱を利用した低コスト培地冷却技術」について紹介し、技術移転のためのマッチングを行った。「FM いかる（綾部市のコミュニティ FM）」の帯番組『農業のライフ＆ワーク』に出演し、各研究員が担当している開発技術や農家から相談の多い事柄について紹介を行った。

・領域名：畜産草地・鳥獣害研究領域

・研究グループ名：黒毛和種放牧飼料研究グループ

・研究担当者：山本直幸、大谷一郎、大島一修、柴田昌宏、後藤裕司、松本和典、堤道生

・研究活動の概要

1. 牧草等の自給飼料の特性に基づく草地管理技術の開発

①放牧用草種の生育特性解明と造成技術の開発

中国四国地域での放牧用草種として、暖地型シバ草種「セントオーガスチングラス」の生育特性を他のシバ型草種との比較で解明し、チカラシバ優先地への導入など、当地域において放牧用の草種として利用可能性が高いことを明らかにした。

② LCA を用いた肉用牛生産システムへの放牧導入に関する環境影響評価

放牧の導入などによる自給飼料多給型肉用牛生産システムについて、ライフサイクルアセスメントの手法を用い

Ⅲ 研究の実施状況

た環境影響評価を行い、有機畜産を導入した肉用牛生産システムでは概ね全体として環境影響が低減され、特にエネルギー消費量でその低減幅が大きいことを明らかにした。

2. 肉用繁殖牛の栄養動態・繁殖性に基づく飼養管理技術の開発

①肉用繁殖牛の栄養動態・繁殖性に基づく飼養管理技術の開発

高糖分飼料稲 WCS 給与を取り入れた、繁殖性を向上させる飼養管理手法については、黒毛和種繁殖牛において分娩後の良好な繁殖成績を維持するための条件を提示した。また、黒毛和種育成牛の発育性に関しては、粗飼料として微細断「たちすずか」WCS だけを制限給与した区での 8.5 ヶ月齢体重と DG が対照区より有意に大きいことを明らかにした。

②黒毛和種繁殖牛における繁殖成績向上のための飼養給与プログラムの開発

「たちすずか」WCS 給与においては、併用する飼料の組み合わせで NFC/DIP 比を 5.6 ~ 6.9 に調整することにより、過剰排卵処理後の胚採取成績が改善でき、BUN、血中アンモニア、BHB、糞 pH はその指標として活用できることを明らかにした。

3. 自給飼料資源を活用した牛肉の評価・生産技術の開発

①自給粗飼料を活用した黒毛和種去勢牛の肥育技術の開発

黒毛和種肥育牛において、肥育後半に放牧と「たちすずか」WCS 多給を組み合わせた肥育技術により、枝肉重量等の生産性は濃厚飼料多給肥育と同等で、肉質は 2 ~ 3 等級の適度な脂肪交雑となり、ビタミン類は増加することを明らかにした。

②耕作放棄地を活用した黒毛和種経産牛の「放牧仕上げ熟ビーフ」の開発

熟ビーフモモ肉（半腱様筋）は 3.84mg/100g の亜鉛と、2.13mg/100g の鉄を含むことを明らかにした。牛肉の消費において、消費者に分かりやすい必須微量元素の情報（鉄分（不足すると貧血）、亜鉛（不足すると味覚障害））が提示できた。

4. 牛の発情微弱化要因の解明に基づく発情発現明瞭化方策の開発

黄体ホルモン製剤とエストロジオール製剤をベースとした発情・排卵誘起処置の適用により、高率で発情と排卵を誘起でき、誘起した排卵での人工授精受胎率は自然発情群と同等以上だった。

・主な研究成果

1. 牧草等の自給飼料の特性に基づく草地管理技術の開発

中国地域での晩秋期以降の放牧期間延長を可能とする草地管理技術とそれに基づく黒毛和種繁殖牛の飼養管理技術に関しては、チカラシバが優占する草地において、非選択性除草剤を散布し、枯死後に刈払いを行い、セントオーガスチングラスのセル苗を 50cm 間隔に移植すると、除草剤処理後のチカラシバの再生は認められず、苗移植区では 10 月にはセントオーガスチングラスの被度が 33% になり、積算優占度 1 位となることを明らかにした。また、自給粗飼料多給型肉用牛肥育システムにおける環境影響評価に関しては、有機畜産導入後の肉用種去勢牛の枝肉重量あたりの環境影響は、慣行法と比較して、富栄養化ポテンシャル以外の項目で低減され、有機畜産導入前後の比較では、温室効果ガス排出量、エネルギー消費量および Eco-index が有機畜産導入後に低減されるなど、有機畜産を導入した肉用牛生産システムでは概ね全体として環境影響が低減され、特にエネルギー消費量でその低減幅が大きいことを明らかにした。

2. 肉用繁殖牛の栄養動態・繁殖性に基づく飼養管理技術の開発

分娩後の繁殖機能回復を図るための飼養管理手法に関しては、黒毛和種繁殖牛に「たちすずか」微細断 WCS とライ麦を併用給与し、補助飼料としてハイキューブ、配合飼料を用いる飼養管理により、60% 以上の個体で 1 年 1 産が達成できることを明らかにし、各飼料の給与量を分娩後の良好な繁殖成績を維持するための目安として提示した。また、「たちすずか」WCS を日量 5kg とした飼料給与体系では、併用する飼料の組み合わせで NFC/DIP 比を 5.6 ~ 6.9 に調整することにより、過剰排卵処理後の胚採取成績が改善でき、BUN、血中アンモニア、BHB、糞 pH はその指標として活用できることを明らかにした。さらに、地域自給飼料資源を活用した飼養体系における黒毛和種育成牛の発育性に関しては、粗飼料として微細断「たちすずか」WCS だけを制限給与した期間中の発育量が、去勢と雌共に 8.5 ヶ月齢体重と DG において対照区より有意に大きいことを明らかにした。

3. 自給飼料資源を活用した牛肉の評価・生産技術の開発

Ⅲ 研究の実施状況

放牧、飼料用稲「たちすずか」等の地域自給飼料資源を活用して生産した黒毛和種牛肉の特性に関しては、肥育後半前期に5ヵ月間放牧、後半後期に4ヵ月間、飼料イネ WCS 給与する条件下で、枝肉重量等の産肉性は濃厚飼料多給肥育と同等であった。肉質は、2～3等級の適度な脂肪交雑となり、βカロテン、αトコフェロールの増加が認められた。飼料自給率は22ポイント向上し、飼料代は約10%削減が可能となった。また、「熟ビーフ」(半腱様筋、腰最長筋)中に含まれる必須微量元素である亜鉛(不足すると味覚障害)と鉄(不足すると貧血)の量を示すことで、消費者に分かりやすい成分的な指標として活用できることを明らかにした。

4. 牛の発情微弱化要因の解明に基づく発情発現明瞭化方策の開発

黄体ホルモン製剤とエストラジオール製剤をベースとした発情・排卵誘起処置を、分娩後40日以降の黒毛和種繁殖牛に適用することにより、高率で明瞭な発情と排卵を誘起することができた。誘起した排卵時の人工授精受胎率、1年1産達成率は自然発情群と同等以上だった。

・広報・普及・産学官連携活動

農食事業(画期的WCS用稲「たちすずか」の特性を活かした微細断収穫調製・給与体系の開発実証)の現地検討会(11/19-20)を開催した。

革新的事業(国産飼料の高度活用による資源循環型、牛肉生産システムの実証研究)の進捗報告、試食会、現地視察会(8/3-4)を開催した。

革新的事業(国産飼料の高度活用による資源循環型、牛肉生産システムの実証研究)の中間発表会および現地視察(11/4-5)を開催した。

平成27年度近畿地域飼料増産シンポジウムにおいて、「放牧および飼料イネ等の粗飼料の複合給与による放牧肥育技術の開発、実証」の演題で基調講演(11/16)を行った。

ウシの受胎率改善および受胎性評価に関する技術シーズ研究会(11/16-17)において、「黒毛和種繁殖牛へのたちすずかWCS給与」の演題で話題提供を行った。

大田市主催の消費者の集いで話題提供した。

アグリビジネス創出フェア(11/19-20)に出展した。

広島県立総合技術研究所畜産技術センター、岡山大学、株式会社タカキタ、松原牧場、島根県立農林大学校、北里大学、九州沖縄農業研究センター、島根県中山間地域研究センター、島根県西部農林振興センター、島根大学、ホリカフーズ株式会社、新潟大学、あすかアニマルヘルス株式会社、畜産草地研究所、熟ビーフ連絡会等と連携、共同して研究を行った。

・領域名：畜産草地・鳥獣害研究領域

・研究グループ名：鳥獣害対策研究グループ

・研究担当者：江口祐輔、上田弘則、堂山宗一郎

・研究活動の概要

「野生鳥獣モニタリングシステムおよび省力的で効果の高い侵入防止技術開発」

鳥獣被害の低減および被害対策の超低コスト化を図るため野生鳥獣の行動や生態の把握と、それにもとづく効果的な侵入防止対策技術の開発と効果検証を行う。木登りを得意とする野生動物に対する侵入防護柵はこれまでに様々な改良や開発を行ってきた。しかし、柵の支柱そのものに動物の行動制御効果を持たせることはなかった。そこで、本研究では、実験施設内に柱を設置し、その最上部に報酬飼料を置くことで野生動物の登りの行動特性を明らかにする。さらに、支柱に行動制御処理を施し、その効果を検証する。また、野生動物の登坂能力についても測定をおこなった上で登坂および歩行制御技術を開発した。

ニホンザルによるシイタケの被害が全国で問題となっているホダ場は林地内にあることからサルが木々を伝わり新有するので、有効な柵の設置が困難である。そこで、柵を用いずにサルからシイタケを守る技術を開発する。

シカによる農業被害の対策として、捕獲を中心とした対策が行われてきたが、被害は減少していない。そのため、農地周辺の環境改善や防護柵による侵入防止、加害個体を選択的に捕獲するといった複数の対策を組み合わせた総合

Ⅲ 研究の実施状況

対策の実施が、シカにおいても求められている。総合対策を構築する上では、対象となる動物種の行動特性や運動・感覚・学習能力等に関する知見が非常に重要となるが、シカを対象としたこれらに関する研究は少なく、知見は非常に不足している。シカの行動特性や能力を把握することにより、既存のものより経済的かつ効果の高い侵入防止柵や効率的な加害獣捕獲手法の開発が期待できる。そこで、シカ侵入可能な入口サイズの測定試験を行った。

「地域で実践可能な効果的対策プログラムの確立」

冬季に発生するイノシシの寒地型牧草への被害は、寒地型牧草そのものへの被害のほか、餌の少ない冬にイノシシの餌を供給することで周辺の農作物の被害を助長してしまうという問題もある。そこで、牧草種ごとのイノシシの採食圧の違いに基づいて被害を受けにくい牧草種を選定し、その草種利用による耕種的な被害軽減効果を明らかにする。

・主な研究成果

「野生鳥獣モニタリングシステムおよび省力的で効果の高い侵入防止技術開発」

開発したニホンザルの登り行動の制御技術を現場へ普及した。これまでに開発した野生動物の登坂および歩行制御技術のデータの積み重ねと実証を行い、行動制御効果を確認した。

ホダ木に通電することで、サルに電気ショックを与えることができ、被害軽減効果が確認できた。電気ショックを受けずにシイタケを採食されることもあったが、被害程度は軽微であった。

飼育ホンシュウジカは成獣メスで横 17.5cm × 縦 120cm、横 200 × 縦 27.5cm の大きさの入口から侵入可能であり、0 歳例の幼獣では横幅 15cm × 縦幅 120cm、横幅 220cm × 縦 20cm の大きさの入口から侵入可能であることを明らかにした。

「地域で実践可能な効果的対策プログラムの確立」

牧草種ごとのイノシシの採食圧の違いに基づいて、耕種的な被害軽減効果を調査した結果、イノシシの出没頻度はイタリアンライグラス試験区よりもライムギ試験区で低く、被害割合も 5 種類の寒地型牧草種の中でライムギが最も低かった。ライムギ単播草地では実規模面積でイノシシ被害を抑制できることを明らかにした。しかし、ライムギイタリアンライグラス混播ではイノシシによる採食被害軽減効果は認められないことを明らかにした。

・広報・普及・産学官連携活動

得られた成果は応用動物行動学会、国際応用動物行動学会、国際哺乳類学会において発表した。現場において即座に応用できる成果については各地域で行う研修会において農家や普及員に対して直接指導を行った。また、「野生鳥獣モニタリングシステムおよび省力的で効果の高い侵入防止技術開発」については、これまでに開発した野生動物の登坂および歩行制御技術を現場へ移転するために（株）テザックと協定研究契約を締結した。「地域で実践可能な効果的対策プログラムの確立」については、イノシシの牧草地被害対策 Q & A を作成した。

IV 平成 27 年度研究予算課題一覧

I 食料安定供給のための研究開発

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
1 地域の条件・資源を活かした高生産性水田・畑輪作システムの確立		
(1) 新世代水田輪作の基盤技術と低コスト生産システムの構築		
ア 地域の条件に対応した低コスト・高生産性水田輪作システムの確立と実証		
(ア) 中小規模水田に対応した生産性向上のための輪作システムの確立		
a 地下水位制御システムを利用した安定多収栽培技術の開発		
(a) 地下水位制御システム圃場における土壌中の水分・養分の動態解明	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 地下水位制御システムを利用した水稻の節水型直播栽培技術の開発	輪作体系研究グループ 機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 大豆の不耕起密条無中耕無培土栽培技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 小麦と大麦の安定多収高品質栽培技術の開発	輪作体系研究グループ 機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) 水源不足圃場での地下水位制御システム活用効果の実証	輪作体系研究グループ 機械作業・情報研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(f) 小麦カドミウム濃度低減栽培技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(g) 水源不足圃場での地下水位制御システム活用効果の実証	輪作体系研究グループ 機械作業・情報研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
b 水稻直播・麦・大豆の省力・低コスト栽培管理技術の開発		
(a) 食用稲・新規需要米の乾田直播栽培の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般) 自給飼料プロ
(b) 大豆の狭畦無中耕無培土栽培技術の開発および現地実証	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 大豆の青立ち等被害の防止技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 播種作業における播種機調整の半自動化	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) 簡易耕による麦類・大豆栽培技術の開発	輪作体系研究グループ 機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
(f) 低草高型草種による畦畔法面の省力的管理技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(g) 水稻乾田直播栽培における新規除草体系の確立	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般)
(h) 水稻直播栽培における出芽・苗立ち安定化技術の開発	輪作体系研究グループ	運営費交付金(一般) 科研費、自給飼料プロ
(i) チゼルプラウとバーチカルハローシーダーを活用した麦・大豆作の省力・安定生産技術の開発	輪作体系研究グループ 農地・水環境研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(j) 温暖地大豆作における新規選択性除草剤による初期薬害の大豆品種間差異および帰化アサガオ類に対する新規選択性除草剤の除草効果の解明	輪作体系研究グループ 機械作業・情報研究グループ	運営費交付金 収益力向上
(k) 大豆晩播による外来難防除雑草防除技術の開発	農地・水環境研究グループ 機械作業・情報研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(l) 芝生畦畔転換技術の実証	輪作体系研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(m) 大豆品種「あきまる」の晩播狭畦栽培と味噌加工品質評価	輪作体系研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(n) 畦畔法面の植生転換による管理作業の省力化	輪作体系研究グループ	再エネ
(o) 栽植密度変更処理がダイズの青立ちに及ぼす影響	輪作体系研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(p) 水稻湛水直播栽培における種子近傍土壌微生物相変化と出芽性に関する研究	輪作体系研究グループ	科研費
(q) 遮光処理がダイズの青立ちに及ぼす影響	輪作体系研究グループ	運営費交付金(所研究活動強化費)

IV 平成 27 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(r) シバ (Zoysia japonica) の二重ネット工法を用いた 植栽技術の普及促進のための広報活動	輪作体系研究グループ	運営費交付金 (広報連 携重点的促進費)
(s) 種子の出芽性向上を目指したプライミング処理効果 の検証	輪作体系研究グループ	助成金
(t) 畦畔除草ロボット利用技術の実証	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(u) 中山間の急傾斜法面に対応した小型除草ロボット開 発	カンキツ生産研究グループ	補正緊急展開
c 中小規模水田における高生産性輪作体系の現地実証と 経済性評価		
(a) 地下水位制御システムを導入した高生産性輪作体系 の現地実証と経済性評価	輪作体系研究グループ 機械作業・情報研究グループ 農地・水環境研究グループ 病虫害研究グループ	運営費交付金 (一般)
(2) 土地利用型耕種農業を支える先導的品種育成と基盤的技術 の開発		
ア 米粉等加工用・業務用水稲品種の育成及び米の未利用成 分利用技術の開発		
a 気象変動に対応し、低コスト栽培に適した業務用向け 主食用水稲品種の育成		
(a) 温暖地西部向き水稲品種の育成	水稲育種研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) 低カドミ吸収イネ品種の実用化に向けた系統育成	水稲育種研究グループ	運営費交付金 (一般)
(c) 全国で活用できる遺伝子発現予測システムの開発と 農業形質予測への展開	水稲育種研究グループ	次世代ゲノム
(d) 胴割れ米発生率が低い高温耐性品種の育成	水稲育種研究グループ	気候変動
(e) ジーンバンク事業	水稲育種研究グループ	ジーンバンク
(f) 日本水稲の重要遺伝子とは?	水稲育種研究グループ	科研費
(g) 水稲新品種「恋の予感」普及促進に向けた種子増殖 の取り組み	水稲育種研究グループ	運営費交付金 (広報連 携重点的促進費)
b 低コスト生産を可能とする米粉パン、米粉麺用等加工 向け多収水稲品種の育成		
(a) 加工向け多収水稲品種の育成	水稲育種研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) 温暖地に適した米粉用多収水稲品種の開発	水稲育種研究グループ	米粉プロ
(c) 温暖地西部に適した業務加工用多収品種の開発	水稲育種研究グループ	バリュープロ
(d) 酒米の醸造適性 (成分) 分析	水稲育種研究グループ	補正緊急展開
c 米粉利用などに適した穀粒成分特性の解明と利用技術 の開発		
d 需要拡大のための米の未利用成分新規素材の特性解明 と利用技術の開発		
(a) 需要拡大のための米の未利用成分新規素材の特性解 明と利用技術の開発	食品機能性研究グループ	運営費交付金 (一般)
イ 水稲収量・品質の変動要因の生理・遺伝学的解明と安定 多収素材の開発		
a 収量性 QTL の収量向上効果の検証と多収水稲の理想型 モデルの確立		
(a) 収量ポテンシャル向上に適した穂のシンク構造の評 価	栽培管理研究グループ	運営費交付金 (一般)
b 気象変動に対する生育・品質・収量等の安定化に関与 する遺伝的要因と生理生態機構の解明		
(a) 収量安定性に寄与する 1 穂粒数の変動性の解析	栽培管理研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) 登熟期の高温が水稲胚乳組織の発達・老化に及ぼす 影響の解明	栽培管理研究グループ	運営費交付金 (一般) 科研費
(c) 気温上昇による作物生産変動と対策技術の開発 (水 稲の高温登熟性の向上のための対策技術の開発)	栽培管理研究グループ	気候変動

IV 平成 27 年度 研究予算課題一覧

研究課題名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
ウ 気候区分に対応した用途別高品質・安定多収小麦品種の育成		
a 栽培地域の気象生態に対応した高品質な用途別小麦品種の育成		
(a) 普通小麦の有用遺伝子の導入によるデュラム小麦の国内安定生産を可能にする育種素材の開発	小麦育種研究グループ	運営費交付金 (先行的・試行的研究促進)
(b) 国産のデュラム小麦品種の栽培と純国産パスタ製品の開発	小麦育種研究グループ	農食研究推進事業
(c) 温暖地及び暖地向けパン・中華めん用小麦品種の育成	小麦育種研究グループ	バリュープロ
(d) ジーンバンク事業費/植物遺伝資源部門 (特性評価・再増殖)	小麦育種研究グループ	ジーンバンク
(e) 子実へのカドミウムの蓄積性が低い小麦系統「中国 165 号」の品種化に向けたカドミウム蓄積性、赤かび病抵抗性の継続的評価	小麦育種研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
b 小麦の品質向上技術の開発		
(a) 品質関連遺伝子型解析とグルテンポリマー解析による国内品種系統の加工適性の評価	小麦育種研究グループ	バリュープロ
(b) 新たな実需ニーズに応える寒冷地・多雪地向け新需要大麦品種等の育成と普及	小麦育種研究グループ	農食研究推進事業
c DNA マーカー等の開発・利用による抵抗性遺伝子の集積と複合障害抵抗性素材の開発		
(a) 子実カドミウム低蓄積性小麦系統「中国 165 号」の改良に向けた育成系統のカドミウム蓄積性評価	小麦育種研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
エ 需要拡大に向けた用途別高品質・安定多収大麦品種の育成		
a 栽培地域の気候生態に対応した多収で加工適性に優れた大麦品種の育成		
(a) 栽培地域の気候生態に対応した多収で加工適性に優れた大麦品種の育成	大麦育種研究グループ	運営費交付金 (一般) ジーンバンク
b 胚乳成分等を改変し、付加価値のある新規特性をもつ大麦品種の育成		
(a) 良色相・高整粒歩合の高βグルカン含量の大麦品種の育成	大麦育種研究グループ	バリュープロ
(b) もち性大麦品種の高位安定化栽培技術の開発	大麦育種研究グループ	運営費交付金 (機能性食品プロ)
(c) 要介護高齢者を対象とする「キラリモチ」もち麦ごはんの健康機能性評価	大麦育種研究グループ	運営費交付金 (一般)
(d) 地域への適応性試験、加工適性試験の実施 (モチ性裸麦)	大麦育種研究グループ	オンデマンド事業
(e) 実肥が裸麦育成系統のβ-グルカン含量に及ぼす影響の解析	大麦育種研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(f) 「キラリモチ」などの国産「もち麦」商品化促進と普及支援 (新しい機能性食品表示に応じた国産「もち麦」品種の供給体制構築と商品化支援)	大麦育種研究グループ	運営費交付金 (広報連携重点促進費)
オ 気候区分に対応した安定多収・良品質大豆品種の育成と品質制御技術の開発		
a 基幹品種のピンポイント改変等による優良品種の育成		
(a) ダイズの難裂皮性に関する QTL 解析	大豆育種研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(b) 水田転換畑における高度干ばつ耐性大豆育種素材の開発	大豆育種研究グループ	気候変動
(c) 中小粒で高蛋白な味噌醤油原料用品種等の育成	大豆育種研究グループ	バリュープロ
(d) 基幹品種のピンポイント改変等による優良品種の育成	大豆育種研究グループ	運営費交付金 (一般)
(e) ジーンバンク事業	大豆育種研究グループ	ジーンバンク

IV 平成 27 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
b 草型や栽培特性の改変による省力超多収品種・系統の開発		
(a) 草型や栽培特性の改変による省力超多収品種・系統の開発	大豆育種研究グループ	運営費交付金(一般)
c 大豆の需要拡大を可能とする新規用途品種・素材の開発		
(a) 大豆の需要拡大を可能とする新規用途品種・素材の開発	大豆育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(3) 農業技術の経営的評価と経営管理システムの確立		
ア 新技術の経営的評価と技術開発の方向及び課題の提示		
a 農業経営及び地域農業の動向解析に基づく技術開発方向の提示		
(a) 近畿中国四国における農業経営及び地域農業の動向解析に基づく技術開発方向の提示	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
b 経営部門別新技術及び技術体系の経営的評価と普及手法の提示		
(a) 中山間水田作地域における先進的経営の評価と課題解明	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 新技術・新品種の導入・普及が地域に及ぼす経済効果の解明	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 国土資源を活用した酪農・肉用牛経営のコスト低減の可能性と条件	農業経営研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(d) 日本型アグロパストラルの成立条件の解明	農業経営研究グループ	科研費
(e) 畜産経営における開発技術の経営評価と普及手法の提示	農業経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(f) 畜産クラスターによる中山間資源の有効活用と地域所得増加の可能性と技術開発課題	農業経営研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(g) 1.ITを活用した精密管理技術体系による酪農経営の評価と普及可能性の検討、3.肉用牛経営における地域飼料資源活用型技術の経営評価と普及可能性の検討	農業経営研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(h) 関東甲信越地域の気象資源とソルガム新品種を活用した省力多収飼料作物栽培技術の開発	農業経営研究グループ	農食研究推進事業
(i) 中山間地域水田作における複合経営モデル策定と技術開発要素の提示	農業経営研究グループ	収益力向上
(j) 作期・作業分散効果の経営評価と営農モデル策定	農業経営研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
イ 地域農業を革新する6次産業化ビジネスモデルの構築		
a 多角化型園芸作ビジネスモデルの策定		
(a) 中山間地のトマト作等施設園芸経営における多角化ビジネスモデルの策定	園芸経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) カンキツ作経営における多角化ビジネスモデルの策定	園芸経営研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 野菜作におけるIPMの経済的効果を測る指標および評価手法の開発	園芸経営研究グループ	レギュラトリーサイエンス
(d) 新商品の消費者評価	農業経営研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(e) 人・地域づくりに貢献する主体形成・価値創造型の農業・農村支援モデル	農業経営研究グループ	科研費
b 多角化型園芸作ビジネスモデルの構築		
c 直売所を核とした地域農業多角化ビジネスモデルの策定		
ウ 新規参入経営支援のための経営管理技術の開発		
a 技術・収支データベースと標準財務指標を組み込んだ経営診断システムの開発		

IV 平成 27 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(a) 永年性木本作経営における有生固定資本財の評価法に関する研究	農業経営研究グループ	科研費
2 自給飼料基盤の拡大・強化による飼料生産性向上と効率的利用技術の開発		
ア 低コスト栽培向きの飼料用米品種及び稲発酵粗飼料用品種の育成		
a 低コスト生産に適し食用品種との識別性を有する多収飼料用米品種の育成		
(a) 低コスト生産に適し食用品種との識別性を有する多収飼料用米品種の育成	水稲育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 温暖地西部に適した飼料用米品種の育成	水稲育種研究グループ	収益力向上
b 高い消化性を持ち地域の環境条件に対応した稲発酵粗飼料用品種の育成		
(a) 高い消化性を持ち地域の環境条件に対応した稲発酵粗飼料用品種の育成	水稲育種研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 高糖分高消化性WCS用イネ品種の育成	水稲育種研究グループ	収益力向上
(c) 高糖分高消化性WCS用イネ品種の採種技術の開発	水稲育種研究グループ	収益力向上
イ 地域条件を活かした多様な自給飼料多給型家畜生産及び高付加価値畜産物生産技術の開発		
(ア) 飼料用稲や牧草等の多様な自給飼料資源を活用した高品質牛肉生産技術の開発		
a 高糖分飼料用稲等の生産・調製支援システムの開発		
(a) 牧場調製型収穫システムの開発	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般、広報連携基礎的促進費)、収益力向上 農食研究推進事業
(b) WCS用稲収穫調製コスト削減のための、超低コスト簡易バンカーサイロ設置および調製実証	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(広報連携基礎的促進費)
(c) 高糖分高消化性WCS用稲の効率的な収穫調製作業体系の構築	機械作業・情報研究グループ	収益力向上
(d) 画期的WCS用稲「たちすずか」の特性を活かした微細断収穫調製・給与体系の開発実証	機械作業・情報研究グループ	農食研究推進事業
b 牧草等の自給飼料の特性に基づく草地管理技術の開発		
(a) LCAを用いた肉用牛生産システムへの放牧導入に関する環境影響評価	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般) 科研費
(b) 放牧用草種の生育特性解明と造成技術の開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
c 肉用繁殖牛の栄養動態・繁殖性に基づく飼養管理技術の開発		
(a) 肉用繁殖牛の栄養動態・繁殖性に基づく飼養管理技術の開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般) 農食研究推進事業
(b) 黒毛和種繁殖牛における繁殖成績向上のための飼養給与プログラムの開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
d 自給飼料資源を活用した牛肉の評価・生産技術の開発		
(a) 自給粗飼料を活用した黒毛和種去勢牛の肥育技術の開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般) 科研費 補正緊急展開 気候変動
(b) 耕作放棄地を活用した黒毛和種経産牛の「放牧仕上げ熟ビーフ」の開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
3 家畜の代謝特性に基づく飼養管理及び家畜の安定供給のための育種・繁殖技術の開発		
ア 受精・妊娠機構の解明と調節による雌牛の繁殖性向上技術の開発		

IV 平成 27 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
a 牛の発情微弱化要因の解明に基づく発情発現明瞭化方 策の開発 (a) 効率的な発情、排卵誘起手法の開発	黒毛和種放牧飼料研究グループ	運営費交付金(一般)
4 園芸作物の高収益安定生産システムの開発		
(1) 日本型の高収益施設園芸生産システムの構築		
ア 日光温室等の活用による温暖地における高収益・安定生 産施設園芸技術の開発		
a 日本型日光温室およびパイプハウスリノベーション技 術の開発		
(a) 日本型日光温室の半閉鎖環境における CO ₂ 環境の解 析	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 省エネ・高収量を実現し得る次世代施設園芸モデル の開発に向けた調査研究	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(社会的 要請等対応研究費)
(c) 数値流体力学を用いた解析による温室の隙間換気の 推定	傾斜地野菜生産研究グループ	科研費
(d) パイプハウス耐風対策のための強風域推定手法の開 発	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) 多層断熱被覆資材等を利用したパイプハウスの保温 性向上技術の開発	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(f) 温室における冬の省エネと夏の環境改善はナノファ イバーが解決する	傾斜地野菜生産研究グループ	農食研究推進事業
(g) 施設園芸における布団資材の普及に向けた民間企業 等との連携強化	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(広報連 携基礎的促進費)
(h) 防風施設による温室暖房省エネ実証のための連携体 制の整備	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(i) 情報共有化を図る遠隔モニタリングシステム開発と 端境期解消生産モデルの構築	園芸経営研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
b 中山間地域資源を活用した環境負荷低減制御技術の開 発		
(a) 各地域における多様な未利用熱エネルギーの発掘と 活用方法の検討 b 西南暖地を中心にした施設園芸向 け未利用熱エネルギーの発掘	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般) 再エネ
(b) 低コスト細霧冷房システムの実用化	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 日光温室の導入検討に活用できる支援システムの開 発	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 温室内の多湿・結露を軽減する環境制御法の提示	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
c 日本型日光温室等による夏秋トマト生産を核にした高 収益・周年安定生産技術体系の構築		
(a) 地域特性に合わせた周年栽培に適する園芸作物の選 定	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 簡易設置型パッドアンドファンによるトマト安定生 産技術の確立	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(c) 開発技術導入による夏秋トマト作の安定生産・作期 拡大技術の実証	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(d) 情報共有化を図る遠隔モニタリングシステム開発と 端境期解消生産モデルの構築	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(e) 日射量対応型自動灌水装置による夏秋トマトの節水・ 減肥肥培管理技術の確立	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般、 革新的緊急展開)
(f) 非低温処理時の環境条件が間欠冷蔵処理効果の発現 に及ぼす影響	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(g) 狭隘・不整形な立地や傾斜地に適応する耐候性ハウ スの寒冷地における実証研究	傾斜地野菜生産研究グループ	再エネ
(h) 蓄熱・高断熱資材の実用化による暖房コスト低減	傾斜地野菜生産研究グループ	再エネ
(i) オンライン群落構造解析(LAI吸光係数など)手法の開 発	傾斜地野菜生産研究グループ	再エネ

IV 平成 27 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(j) ジーンバンク事業費/植物遺伝資源部門 (特性評価・再増殖・栄養体保存)	傾斜地野菜生産研究グループ	ジーンバンク
(k) ジーンバンク事業費/植物遺伝資源部門 (イチゴの特性評価・栄養体保存)	傾斜地野菜生産研究グループ	ジーンバンク
(l) 自然エネルギーを利用した独立電源で動作する環境制御システムの開発	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
イ 分子生物学的手法による新形質花きの創出		
a 遺伝子組換えによる花色・香気・花形等重要形質の改変技術の開発		
(a) モモの硬さ (日持ち性) に関する選抜 DNA マーカーの開発	傾斜地野菜生産研究グループ	次世代ゲノム
(b) グラジオラスの開花におけるオーキシンの役割と花持ちへの応用	傾斜地野菜生産研究グループ	科研費
(2) 果樹・茶の持続的高品質安定生産技術の開発		
ア カンキツのブランド化支援のための栽培情報の高度利用生産技術と園地整備技術の開発		
a 軽労化と高品質果実生産を可能とする園地整備技術と運搬作業体系の開発		
(a) 園内道整備のための設計支援システムの開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (一般、革新的緊急展開)
(b) モノレールの高機能化技術の開発、傾斜地カンキツ園の作業道整備技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (一般、革新的緊急展開)
(c) カンキツ園のかん水のための効率的な水源確保技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (一般、革新的緊急展開)
(d) 点滴かん水施設の水源における土砂流入量を予測する手法の確立	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (一般)
(e) 雨水利用のための揚水施設の試作と実証	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (一般)
b 栽培・生体情報に基づいた高品質カンキツ生産技術の開発		
(a) 低コストな土壌水分、樹体水分状態、樹体栄養状態の簡易指標と ICT の活用によるマルドリ方式の高度利用高品質カンキツ生産支援技術の実証	栽培管理研究グループ カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (一般、革新的緊急展開)
(b) 模擬植物で土壌の吸引圧、ポテンシャル蒸発量、植物の水ストレスを計測する手法の開発	栽培管理研究グループ	科研費
(c) 栽培・生体情報に基づいた高品質カンキツ生産技術の開発	栽培管理研究グループ カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (一般)
(d) 団地型マルドリ方式の栽培状況の見える化と ICT 活用技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(e) 傾斜地カンキツ園の精密栽培情報評価システムの開発とその新品種導入への利用技術の開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (一般、革新的緊急展開)
(f) 低コスト化のための耐久性抑草シートと貯蔵シートの開発	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (一般、革新的緊急展開)
c ブランド化支援のための技術の実証と体系化		
(a) 団地型マルドリ方式導入の実態と特徴	園芸経営研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) 団地型マルドリ方式の導入効果と課題	園芸経営研究グループ	運営費交付金 (一般)
(c) 団地型マルドリ方式の類型モデルと導入条件	園芸経営研究グループ	運営費交付金 (一般)
(d) マルドリ方式を軸とするカンキツ作営農モデルの策定	園芸経営研究グループ	運営費交付金 (一般、革新的緊急展開)
(e) 生産技術体系の策定	園芸経営研究グループ カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(f) 新しい「団地型マルドリ方式」の運営モデルの策定	園芸経営研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(g) 営農モデルの策定	園芸経営研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)

IV 平成 27 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
5 地域特性に応じた環境保全型農業生産システムの確立		
(1) 土壌生産力の総合的管理による持続的生産技術の開発		
ア 環境負荷物質の広域動態モデル策定と生産技術の環境負荷評価法の開発		
a 土地利用に基づく河川水質予測モデルの広域・汎用化		
(a) 近畿中国四国地域の水田圃場におけるケイ酸含量低下リスクマップの作成	農地・水環境研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
(b) 水田高度利用技術による人為的地下水位変動が流域の栄養塩類流出に及ぼす影響の解明	農地・水環境研究グループ	科研費
(c) 人工社会を組込んだ水文流出モデルによる水田減少に伴う栄養塩流出変動リスク評価	農地・水環境研究グループ	科研費
(d) 渇水リスク農業地域における持続可能な流域地下水ハイブリッド再利用システムの構築	農地・水環境研究グループ	科研費
b 水質浄化・環境負荷低減技術の開発と実証		
(a) イチジク栽培に対する日射制御型拍動自動灌水装置の導入効果の現地実証試験	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 拍動かん水による果樹の省力的栽培技術の開発	農地・水環境研究グループ	農食研究推進事業
(c) 高窒素濃度地下水の点滴灌水利用による負荷低減の現地実証	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般) 科研費
c 水質浄化・環境負荷低減技術の環境影響評価		
(a) 拍動かん水による果樹の省力的栽培技術の開発	農地・水環境研究グループ	農食研究推進事業
(b) 既存情報を用いた化学肥料と地域資源活用の LCA	農地・水環境研究グループ	運営費交付金(一般)
(2) 生物機能等の農業代替技術を組み込んだ環境保全型病害虫・雑草防除技術の開発と体系化		
ア 土着天敵等を利用した難防除害虫の安定制御技術の構築		
a 優良天敵の効率的選出法と天敵増強法の開発		
(a) 行動解析等に基づいた捕食性天敵の有用形質の評価	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 有用天敵の薬剤抵抗性検討選抜技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 農林生態系における捕食者-捕食者多種系の分子同定システムの開発と実証	病虫害研究グループ	科研費
(3) 環境保全型農業及び有機農業の生産システムの確立		
ア 地域条件に対応した環境保全型生産システムの確立		
(ア) 土壌病害診断と耕種的防除技術開発による野菜の環境保全型生産システムの構築		
a メタゲノム解析等を用いた土壌病害被害の予測・診断技術の開発		
(a) RIPA 法による植物ウイルス病診断の利用拡大	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) レタスピッグバイン病の土壌診断技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 次世代型土壌病害診断・対策支援技術の開発	生産基盤研究グループ 病虫害研究グループ	運営費交付金(一般) 農食研究推進事業
(d) 共生ネットワークの分子基盤とその応用展開	生産基盤研究グループ	JST
b 生育制御と病虫害防除に有効な光質環境の解明と照明技術の開発		
(a) 光質制御被覆材を用いた光の RGB 比制御による葉菜類の生育促進	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 新規赤外線遮断資材が夏季ホウレンソウの生育に及ぼす影響	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(c) 光環境制御によるホウレンソウの収量・品質向上技術の開発	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(d) 多面的機能を有する光質制御法がイチゴの生育に及ぼす影響	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(e) 気化潜熱利用培地冷却技術を活用した高設栽培による無育苗栽培法の利用技術の開発	野菜生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)

IV 平成 27 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(f) 非低温処理時の環境条件が間欠冷蔵処理効果の発現に及ぼす影響	野菜生産研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(g) 温暖化が野菜生産に及ぼす影響評価 (ハウレンソウ品質成分・イチゴ開花時期温暖化影響評価)	野菜生産研究グループ	気候変動
c 露地や非閉鎖環境の施設での野菜栽培に活用できる土着天敵利用技術の開発		
(a) 景観植物「スカエボラ」を用いた植生管理技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) 登録農薬の少ない地域特産作物 (マイナー作物) における天敵利用技術の確立	病虫害研究グループ	農食研究推進事業
(c) 持続可能な農業生産のための新たな総合的植物保護技術の開発	病虫害研究グループ	SIP
(d) 露地果菜類における飛ばないナミテントウ利用法の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金 (一般)
(e) DNA による捕食歴解析からの捕食性土着天敵の評価	病虫害研究グループ	運営費交付金 (一般)
(f) 天敵温存植物とは何か? 室内実験と野外試験によるメカニズム解明	病虫害研究グループ	運営費交付金 (一般、 所研究活動強化費)
(g) ブラインシュリンプ耐久卵を主成分とする人工餌が露地での飛ばないナミテントウの生存や発育に及ぼす影響の解明	病虫害研究グループ	運営費交付金 (一般、 所研究活動強化費)
(h) 野菜主要害虫に対する新農薬剤の防除効果に関する研究	病虫害研究グループ	受託試験
d 耕種的手法を中心とした病虫害低減・高品位生産技術の開発		
(a) 生物的土壌燻蒸を活用したハウレンソウ有機栽培技術の体系化と経営評価	生産基盤研究グループ	収益力向上
(b) カラシナ・エンバク等の効果的鋤込み方法の検討と夏作ハウレンソウにおける病害軽減効果の検証	生産基盤研究グループ 野菜生産研究グループ	運営費交付金 (一般)
(c) アブラナ科野菜根こぶ病の制御技術の開発	生産基盤研究グループ	運営費交付金 (一般)
(d) 生物的土壌消毒と持続的土壌管理による土壌病害防除技術の開発	病虫害研究グループ	運営費交付金 (一般)
(e) 施用効果の安定性に優れ、低コスト省力型栽培を可能にする新規微生物資材の開発	病虫害研究グループ	農食研究推進事業
(f) 還元消毒時の土壌環境変化と消毒効果の関係の解明	農地・水環境研究グループ	運営費交付金 (一般) 農食研究推進事業
(g) トマト黄化葉巻病の生物資材等利用による防除	病虫害研究グループ	運営費交付金 (一般)
(h) レタスピッグベイン病の被害低減効果の検証	病虫害研究グループ	運営費交付金 (一般)
(i) ジーンバンク事業費/微生物遺伝資源部門 (収集・増殖・特性)	病虫害研究グループ	ジーンバンク
(j) Fusarium 属菌から見出されたマイコウイルスの遺伝子解明	病虫害研究グループ	運営費交付金 (一般)
(k) 菌根菌利用によるリン肥料節減技術の開発	生産基盤研究グループ	SIP
(l) 水稻主要病害に対する新殺菌剤の防除効果に関する研究	病虫害研究グループ	受託試験
(m) 中山間の未利用有機性資源を活用した人にも環境にもやさしい土壌消毒技術の実用化	病虫害研究グループ 農地・水環境研究グループ	農食研究推進事業
e 地域重要野菜を対象とした技術体系の構築と現地実証		
(a) ハウレンソウの環境保全的高品質・安定生産体系の構築	病虫害研究グループ 生産基盤研究グループ 野菜生産研究グループ	運営費交付金 (一般)
(b) ハウレンソウにおける害虫防除体系の構築	病虫害研究グループ	運営費交付金 (一般)
(c) ハウレンソウ + ワサビ輪作モデルの実証	野菜生産研究グループ	補正緊急展開
(d) 地域重要野菜を対象とした技術体系の構築と現地実証	野菜生産研究グループ 病虫害研究グループ 生産基盤研究グループ	運営費交付金 (一般)
(e) ジーンバンク事業/微生物遺伝資源部門 (窓口・収集・特性)	病虫害研究グループ	ジーンバンク
(f) 光質制御被覆資材を用いた生育促進技術の開発	野菜生産研究グループ	運営費交付金 (一般)

IV 平成 27 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
(g) 光環境制御によるホウレンソウの品質向上技術に植物材料鋤き込み・被覆処理を組み合わせた栽培法の現地実証	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
(h) 中山間の湧水等の資源を活用した局所温度管理による高品質苗生産技術の開発	野菜生産研究グループ	運営費交付金(一般)
イ 有機農業の成立条件の科学的解明と栽培技術の体系化		
a 有機畑圃場等における病害虫発生抑制および物質循環機構の解明と輪作モデル体系の構築		
(a) カラシナ、エンバク等の効果的鋤き込み方法の検討と夏作ホウレンソウにおける防除効果の検証	病虫害研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 生物的土壌燻蒸を活用したホウレンソウ有機栽培技術の体系化と経営評価	病虫害研究グループ	収益力向上
6 ITやロボット技術等の革新的技術の導入による高度生産・流通管理システムの開発		
ア 土地利用型大規模経営に向けた農作業ロボット体系の開発		
a 通信制御の共通化技術の開発		
(a) 作業機用 ECU の開発	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金(一般)
(b) 営農管理システムと作業機の連動通信制御技術の開発	機械作業・情報研究グループ	SIP
イ 多様な農業情報の効率的収集技術及び統合利用技術の開発		
a 生産現場における簡易データ収集・統合管理システムの開発		
(a) PMS による多筆圃場の効率的な管理技術の実証	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(b) 分散する圃場において効率的な作業計画の作成を支援する技術	機械作業・情報研究グループ	運営費交付金 (革新的緊急展開)
(c) 飼料用米品種・系統の特性解明と低コスト・安定栽培技術の開発及び実証	機械作業・情報研究グループ	収益力向上
(d) 共通化技術に基づく多圃場営農管理システムの開発	機械作業・情報研究グループ	SIP
(e) 渇水リスク農業地域における持続可能な流域地下水ハイブリッド再利用システムの構築	機械作業・情報研究グループ	科研費
(f) 関東地方の過去 130 年間の土地利用・景観変遷データベースの構築と公開	機械作業・情報研究グループ	科研費
7 食品の安全性向上及び消費者の信頼確保のための技術の開発		
ア かび毒産生病害からの食品安全性確保技術の開発		
a 栽培体系のリスク評価、追加防除時期の解明等の生産工程管理技術の強化・拡充		
(a) 生育予測モデルを活用した小麦の気象対応型栽培技術の開発	栽培管理研究グループ	SIP

IV 平成 27 年度 研究予算課題一覧

II 地球規模の課題に対応した研究開発

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
1 地球温暖化に対応した農業技術の開発		
ア 土地利用型作物の気候変動対策技術と栽培管理支援システムの開発		
(ア) 気候変動下における水稲の高温障害対策技術の開発		
a 作物モデルに連動する群落微気象評価手法の開発		
(a) 平年差距離重み付け手法の改良	傾斜地野菜生産研究グループ	運営費交付金 (一般)
b 高温登熟障害の対策技術の開発		
(a) 中山間農地の気象特性に応じた農地集積に資する 50m 解像度の精密メッシュ気温データ利用技術の実用化のための共同研究	カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (広報連携基礎的促進費)
(b) 温暖地における高品質米栽培法の検定	栽培管理研究グループ	運営費交付金 (一般) 気候変動
(c) 変動気象に対応可能な水稲高温障害早期警戒・栽培支援システムの開発	栽培管理研究グループ	農食研究推進事業
(d) 水稲の高温障害発生メカニズムの解明と適応技術の開発	栽培管理研究グループ	SIP
(e) メッシュ農業気象データの拡充と高度化	カンキツ生産研究グループ	SIP
c 気候変動下における地域気象特性を考慮した安定多収栽培技術の開発		
(a) 地域気象特性を考慮した安定多収栽培法の構築	栽培管理研究グループ	運営費交付金 (一般) 気候変動
(b) 水稲多収栽培における籾数決定要因の解明	栽培管理研究グループ カンキツ生産研究グループ	運営費交付金 (一般) 気候変動
(c) 飼料用米品種・系統の特性解明と低コスト・安定栽培技術の開発及び実証	栽培管理研究グループ	収益力向上
(d) 暖地と温暖地西部に適した業務加工用多収品種栽培技術の開発と実証	栽培管理研究グループ	バリュープロ

III 新需要創出のための研究開発

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
1 農産物・食品の機能性解明及び機能性に関する信頼性の高い情報の整備・活用のための研究開発		
ア 健康機能性に関する成分分析法及び評価法の開発と標準化		
a 農産物・食品の機能性成分含量および機能性・安全性評価データベースの開発		
(a) 主要大麦・小麦品種に含まれる食物繊維等品質成分の分析及びデータベース化	食品機能性研究グループ	運営費交付金 (機能性食品プロ)
(b) 裸麦の焙煎により獲得される抗酸化能に関する評価	食品機能性研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
イ 代謝調節作用に関する健康機能性解明と有効利用技術の開発		
a 高機能性農産物の特性解明と評価・利用技術の開発		
(a) キウイフルーツを摂取させたマウスの健康機能の評価	食品機能性研究グループ	運営費交付金 (所研究活動強化費)
b かんきつ・りんご等果実の有効性解明と評価技術の開発		
(a) かんきつ・りんご等果実の有効性解明と評価技術の開発	食品機能性研究グループ	運営費交付金 (一般)

IV 平成 27 年度 研究予算課題一覧

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
ウ 生体防御作用に関する健康機能性解明と有効利用技術の開発 (a) 生体防御に関わる健康機能性評価技術の開発と農産物における特性解明	食品機能性研究グループ	運営費交付金(一般)

IV 地域資源活用のための研究開発

研 究 課 題 名	実施研究グループ (*は委託先など)	予算区分
1 農業生産のための基盤的地域資源の保安全管理技術の開発 (1) 野生鳥獣モニタリングシステム及び住民による鳥獣被害防止技術の確立 a 省力的で効果の高い侵入防止技術の開発 (a) シカの行動特性に基づく被害防止技術の開発 (b) 野生動物の登り行動および登坂能力の解明 (c) 有害獣の運動能力・感覚に基づく食害防止技術の開発 (d) シカにおける被害対策確立プロジェクト立ち上げに向けた運動・感覚・学習能力の解明 a 地域で実践可能な効果的対策プログラムの確立 (a) 竹林の環境管理による獣害軽減技術の開発 (b) 環境管理等に基づく獣害軽減技術の開発	鳥獣害対策研究グループ 鳥獣害対策研究グループ 鳥獣害対策研究グループ 鳥獣害対策研究グループ 鳥獣害対策研究グループ	運営費交付金(一般) 運営費交付金(一般) 運営費交付金(一般) 運営費交付金(所研究活動強化費) 運営費交付金(一般) 運営費交付金(一般)

V 研究情報活動

1. 主な研究成果

成果情報名	提出研究領域等
<p>【普及成果情報】</p> <p>製パン性に優れ、多収のパン用小麦新品種「せときらら」</p> <p>難防除雑草マルバルコウ防除のための大豆品種「あきまる」狭畦晩播栽培体系</p> <p>散水設備を持つ棚田跡地圃場への拍動灌水システムの導入方法</p> <p>高糖分WCS用稲を微細断し高密度輸送・サイロ調製する収穫体系</p> <p>簡易土壌水分計の水位低下量はカンキツが受けている乾燥ストレスの指標となる</p> <p>傾斜地果樹園に簡易に作業道を造成する作業道造成機</p> <p>高温期ハウレンソウの収穫前遮光除去・晴天日遭遇後収穫による品質向上技術</p>	<p>水田作研究領域</p> <p>営農・環境研究領域</p> <p>営農・環境研究領域</p> <p>営農・環境研究領域</p> <p>水田作研究領域</p> <p>傾斜地園芸研究領域</p> <p>環境保全型野菜研究領域</p>
<p>【研究成果情報】</p> <p>温暖地向けの高アミロース水稻新品種候補系統「中国 215 号」</p> <p>短稈で耐倒伏性に優れ飼料用米生産に適した水稻新品種候補系統「中国 217 号」</p> <p>パスタ適性に優れる日本初のデュラム小麦新品種候補「中国 D166 号」</p> <p>難裂莢性で耐倒伏性が強く醤油加工に適した大豆新品種「たつまる」</p> <p>PCR法を用いた捕食性天敵の捕食歴の解析手法</p> <p>ISO11783 に準じた通信フォーマットで作業機を操作できる共通リモートコントロール</p> <p>中山間地における平均風速および突風率の推定法</p> <p>周年親子放牧により子牛生産コストを半減する繁殖経営の生産管理と経営対応</p> <p>搾乳ロボットと飼料生産等の外部化による酪農収益性向上の可能性と条件</p> <p>たちすずか WCS 給与による適度な脂肪交雑で良質な肉生産のための肉用牛肥育</p>	<p>水田作研究領域</p> <p>水田作研究領域</p> <p>水田作研究領域</p> <p>作物機能開発研究領域</p> <p>水田作研究領域</p> <p>営農・環境研究領域</p> <p>傾斜地園芸研究領域</p> <p>営農・環境研究領域</p> <p>営農・環境研究領域</p> <p>畜産草地・鳥獣害研究領域</p>

【分類】

普及成果情報

行政・普及機関、公立試験研究機関、生産者、民間企業にとって直接的に利用可能で、普及が大いに期待できる成果情報。

研究成果情報

行政・普及機関、公立試験研究機関、生産者、民間企業にとって直接的に利用可能なものでないが、その内容が非常に有用な基礎・基盤情報になりうるもの、または普及させるためには改良が必要だが将来的に非常に有望な成果情報。

V 研究情報活動

2. 研究成果の発表

1) 著書

No.	研究成果のタイトル等	著者名等	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
1	第1章 ニホンジカの生態と農作物被害の現状・対策	上田弘則	2016.3	STOP! 鳥獣害 (全国農業図書)	*,18-33
2	第2章 ニホンイノシシの生態と農作物被害の現状・対策	江口祐輔	2016.3	STOP! 鳥獣害 (全国農業図書)	*,34-50
3	第7章 アナグマの生態と農作物被害の現状・対策	江口祐輔	2016.3	STOP! 鳥獣害 (全国農業図書)	*,102-116
4	府県における大規模肉用牛繁殖肥育一貫経営の形成と展開	千田雅之	2015.9	農林統計協会「大規模営農の形成史」	*,365-387
5	第11章 ツキノワグマの生態と農作物被害の現状・対策	堂山宗一郎	2016.3	STOP! 鳥獣害 (全国農業図書)	*,156-170
6	第6章 世界遺産「熊野参詣道」における石畳コケ類植生の診断	岩谷潔 (山口大学), 山本晴彦 (山口大学), 吉越恆, 森博隆 (山口大学), 立石欣也 (山口大学), 原田陽子 (山口大学), 山崎俊成 (山口大学)	2016.2	風水害と観光客の増大による世界遺産の劣化と保全 - 紀伊山地の霊場と参詣道を事例として - (農林統計出版)	*,79-113
7	第7章 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」における観光客の動態	吉越恆, 森博隆 (山口大学), 立石欣也 (山口大学), 岩谷潔 (山口大学), 山本晴彦 (山口大学農学部), 原田陽子 (山口大学)	2016.2	風水害と観光客の増大による世界遺産の劣化と保全 - 紀伊山地の霊場と参詣道を事例として - (農林統計出版)	*,115-151
8	第12章 熊野気象観測施設の設置と運用	吉越恆, 岩谷潔 (山口大学), 園山芳充 (山口大学), 山本晴彦 (山口大学), 野村和輝 (山口大学)	2016.2	風水害と観光客の増大による世界遺産の劣化と保全 - 紀伊山地の霊場と参詣道を事例として - (農林統計出版)	*,223-244

V 研究情報活動

2) 原著論文等

No.	研究成果のタイトル等	著者名等	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
1	Effects of ammonium chloride fertilizer and its application stage on cadmium concentrations in wheat (<i>Triticum aestivum</i> L.) grain	石川直幸, 石岡巖, 谷中美貴子, 高田兼則, 村上政治 (農環研)	2015.4	Plant Production Science	18(2),137-145
2	Influence of the property of wire mesh on behavior in masked palm civets (<i>pagma larvata</i>)	加瀬ちひろ (千葉科学大学), 江口祐輔 /CA, 植竹勝治 (麻布大学), 田中智夫 (麻布大学)	2016.3	日本家畜管理学会誌・応用動物行動学会誌	51(4),149-154
3	伝統地名を活用した公・共・私が連携するアクターズネットワークの役割ー兵庫県小野市きすみの地区を事例としてー	大室健治, 安江紘幸	2015.9	地域デザイン	6,47-61
4	オーガニックファーマーズマーケット発展のための運営の要点	尾島一史, 佐藤豊信 (岡山大学), 駄田井久 (岡山大学)	2015.12	農林業問題研究	51(3), 179-184
5	各種チョウ目幼虫によるツルマメ摂食量	菊地淳志	2015.5	関西病虫害研究会報	57,117-119
6	UV-C Irradiation Inhibits Decay from Gray Mold and Promotes Accumulation of Scoparone	國賀武, 中嶋直子, 根角博久, 瀧下文孝	2015.5	Tropical Agriculture and Development	59(2),41-49
7	Influence of a rice whole-crop silage diet on growth performance, carcass and meat characteristics, and muscle-related gene expression in Japanese Black steers.	柴田昌宏, 曳野泰子, 今成麻衣, 松本和典, 山本直幸	2016.3	Animal Science Journal	DOI: 10.1111/asj.12519
8	Rhizoctonia blight of turnip green caused by <i>Rhizoctonia solani</i> AG-4 HG-III	関口博之 /CA, 戸田武 (秋田県立大学), 佐藤恵利華, 富岡啓介, 村上弘治, 雨宮良太 (正八つくば), 平子直行 (正八つくば), 中田昌人 (正八つくば), 百町満郎 (岐阜大学), 對馬誠也 (農環研)	2015.11	Journal of General Plant Pathology	81 (6), 454-456
9	中山間集落営農法人における放牧畜産の評価と課題	千田雅之, 渡部博明	2015.9	農林業問題研究	51(2), 104-109
10	寒冷地における水稻のタイヌビエに対する生育抑制力を簡易に評価する方法	橘雅明, 渡邊寛明, 伊藤一幸 (元神戸大学)	2015.6	雑草研究	60,35-42
11	積雪寒冷地の農道・畦畔における除草剤処理と草刈りがシロツメクサの被度に及ぼす影響	橘雅明	2015.6	雑草研究	60,43-49
12	寒冷地における競争力の強い水稻品種によるタイヌビエの生育抑制の過程	橘雅明, 渡邊寛明, 伊藤一幸 (元神戸大学)	2015.12	雑草研究	60,153-157
13	Component-based quantification and prediction of diet selection by cattle grazing on multi-species communities	堤道生 /CA, 高橋佳孝 (退職), 惠本茂樹 (山口県農林総合技術センター), 伊藤直弥 (山口県農林総合技術センター), 大谷一郎, 松本和典	2016.1	Grassland Science	62,12-20
14	DAS-ELISA quantification of resting spores of <i>Olpidium virulentus</i> in roots and correlation between resting spore density in soil and severity of lettuce big-vein disease	野見山孝司, 笹谷孝英, 関口博之, 富岡啓介, 大崎秀樹, 竹下稔 (宮崎大学), 竹原利明, 古屋成人 (九州大学大学院農学研究院), 土屋健一 (九州大学大学院農学研究院)	2015.5	Journal of General Plant Pathology	81(3),243-248
15	Rearing <i>Orius strigicollis</i> (Hemiptera: Anthocoridae) on an alternative diet of brine shrimp, <i>Artemia salina</i> (Anostraca: Artemiidae)	西森敬晃 (広島大学), 三浦一芸 /CA, 世古智一	2016.1	Applied Entomology and Zoology	DOI: 10.1007/s13355-015-0388-x
16	褐毛和種雌牛のストレス反応とオキシトシン受容体遺伝子との関連	山本直幸, 矢用健一 (生物研), 伊藤秀一 (東海大), 武井直樹 (家畜改良センター)	2015.9	日本暖地畜産学会報	58(2),239-245

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
17	Characterization of rice flour milled with water and effects of soaking conditions	鬼島直子(山形県農業総合研究センター),Naoyuki Takumi(山形県農業総合研究センター),Takeshi Takasago(山形県農業総合研究センター),池田達哉,下山田真(静岡大学),Masazumi Nishikawa/CA(宮城大学)	2015.11	Food Science and Technology Research	21(6),771-778
18	ハダカムギ‘マンネンボシ’の硝子率に対する種子比重の寄与	山口憲一(愛媛県農林水産研究所),辻田泉(愛媛県農林水産研究所),木村浩(愛媛県農林水産研究所),水口聡(愛媛県農林水産研究所),兼頭明宏(愛媛県農林水産研究所),池田達哉,長嶺敬	2015.7	日本作物学会紀事	84(3), 271-278
19	有機農業による地域振興策に関わる制度的・組織的支援の実態	下口ニナ(東京農業大学),稲泉博己(東京農業大学),大室健治	2015.12	開発学研究	26(2),1-11
20	産地形成に寄与する実践コミュニティの役割ー北海道S町農協馬鈴薯振興会を対象としてー	河野洋一(帯広畜産大学),大室健治,稲泉博己(東京農業大学)	2016.1	農業経営研究	53(4),60-65
21	Effect of Ultraviolet-B Irradiation on Disease Development Caused by <i>Penicillium italicum</i> in Satsuma Mandarin Fruit	山家一哲(静岡県農林技術研究所果樹研究センター),國賀武,青木慎一(パナソニック株式会社),加藤光弘(静岡県農林技術研究所果樹研究センター),小林康志(静岡県農林技術研究所果樹研究センター)	2016.1	The Horticulture Journal	85(1),86-91
22	南九州畑作地域における畑地高度利用技術の経営的評価	房安功太郎,新美洋,千田雅之	2015.9	農林業問題研究	51(2),110-115
23	ソルガム類を活用した多収作付体系の関東甲信越地域における導入適地	菅野勉,森田総一郎,千田雅之,西村和志,浅井貴之,横沢将美,本谷直,折原健太郎	2016.1	日本草地学会誌	61(3),202-207
24	Transcriptional feedback regulation of YUCCA genes in response to auxin levels in Arabidopsis	鈴木優志(横浜市立大学),山崎千秋(横浜市立大学),三井麻利江(横浜市立大学),寛雄介(横浜市立大学),三谷由佳(横浜市立大学),中村郁子(横浜市立大学),石井貴広,添野和雄,嶋田幸久(横浜市立大学)	2015.8	Plant Cell Reports	34(8), 1343-1352
25	Small molecule auxin inhibitors that target YUCCA are powerful tools for studying auxin function	寛雄介(横浜市立大学),山崎千秋(横浜市立大学),鈴木優志(横浜市立大学),中村郁子(横浜市立大学),佐藤明子(横浜市立大学),石田遥介(横浜市立大学),菊地理絵(横浜市立大学),東昌市(横浜市立大学),國土祐未子,石井貴広,添野和雄,嶋田幸久(横浜市立大学)	2015.11	Plant Journal	84(4), 827-837
26	A pecky rice-causing stink bug, <i>Leptocoris chinensis</i> , escapes from volatiles emitted by excited conspecifics	山下賢一(兵庫農研),諫山真二(住友化学),上船雅義(名城大学),小澤理香(京都大学),高林純二(京都大学),三浦一芸	2016.1	Journal of Ethology	34,1-7
27	Impact of land use on nitrogen concentration in groundwater and river water	Seiko Yoshikawa(農環研),Hidehiro Takahashi,Yasuko Sasada(香川県保健環境研究センター),Hidetoshi Mochizuki	2015.12	Soil Science and Plant Nutrition	61,898-909
28	Relationships between postnatal plasma oxytocin concentrations and social behaviors in cattle	矢用健一(生物研),伊藤秀一(東海大),山本直幸	2015.8	Animal Science Journal	86(8),801-813
29	地下水水位制御と堆肥施用がダイズの収量構成要素と乾物生産に及ぼす影響	片山勝之,高橋智紀,西田瑞彦	2015.12	日本作物学会東北支部会報	58,11-14

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
30	水田転換畑での春播き作型においてマルチ被覆畝のリン酸局所施肥がタマネギの生育・収量に及ぼす影響	片山勝之, 山崎篤	2015.12	東北農業研究	68,119-120
31	水田転換畑での春播き作型において早播、苗質及びマルチ被覆畝がタマネギの生育・収量に及ぼす影響	片山勝之, 山崎篤	2015.12	東北農業研究	68,121-122
32	Influence of feeding a rice whole crop silage after grazing on growth performance and meat quality in Japanese Black steers.	柴田昌宏, 曳野泰子, 今成麻衣, 松本和典, 山本直幸	2015.8	61st International Congress of Meat Science and Technology Proceedings	5-33
33	Wheat Bran Autolytic Peptides, Containing a Branchedchain Amino Acid, Ameliorate Nonalcoholic Steatohepatitis with Up-regulation of Anti-oxidant Potential in High-fat Diet-fed Mice.	川口巧(久留米大学医学部), 上野隆登(朝倉医師会病院), 野方洋一, 早川政子(久留米大学医学部), 古賀浩徳(久留米大学医学部), 鳥村拓司(久留米大学医学部)	2015.11	Hepatology	62(1) Suppl,662A
34	Evaluation of drought impact on groundwater recharge rate using SWAT and Hydrus models on an agricultural island in western Japan.	Jin, G(広島大学), 清水裕太, S. Onodera(広島大学), M. Saito(岡山大学), 松森堅治	2015.6	Proceedings of the International Association of Hydrological Sciences	371,143-148 doi:10.5194/piahs-371-143-2015
35	Estimation of Nutrient Fluxes from Suburban Watersheds in Japan using the SWAT Model	清水裕太, S. Onodera(広島大学), 高橋英博, 松森堅治	2015.6	Proceedings of the International Association of Hydrological Sciences	370,39-44 doi: 10.5194/piahs-370-39-2015
36	施設園芸・植物工場ハンドブック「被覆資材の機能と特性」「外張り資材」「内張り資材」	川嶋浩樹	2015.5	農山漁村文化協会	*56-71
37	キウイフルーツの品種および成熟段階の違いが抗酸化成分に及ぼす影響	阿部大吾	2016.3	近畿中国四国農業研究センター研究報告	15,35-48
38	段差のあるアスパラガス栽培圃場にも適用可能な既存散水設備を活用した点滴灌水導入技術の開発	笠原賢明, 渡邊修一, 松森堅治	2016.3	近畿中国四国農業研究センター報告	15, 27-33
39	ブドウコンテナ栽培のための太陽電池駆動ポンプによる灌水装置の開発	笠原賢明, 渡邊修一, 松森堅治, 姫宮雅美(島根県農業技術センター)	2016.3	近畿中国四国農業研究センター報告	16, 1-12
40	Development of a new energy-saving pipe-framed greenhouse	川嶋浩樹	2015.5	JARQ	49(3),235-243
41	Current Usage of Air Circulators in Greenhouses in Japan	畔柳武司	2016.1	Japan Agricultural Research Quarterly	50,7-12
42	ダイズモザイクウイルスに対する褐斑・種子伝染抵抗性を有するダイズ新品種「たつまる」の育成	猿田正恭, 岡部昭典, 高田吉丈, 菊池彰夫	2016.3	近畿中国四国農業研究センター研究報告	15,1-15
43	短穂飼料用イネ品種の効率的種子生産方法の検討	藤本寛, 松下景, 中込弘二, 森伸介	2016.3	近畿中国四国農業研究センター研究報告	16,13-27
44	台風 0423 号時の愛媛県中山間地における平均風速および突風率の推定	松田周, 柴田昇平	2016.3	近畿中国四国農業研究センター研究報告	15,17-26
45	簡易設置型パッドアンドファン冷房が塩ストレス下のトマトの光合成速度、果実収量および品質に及ぼす影響	村上健二, 生駒泰基, 山崎敬亮, 吉田祐子, 長崎 裕司, 瀨本浩, 嶋津光鑑(岐阜大学応用生物科学部)	2016.3	近畿中国四国農業研究センター研究報告	16,29-41
46	Estimation of Nutrient Fluxes from Suburban Watersheds in Japan using the SWAT Model: Current Issues and Future Directions.	Yuta Shimizu, Shin-ichi Onodera and Kenji Matsumori	2016.3	農環研英文叢書 NIAES Series No. 6 "The Challenges of Agro-Environmental Research in Monsoon Asia"	6,227-235
47	栽培管理・営農の高度化に資する精密メッシュ気温データの作成	植山秀紀	2016.3	近畿中国四国農業研究センター資料	12,39-65

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
48	Finding the maximam slope for wild boars to clime up	江口祐輔, 竹内啓之 (麻布大学), 堂山宗一郎, 上田弘則, 坂倉健太 (麻布大学), 植竹勝治 (麻布大学), 田中智夫 (麻布大学)	2015.9	Proceedings of the 49th congress of international society for applied ethology	*,110
49	有機農家直売市が有機農家育成に果たす役割	尾島一史	2016.1	農業経営通信	266,4-5
50	中山間地域に見られる地形向けの配管手法を提案する	笠原賢明	2015.11	平成 27 年度 農研機構シンポジウム 露地栽培における点滴灌水技術の展開と進化	*,33-36
51	濡れ時間を指標にしたかび毒蓄積リスクの評価	黒瀬義孝	2015.8	New Food Industry	57(8),54-60
52	ヤーコン (Smallanthus sonchifolius (Poepp. & Endl.) H. Robinson) の早掘り栽培に関する研究	杉浦誠	2016.3	近畿中国四国農業研究センター研究資料	12,1-27
53	ヤーコン (Smallanthus sonchifolius (Poepp. & Endl.) H. Robinson) 「アングレスの乙女」の生育期における特性と他の品種および系統との類似性に関する調査	杉浦誠, 矢野孝喜	2016.3	近畿中国四国農業研究センター研究資料	12,29-38
54	土地利用型酪農、肉用牛繁殖、飼料作経営の展開方向と課題	千田雅之	2015.11	中央農業総合研究センター研究資料	11,1-11
55	ロボット・IT 活用による省力化と個体管理を実現できる酪農モデル	千田雅之	2015.11	中央農業総合研究センター研究資料	11,34-43
56	肉用牛繁殖経営の技術構造と経営展開方向	千田雅之, 安武正史	2015.11	中央農業総合研究センター研究資料	11,49-53
57	水田小規模移動放牧による肉用牛繁殖経営の実態と課題	千田雅之	2015.11	中央農業総合研究センター研究資料	11,54-61
58	中山間地域における稲作肉用牛複合経営の実態と課題	千田雅之, 渡部博明	2015.11	中央農業総合研究センター研究資料	11,62-69
59	耕畜連携による水田活用型肉用牛繁殖肥育一貫経営モデル	千田雅之	2015.11	中央農業総合研究センター研究資料	11,70-80
60	周年親子定置放牧による飼養管理と経営成果、及び普及条件	千田雅之	2015.11	中央農業総合研究センター研究資料	11,95-104
61	飼料受託多角化による中山間水田作コントラクター経営の実態と課題	千田雅之	2015.11	中央農業総合研究センター研究資料	11,145-150
62	水田飼料作コントラクターの課題と経営展開方向	千田雅之	2015.11	中央農業総合研究センター研究資料	11,151-162
63	北陸中山間・家族経営による大規模水田作経営の課題と放牧導入の可能性	千田雅之	2015.10	中央農業総合研究センター研究資料	10,150-156
64	牛の放牧履歴集計プログラム「GRT」	千田雅之	2015.7	農業経営通信	264,2-3
65	水田飼料作経営の展開方向と定着条件	千田雅之	2015.10	農業経営通信	265,2-3
66	高品質な原料を活かして加工事業を拡大するカンキツ作ビジネスモデル	棚田光雄	2015.10	農業経営通信	265,4-5
67	Effect of experience breaking crop protection fence on behavior of wild boar	堂山宗一郎, 江口祐輔, 上田弘則	2015.7	V th International Wildlife Management Congress abstracts	*,340
68	Hebb-Williams Mazes with Wild Boars	堂山宗一郎, 江口祐輔, 上田弘則, 植竹勝治 (麻布大学), 田中智夫 (麻布大学)	2015.9	Proceedings of the 49th Congress of the International Society for Applied Ethology	*,166
69	小麦ふすまの利用用途の開発—ふすま自己消化物の ACE 阻害作用と NASH モデルマウスに対する効果—	野方洋一, 川口巧 (久留米大学医学部), 鳥村拓司 (久留米大学医学部), 上野隆登 (朝倉医師会病院)	2015.9	New Food Industry	57(9),11-18

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
70	拍動灌水装置の導入が作物および環境に及ぼす影響	渡邊修一, 松森堅治, 志村もと子	2015.11	平成 27 年度 農研機構シンポジウム 露地栽培における点滴灌水技術の展開と進化	*7-14
71	近畿・中国・四国の農業構造と担い手展望	渡部博明	2015.10	中央農研研究資料	10,45-57
72	新規需要米と野菜の生産・加工に取り組む中山間集落営農法人の現状と技術開発課題	渡部博明, 千田雅之	2015.10	中央農研研究資料	10,170-181
73	WCS 用稲と野菜の生産及び加工を組み合わせた中山間集落営農法人の付加価値向上	渡部博明	2015.7	農業経営通信	264,6-7
74	Influence of the distance between wire mesh and food on behavior in masked palm civets (<i>Paguma larvata</i>)	加瀬ちひろ(千葉科学大), 江口祐輔	2015.9	Proceedings of the 49th congress of international society for applied ethology	*167
75	中国中山間地域における集落営農法人の現状と課題ー広島県集落営農法人アンケートに基づくー	坂本英美, 千田雅之	2015.10	中央農業総合研究センター研究資料	10,58-77
76	関東・東山・北陸・東海の農業動向及び担い手展望と技術開発方向	安武正史, 宮武恭一, 松本浩一, 房安功太郎, 千田雅之, 笹原和哉	2015.10	中央農業総合研究センター研究資料	10,34-44
77	新規需要米と野菜の生産加工に取り組む中山間集落営農法人の現状と技術開発課題	渡部博明, 千田雅之	2015.11	中央農業総合研究センター研究資料	10,170-181

V 研究情報活動

3) 学会発表等

No.	研究成果のタイトル等	著者名等	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
1	Effects of mix-planting of fairy fan-flower <i>Scaevola aemula</i> (Goodeniaceae) on the number of natural enemies in eggplant greenhouses in Japan.	安部順一朗	2015.10	11th International Entomophagous Insects Conference (Hotel BQ, Torre del Mar, Malaga, Spain)	**
2	ナス科果菜類の促成栽培施設への天敵温存植物スカエボラの導入	安部順一朗, 世古智一	2015.11	九州病害虫研究会第90回研究発表会(セントヒル長崎)	**
3	International Expert Working Group for Improving What Quality and Safety: A Proposal	池田達哉	2015.6	Wheat Initiative, 5th Research committee meeting	**
4	大麦硝子粒の発生要因の解析 I. 電子顕微鏡による胚乳細胞の微細構造の観察	池田達哉, 長嶺敬, 上原泰(長野県農試), 前島秀和(長野県農試)	2015.7	北陸作物学会報	51(別),34
5	International collaboration on wheat quality and safety: an expert working group in the Wheat Initiative	池田達哉	2015.9	12th International Gluten Biotechnology workshop	*65-66
6	Wheat Initiative と品質・安全性ワーキンググループについての紹介	池田達哉	2015.12	第7回グルテン研究会	**
7	高塩類牛ふん堆肥の灰化・炭化・洗浄によるリン酸およびカリウムの作物への可給性の変化	石岡巖, 渡邊修一	2015.12	2015年日本土壌肥料学会関西支部講演要旨集	*21
8	Size of Entrance which Japanese Marten Can Pass Through	上田弘則, 江口祐輔, 堂山宗一郎	2015.7	17th International Wildlife Management Congress	*349
9	Seasonal Change in Grazing Damage on Mixed Sown Pasture by Wild Boar	上田弘則, 江口祐輔	2015.7	17th International Wildlife Management Congress	*318-319
10	Advanced support system based on precise meteorological data for citrus orchards	植山秀紀, 星典宏, 根角博久	2015.7	Procedia Environmental Sciences	29,31
11	精密圃地環境推定システムの基盤となる10mメッシュ気象情報の作成	植山秀紀, 星典宏, 國賀武, 根角博久, 岡田周平((株)ビジョンテック)	2015.9	農業環境工学関連5学会2015年合同大会講演要旨	**
12	ICTによる精密栽培実現のための圃地環境推定システムの開発	植山秀紀, 根角博久, 岡田周平(株式会社ビジョンテック), 大木秀行(株式会社ビジョンテック), 八木浩(株式会社ビジョンテック)	2016.3	日本農業気象学会2016年全国大会要旨集	*92
13	<i>Fusarium</i> 属菌から見出された新規菌類ウイルス	大崎秀樹, 佐々木厚子, 野見山孝司, 関口博之, 富岡啓介, 竹原利明	2015.5	日本菌学会第59回大会講演要旨集	*97
14	パイローム解析で明らかになった <i>Fusarium poae</i> の多重ウイルス感染	大崎秀樹, 佐々木厚子, 野見山孝司, 関口博之, 富岡啓介, 竹原利明	2016.3	平成28年度日本植物病理学会大会	**
15	分娩後60日以内の発情・排卵誘起処置	大島一修, 後藤裕司, 山本直幸	2016.3	第121回日本畜産学会大会講演要旨集	*191
16	放牧地でのセントオーガスティングラスの生育に及ぼす草種間競合および庇蔭の影響	大谷一郎, 高橋佳孝, 堤道生	2015.4	日本雑草学会第54回大会講演要旨集	127
17	新規需要を開拓する米粉パンの消費者評価と農村地域への波及効果ー東広島市小田地区の米粉パン専門店を事例としてー	大室健治	2015.9	第4回地域デザイン学会全国大会予稿集	15-18
18	多角化型集落営農法人における集落還元率の評価視点ー広島県東広島市の〇法人を事例としてー	大室健治	2015.9	平成27年度日本農業経営学会研究大会報告要旨	94-95
19	晩播密植栽培における摘心処理がダイズ新品種「あきまる」の生育および収量に及ぼす影響	岡部昭典, 竹田博之, 山崎諒, 片山勝之	2016.3	日本作物学会第241回講演会要旨集	*53
20	ISO11783の通信規格を利用した簡易共通リモートコントローラ	奥野林太郎, 濱田安之((株)農業情報設計社), 西脇健太郎, 元林浩太, 寺元郁博	2015.9	農業環境工学関連5学会2015年合同大会	**
21	リモートセンシングを活用した小麦の収穫作業技術の開発と利用実績	奥野林太郎	2015.9	平成27年度農研機構シンポジウム北海道畑作営農システムの確立に向けた農業ICT研究の最前線	**

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
22	麦後水稲乾田直播でのFOEASによる非湛水管理による節水効果の推定	奥野林太郎, 三浦健志(岡山大学環境生命科学研究科), 源崇志(岡山大学環境理工学部)	2016.3	日本農業気象学会 2016 年全国大会要旨集	*.131
23	地下水水位制御システム設置圃場におけるダイズとコムギ作期間中の水収支	笠原賢明, 清水裕太, 松森堅治, 望月秀俊, 竹田博之, 石川直幸, 奥野林太郎	2015.9	日本土壌肥科学会講演要旨	61, 9
24	転換畑における耕種法の違いがダイズ品種の生育・収量に及ぼす影響	片山勝之, 岡部昭典, 竹田博之, 山崎諒	2016.3	日本作物学会第 241 回講演会要旨集	*.54
25	シロイヌナズナにおける PUP(Purine permease) 型輸送体の遺伝子発現解析	加藤啓太, 脇野真菜(神戸薬科大学), 大谷彩(神戸薬科大学), 土反伸和(神戸薬科大学)	2015.8	第 33 回日本植物細胞分子生物学会	*,*
26	国産デュラムコムギ系統中国 D166 号への赤カビ病耐性の付与に関する研究	加藤啓太, 船附稚子, 谷中美貴子, 大楠秀樹(日本製粉 中央研究所), 高田兼則	2016.3	育種学研究	18(別 1), 39
27	自然通風湿式シェルターの開発	黒瀬義孝	2015.12	中国・四国の農業気象	28,55-56
28	小規模プラスチックハウス内の循環扇気流の挙動	畔柳武司	2015.9	農業環境工学関連 5 学会 2015 年合同大会	*,*
29	Prediction of Leakage Rate of a Greenhouse using Computational Fluid Dynamics	畔柳武司	2015.7	ISHS symposium Greensys2015	*,*
30	数値流体力学解析による温室の隙間換気回数推定	畔柳武司	2015.9	農業環境工学関連 5 学会 2015 年合同大会	*,*
31	水稲多収品種北陸 193 号における玄米収量および飼料成分の施肥反応	小林英和, 千葉雅大, 長田健二	2016.3	日本作物学会第 241 回講演会要旨集	*.11
32	登熟期の気温が水稲胚乳組織の核内倍加に及ぼす影響	小林英和	2016.3	日本作物学会第 241 回講演会要旨集	*.233
33	微細断イネ WCS を用いた黒毛和種育成牛への給与技術の検討	後藤裕司, 大島一修, 山本直幸, 大谷一郎	2015.9	第 53 回肉用牛研究会岩手大会	*.15-17
34	既存施設利用拡張による団地型マルドリ方式の導入条件～山口県周防大島町の事例を対象として～	齋藤仁蔵, 兼常康彦(山口県農林総合技術センター), 岡崎芳夫(山口県柳井農林事務所), 原田直(山口県農林総合技術センター), 藤本敬胤(山口県山口農林事務所), 根角博久	2015.8	第 51 回東北農業経済学会新潟大会報告要旨	*.32
35	少数担い手集団による団地型マルドリ方式の評価と導入条件—三重県御浜町における 2 つの普及事例を対象として—	齋藤仁蔵, 上西啓資(三重県紀州地域農業改良普及センター), 須崎徳高(三重県農業研究所紀南果樹研究室), 根角博久	2015.9	平成 27 年度日本農業経営学会研究大会報告要旨	*.126-127
36	広島県中山間集落営農法人における飼料用米直播と大豆晩播の導入効果と課題	坂本英美	2015.9	平成 27 年度日本農業経営学会大会 個別報告要旨集	86
37	広島県中山間における転作大豆の単収に及ぼす要因解析と課題—集落営農法人の作業実施・圃場条件と単収—	坂本英美, 駄田井久(岡山大学), 横溝功(岡山大学)	2015.10	第 65 回地域農林経済学会大会 個別報告要旨集	24
38	ベビーリーフ用のコマツナ・ルッコラにおける Rhizoctonia 属菌による立枯性病害の発生リスク評価	佐藤恵利華, 関口博之, 村上弘治, 中田昌八(正八つくば)	2015.10	土と微生物	69(2), 113
39	浅いため池の底層域に設置した熱交換器の性能評価	佐藤恵一	2015.12	中国・四国の農業気象	28,51-52
40	日最低気温の発生時刻差の統計的評価に基づく平年差法の改良	佐藤恵一	2015.12	中国・四国の農業気象	28,11-12
41	「サチユタカ」へのウイルス病抵抗性導入系統の開発	猿田正恭, 高田吉丈	2015.9	育種学研究	17(別 2), 149
42	ダイズの葉形に関する準同質遺伝子系統の農業特性	猿田正恭, 高田吉丈, 山下謙一郎	2016.3	育種学研究	18(別 1), 147
43	暑熱期の飼料イネ WCS 給与が黒毛和種去勢牛の生産性に及ぼす影響	柴田昌宏, 曳野泰子, 松本和典, 山本直幸	2015.9	日本畜産学会第 120 回大会講演要旨	53
44	飼料イネ WCS を活用した黒毛和種肥育牛の暑熱対策	柴田昌宏, 曳野泰子, 松本和典, 山本直幸	2016.3	日本畜産学会第 121 回大会講演要旨	156

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
45	点滴灌水を導入した露地野菜栽培(ナス・ピーマン)の環境影響評価	志村もと子, 渡邊修一, 高橋英博, 松森堅治	2016.3	第 11 回日本 LCA 学会研究発表会	11,404-405
46	湿潤不織布による培地冷却がトマトの収量に及ぼす影響	杉浦誠, 矢野孝喜	2015.12	日本作物学会四国支部会報	52,20-21
47	捕食性天敵における寄主探索行動の変異は、天敵の定着性や防除効果に影響するか?	世古智一, 三浦一芸	2015.7	第 20 回農林害虫防除研究会大分大会講演要旨	34
48	タイリクヒメハナカメムシにおける採餌行動の個体間変異が害虫防除に及ぼす影響	世古智一, 三浦一芸	2015.10	第 31 回個体群生態学会大会プログラム・講演要旨集	38
49	ブラインシュリンブ耐久卵が露地での飛ばないナミテントウの定着に及ぼす効果	世古智一, 安部順一郎, 三浦一芸	2015.12	第 25 回天敵利用研究会静岡大会	15
50	飛ばないナミテントウの利用を促進する代替餌システムの開発	世古智一, 安部順一郎, 三浦一芸	2016.3	日本昆虫学会第 76 回大会・第 60 回日本応用動物昆虫学会大会合同大会	*84
51	イネにおける新規オーキシシン生成阻害剤 PPBo の作用解析	中村郁子(横浜市立大学・木原生物学研究所), 佐藤明子(横浜市立大学・木原生物学研究所), 渡部真由(横浜市立大学・木原生物学研究所), 國土祐未子, 石井貴広, 菊地理恵(横浜市立大学・木原生物学研究所), 寛雄介(横浜市立大学・木原生物学研究所), 添野和雄, 嶋田幸久(横浜市立大学・木原生物学研究所)	2015.10	植物の生長調節	50, 46
52	SCF TIR1/AFB を介したオーキシシン合成のフィードバック制御機構	高藤晋(横浜市立大学・木原生物学研究所), 三井麻里江(横浜市立大学・木原生物学研究所), 石田通介(横浜市立大学・木原生物学研究所), 鈴木優志(横浜市立大学・木原生物学研究所), 寛雄介(横浜市立大学・木原生物学研究所), 山崎千秋(横浜市立大学・木原生物学研究所), 石井貴広, 林謙一郎(岡山理科大学), 藤岡昭三(理化学研究所), 中村郁子(横浜市立大学・木原生物学研究所), 持田恵一(横浜市立大学・木原生物学研究所), 添野和雄, 嶋田幸久(横浜市立大学・木原生物学研究所)	2015.10	植物の生長調節	50, 47
53	普通系小麦からデュラム小麦に導入した穂発芽抵抗性に関する要因の種子休眠性への効果	高田兼則, 谷中美貴子, 船附稚子, 大楠秀樹(日本製粉)	2015.12	第 7 回中国地域育種談話会要旨集	*6
54	普通系小麦品種「ゼンコウジコムギ」の穂発芽抵抗性に関する MFT、5AL-QTL および種皮色を導入したデュラム小麦系統の種子休眠性	高田兼則, 谷中美貴子, 船附稚子, 大楠秀樹(日本製粉)	2016.3	育種学研究	18(別 1),185
55	褐斑・種子伝染抵抗性を有するダイズ新品種「たつまる」の育成	高田吉丈, 猿田正恭, 菊池彰夫, 岡部昭典	2015.9	育種学研究	17(別 2),147
56	オオムギ amo1 遺伝子を利用した高β-グルカン含量で多収の裸麦系統開発と加工利用の検討	高橋飛鳥, 吉岡藤治	2015.12	第 10 回ムギ類研究会	**
57	オオムギβ-グルカン含量が異なる準同質遺伝子系統における実肥が与える効果の差異	高橋飛鳥, 吉岡藤治	2016.3	育種学研究	18(別 1),213
58	作業計画・管理支援システム(PMS)の雑草防除計画への活用	高橋英博	2015.9	農業環境工学関連 5 学会 2015 年合同大会	*E501
59	播種時の耕耘法が異なる水田転換畑で栽培したダイズの生育比較	竹田博之, 渡邊修一, 岡部昭典, 片山勝之, 望月秀俊, 山崎諒	2016.3	日本作物学会第 241 回講演会要旨集	*160
60	フザリウムに関する実験のアイデア	竹原利明	2015.8	第 10 回フザリウム研究会資料集	*25

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
61	高温乾燥風による水稻白穂発生品の 種間差異	千葉雅大, 小林英和, 長田健二	2016.3	日本作物学会第 241 回講演会要 旨集	*35
62	北里八雲牛の環境影響評価	堤道生, 小野泰(北里大), 小笠原 英毅(北里大), 寶示戸雅之(北里 大)	2016.3	日本草地学会誌	62(別),17
63	ラストデータ配信サービスに関する 仕様の提案	寺元郁博	2015.9	農業環境工学関連 5 学会 2015 年合同大会	E501
64	シカにおける侵入可能な障害物の隙 間サイズの検討	堂山宗一郎, 江口祐輔, 上田弘則	2016.3	日本家畜管理学会・応用動物行 動学会 2016 年度春期合同研究 発表会	*,*
65	野生鳥獣における『管理』	堂山宗一郎	2016.3	2016 年度応用動物行動学会・ 日本家畜管理学会「動物の『管 理』とは何か?」を考えるワー クショップ	*,*
66	茎枯・立枯症状のダイズから分離し た <i>Phomopsis longicolla</i> Hobbs	富岡啓介, 野見山孝司, 関口博之, 大崎秀樹, 竹原利明, 山崎諒, 竹田 博之, 岡部昭典	2015.5	日本菌学会第 59 回大会講演要 旨集	*, 85
67	稲 WCS による耕畜連携の地域経済波 及効果	友國宏一	2015.9	平成 27 年度 日本農業経営学会 研究大会 報告要旨	*,168-169
68	ハウレンソウとダイコンに病 原性を有する <i>Colletotrichum</i> <i>dematium</i> (Persoon) Grove の菌株 MAFF238704 から作出した硝酸塩利 用能欠損変異株	富岡啓介, 野見山孝司, 関口博之, 大崎秀樹, 伊藤陽子, 竹原利明	2015.12	日本微生物資源学会誌	31 (2), 132
69	観光地立地型直売所における販売動 向・課題と特産品販売の経済効果	友國宏一	2016.3	2016 年度日本農業経済学会大 会個別口頭報告	*,*
70	出穂前の気温・施肥・栽植密度が「た ちあやか」の初数に及ぼす影響	中込弘二, 神田則昭(広島県総合 技術研究所畜産技術センター), 福 嶋陽, 藤本寛, 出田収, 重宗明子	2016.3	日本作物学会第 241 回講演会	241,10
71	瀬戸内地域における業務・加工用水 稲品種「あきだわら」「やまだわら」 の収量品質特性	長田健二, 小林英和, 千葉雅大	2015.7	日本作物学会中国支部研究収録	55,7-8
72	大粒×インド型交配由来の水稻多収 選抜系統の生育収量	長田健二, 千葉雅大, 小林英和	2016.3	日本作物学会第 241 回講演会講 演要旨集	*,138
73	春草の除草効果に及ぼすシートマル チ資材の特性	根角博久, 竹内新二(中国紙工業 株式会社), 國賀武	2015.9	園芸学研究	14 (別 2) ,335
74	バレイショ・テンサイ有用細菌の野 菜類に対する接種効果	野見山孝司, 関口博之, 岡崎和之, 森一幸(長崎県農林技術開発セン ター), 富濱毅(鹿児島県農業開発 総合センター)	2015.7	農業微生物研究シンポジウム	*,*
75	バレイショ・テンサイ有用細菌の野 菜類に対する接種効果	野見山孝司, 関口博之, 岡崎和之, 森一幸(長崎県農林技術開発セン ター), 富濱毅(鹿児島県農業開発 総合センター)	2015.10	日本微生物生態学会第 30 回土 浦大会	*,*
76	アルミ蒸着袋を用いた還元土壌消毒 の評価法の開発	野見山孝司, 石岡巖, 関口博之, 森 伸介, 富岡啓介, 大崎秀樹, 古屋成 人(九州大学大学院農学研究院), 土屋健一(九州大学大学院農学研 究院), 竹原利明	2016.3	平成 28 年度日本植物病理学会 大会	*,*
77	ハウレンソウの総ポリフェノール含 量の品種間差および季節変動	福永亜矢子, 西川万貴	2015.9	日本土壌肥料学会講演要旨	61,86
78	土壌の健康診断に基づく根こぶ病の 診断と対策、および課題	福永亜矢子	2015.11	第 5 回根こぶ病研究会要旨集	*,1-4
79	地下水位制御システムを利用した輪 作体系における水稻の節水型乾田直 播栽培	藤本寛	2015.7	日本作物学会中国支部研究集録	55,19-20
80	普通小麦からデュラム小麦に導入し た穂発芽耐性遺伝子の影響	船附稚子, 谷中美貴子, 高田兼則	2015.6	第 19 回穂発芽研究会 講演要 旨	*,*
81	分散・広域カンキツ園地群を対象と した ICT を活用した管理体系の構築	星典宏, 植山秀紀, 亀井雅浩, 根角 博久	2015.9	農業環境工学関連 5 学会 2015 年合同大会講演要旨	*,*
82	プラスチック製埋設部材を用いた樹 の水分ストレス維持手法の開発	星典宏, 根角博久, 國賀武, 植山秀 紀	2015.9	園芸学研究	14 (別 2) ,323

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
83	“放牧仕上げ熟ピーフ”(黒毛和種経産牛)の鉄・亜鉛含量	松本和典, 柴田昌宏, 山本直幸	2016.3	日本畜産学会第121回大会講演要旨	*,*
84	土地利用数値情報を用いた河川水質予測モデル	松森堅治, 清水裕太, 望月秀俊	2015.9	日本土壌肥料学会講演要旨集	61,11
85	Haplodiploidy 進化要因を再考する	三浦一芸	2015.9	日本昆虫学会第75回大会プログラム・講演要旨	*,75
86	カンキツ園からの土砂流出量の予測—点滴灌漑の水源地設計のために—	向井章恵, 島崎昌彦	2015.10	農業農村工学会九州沖縄支部大会講演要旨集	*,14-15
87	夏期ホウレンソウの生育に対する新規赤外線遮断ネット資材の影響	村上健二, 吉田祐子, 山崎敬亮, 生駒泰基, 福岡信之(石川県立大学), 能任信介(株)能任七)	2016.3	園芸学研究	15(別1),390
88	プロファイル土壌水分計 PR2/6 の測定誤差	望月秀俊, 小原輝之(中国四国農政局四国東部農地防災事務所), 田中一彦(中国四国農政局農村計画部), 亀高巧(中国四国農政局農村計画部)	2015.10	2015年度土壌物理学大会講演要旨集	*,132-133
89	湛水直播した鉄コーティング水稻種子に表生した <i>Fusicolla acetilerea</i>	森伸介, 関口博之, 高橋仁康, 藤本寛, 岡部昭典, 野見山孝司, 大崎秀樹, 富岡啓介	2015.5	日本菌学会第59回大会講演要旨集	*,77
90	異なる資材をコーティングした水稻直播種子近傍土壌の次世代シーケンサーによる細菌相解析	森伸介, 関口博之, 富岡啓介, 藤本寛, 岡部昭典	2015.5	日本土壌微生物学会2015年度大会講演要旨集	*,*
91	水稻湛水直播種子近傍土壌におけるマルチストレスの発生と発芽への影響	森伸介, 榊原風太(農環研), 山崎健一(農環研), 高木和広(農環研), 石岡巖, 添野和雄, 阿部大吾	2015.9	日本土壌肥料学会講演要旨集	61,108
92	Changes in the oxidation-reduction potential and in bacterial profiles in the soil around direct-seeded rice under submerged conditions	森伸介, 関口博之, 富岡啓介, 藤本寛, 岡部昭典	2015.11	Ecology of Soil Microorganisms 2015	*,192
93	コムギにおける穀粒ポリフェノールオキシダーゼが粉色、麴色に及ぼす影響	谷中美貴子, 大楠秀樹(日本製粉), 高田兼則, 船附稚子	2016.3	育種学研究	18(別1),274
94	イチゴの間欠冷蔵処理における非低温処理時の温度条件および高温遭遇時期の違いが頂花房の開花に及ぼす影響	矢野孝喜, 杉浦誠, 川嶋浩樹	2015.9	園芸学研究	14(別2),422
95	イチゴの間欠冷蔵処理における非低温処理時が高温である場合の昼夜温度較差が頂花房の開花に及ぼす影響	矢野孝喜, 杉浦誠, 川嶋浩樹	2016.3	園芸学研究	15(別1),317
96	気化潜熱利用培地冷却技術と無育苗栽培法の組合せによる促成イチゴの収量パターン	山崎敬亮, 金森健一(島根県農業技術センター), 村上健二, 吉田祐子, 生駒泰基	2015.9	園芸学研究	14(別2),406
97	UV-B 光の夜間照射および緑色光の終夜照射の併用がイチゴの生育に及ぼす影響	山崎敬亮, 山田真(パナソニック株式会社), 石渡正紀(パナソニック株式会社), 村上健二, 吉田祐子, 生駒泰基	2015.9	日本生物環境工学会2015年宮崎大会講演要旨集	*,182-183
98	イチゴ間欠冷蔵処理期における非低温処理時の光環境が処理効果に及ぼす影響	山崎敬亮, 吉田裕一(岡山大学大学院環境生命科学研究科), 村上健二, 吉田祐子, 生駒泰基	2016.3	園芸学研究	15(別1),309
99	暗条件から明条件への変化がダイズの青立ちに及ぼす影響	山崎諒, 竹田博之, 片山勝之, 岡部昭典	2016.3	日本作物学会第241回講演会要旨集	*,31
100	中小規模施設園芸における自然熱源の利用可能性について—小型ファンコイルの冷房性能評価—	吉越恆, 川嶋浩樹, 佐藤恵一	2015.12	中国・四国の農業気象	28,9-10
101	岩手県沿岸地域に適した耐候性ハウスの立地性と現地実証	吉越恆, 長崎裕司, 松田周, 川嶋浩樹, 杉浦誠, 太田祐樹(岩手県農業研究センター), 川村浩美(岩手県農業研究センター)	2015.9	農業環境工学関連5学会2015年合同大会講演要旨集	*,*
102	中山間地域に適応した施設園芸技術の開発と課題	長崎裕司, 川嶋浩樹, 吉越恆, 松田周	2015.9	農業環境工学関連5学会2015年合同大会講演要旨集	*,*
103	5Wの太陽電池モジュールで実現する通風シェルターと温湿度遠隔モニタリング	吉越恆, 植山秀紀, 黒崎秀仁	2015.9	農業環境工学関連5学会2015年合同大会講演要旨集	*,*

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
104	岩手県沿岸地域に施工した布団ハウスにおける室温推定モデル—無植栽・無加温時の場合—	松田周,吉越恆,川嶋浩樹,長崎裕司,山田修(岩手県中央農業改良普及センター)	2015.9	農業環境工学関連5学会2015年合同大会講演要旨集	*,*
105	イチジク蓬莱柿のヤケ果低減に向けた点滴灌水導入の検討	渡邊修一,原敬和(広島県東部農業技術指導所),川本和彦(広島県東部農業技術指導所),中田史乃(広島県東部農業技術指導所),藤岡優香(広島県西部農業技術指導所)	2015.12	土壌肥料学会関西支部講演会要旨集	38
106	点滴灌水を導入した露地ナス栽培圃場からの一酸化二窒素発生量	渡邊修一,松森堅治,志村もと子	2015.8	土壌肥料学会講演要旨集	61,184
107	米価等低下における中山間集落営農法人の収益確保方策—数理計画法の適用による部門構成と採用技術の解明—	渡部博明	2015.10	第65回地域農林経済学会大会個別報告要旨集	*,*
108	ICTの農業利用に向けた取り組みについて(フルッククラウド・サイトや50mメッシュ気温図など)	植山秀紀,鯨幸和(和歌山県果樹試験場),池田晴佳(和歌山県果樹試験場),川井大輔(富士通株式会社)	2015.9	農業環境工学関連5学会2015年合同大会講演要旨	*,*
109	50m精密気温予測データを利用した栽培支援システムの開発と実用上の課題—兵庫県の酒米(山田錦)産地を事例として—	植山秀紀,加藤雅宣(兵庫県立農林水産技術総合センター),池上勝(兵庫県立農林水産技術総合センター),川向肇(兵庫県立大学)	2015.9	農業環境工学関連5学会2015年全国大会講演要旨	*,*
110	characteristics of social entrepreneurs in promoting organic agriculture- case from Fresh Start Organic Group in Negros Island, Philippines-	下口ニナ(東京農業大学),安江紘幸,河野洋一(帯広畜産大学),稲泉博己(東京農業大学),大室健治	2015.9	平成27年度日本農業経営学会研究大会報告要旨	198-199
111	ダイズにおける子実タンパク質含有率のゲノム予測と選抜の試行	関根大輔(農業生物資源研究所),津田麻衣(農業生物資源研究所/筑波大学),清水武彦(農業生物資源研究所),町田佳代(農業生物資源研究所),矢部志央理(農研機構・中央農研/東京大学),猿田正恭,山田哲也,石本政男(農業生物資源研究所),岩田洋佳(東京大学),加賀秋人(農業生物資源研究所)	2016.3	育種学研究	18(別1),130
112	飼料用イネ WCS の品種の違いが黒毛和種雌牛の消化性、窒素利用率および第一胃内溶液性状へ及ぼす影響	前田友香(宮崎県畜産試験場),西村慶子(宮崎県畜産試験場),柴田昌宏	2015.9	日本畜産学会第120回大会講演要旨	53
113	低リジン飼料給与による筋肉遊離アミノ酸量の増加へ成熟が与える影響	渡邊源哉(新潟大学),小林裕之(新潟大学),柴田昌宏,久保田真敏(新潟大学),門脇基二(新潟大学),藤村忍(新潟大学)	2015.9	日本畜産学会第120回大会講演要旨	60
114	Novel chemical tools for auxin biology auxin-biosynthesis inhibitors.	Yukihisa Shimada(横浜市大・木原生物研),Yusuke Kakei(横浜市大・木原生物研),Ayako Nakamura(横浜市大・木原生物研),Kazuo Soeno	2015.12	2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Hawaii)	*,203
115	Auxin biosynthesis inhibitor effectively targets YUCCA	Yusuke Kakei(横浜市大・木原生物研),Chiaki Yamazaki(横浜市大・木原生物研),Masashi Suzuki(横浜市大・木原生物研),Ayako Nakamura(横浜市大・木原生物研),Akiko Sato(横浜市大・木原生物研),Yusuke Ishida(横浜市大・木原生物研),Rie Kikuchi(横浜市大・木原生物研),Shouichi Higashi(横浜市大・木原生物研),國土祐未子,石井貴広,添野和雄,Yukihisa Shimada(横浜市大・木原生物研)	2015.12	2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Hawaii)	*,204

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
116	YUCCA を標的としたオーキシン合成阻害剤作用機構解析の続報 (Phenylboronic acid analogs are effective auxin biosynthesis inhibitors targeting YUCCA)	寛雄介 (横浜市立大学・木原生物学研究所), 山崎千秋 (横浜市立大学・木原生物学研究所), 鈴木優志 (横浜市立大学・木原生物学研究所), 中村郁子 (横浜市立大学・木原生物学研究所), 佐藤明子 (横浜市立大学・木原生物学研究所), 石田通介 (横浜市立大学・木原生物学研究所), 菊地理絵 (横浜市立大学・木原生物学研究所), 東昌市 (横浜市立大学), 國土祐未子, 石井貴広, 添野和雄, 嶋田幸久 (横浜市立大学・木原生物学研究所)	2016.3	Abstract Book Annual Meeting of JSPP 2016	*, 241
117	SCFTIR1 複合体を介したオーキシン合成のフィードバック制御機構 (Feedback regulation of Auxin biosynthesis through SFC/TIR1 complex)	高藤晋 (横浜市立大学・木原生物学研究所), 三井麻利江 (横浜市立大学・木原生物学研究所), 石田通介 (横浜市立大学・木原生物学研究所), 鈴木優志 (横浜市立大学・木原生物学研究所), 寛雄介 (横浜市立大学・木原生物学研究所), 山崎千秋 (横浜市立大学・木原生物学研究所), 石井貴広, 林謙一郎 (岡山理科大), 藤岡昭三 (理研), 中村郁子 (横浜市立大学・木原生物学研究所), 持田恵一 (横浜市立大学・木原生物学研究所), 添野和雄, 嶋田幸久 (横浜市立大学・木原生物学研究所)	2016.3	Abstract Book Annual Meeting of JSPP 2016	*, 239
118	アミロース含量の異なるいくつかの大麦澱粉の構造と性質 (第2報)	井ノ内直良 (福山大学生命工学部), 高橋飛鳥, 中浦嘉子, 久保田結香 (福山大学生命工学部), 吉岡藤治	2015.9	日本応用糖質科学会	**, *
119	レタスピッグベイン病激発圃場における露地型土壌還元消毒の効果	米本謙悟 (徳島農総技支セ), 佐藤泰三 (徳島農総技支セ), 田村收 (徳島農総技支セ), 佐原義和 (徳島農総技支セ), 竹原利明	2016.3	平成 28 年度日本植物病理学会大会講演要旨集	*, 122
120	島根県三瓶山東の原における草原の管理放棄に伴う種組成の変化	横川昌史 (大阪市立自然史博物館), 井上雅仁 (島根県立三瓶自然館), 増井太樹 (岐阜大学), 太田陽子 (緑と水の連絡会議), 白川勝信 (北広島町立芸北高原の自然館), 堤道生, 高橋佳孝 (退職)	2016.3	日本生態学会	P2-013
121	火入れ草地における絶滅危惧種ヤマトキソウの生育環境	井上雅仁 (島根県立三瓶自然館), 高橋佳孝 (退職), 堤道生	2016.3	日本生態学会	P2-354
122	イノシシにおける 4 種類の図形の弁別	坂倉健太 (麻布大学大学院), 江口祐輔, 上田弘則, 堂山宗一郎, 植竹勝治 (麻布大学), 田中智夫 (麻布大学)	2016.3	日本家畜管理学会・応用動物行動学会 2016 年度春期合同研究発表会	**, *
123	本州中山間地における飼料専用品種「たちあやか」の種子生産に関する研究	土方浩嗣 (家畜改良センター茨城牧場), 中込弘二, 加藤知寿子 (家畜改良センター茨城牧場), 川口優 (家畜改良センター茨城牧場)	2016.3	日本草地学会石川大会	**, *
124	豚ふん堆肥連用圃場におけるリン・洞・亜鉛の蓄積携帯と経年変化	山本航介 (東京農工大 BASE), 橋本洋平 (東京農工大 BASE), 佐藤恵利華, 福永亜矢子, 豊田剛己 (東京農工大 BASE)	2015.9	日本土壌肥料学会講演要旨	61, 18
125	飼料用水稲および飼料米栽培における施肥コスト低減と多筆管理上の留意点	大家理哉 (岡山県農林水産総合センター), 鷲尾建紀 (岡山県農林水産総合センター), 藤本寛	2015.9	平成 27 年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集	*, 90-91
126	団地型マルドリ方式におけるかん水の流量情報の活用技術の開発	小泉博一 (NEC ソリューションイノベーション), 星典宏, 神谷俊之 (NEC ソリューションイノベーション)	2015.9	農業環境工学関連 5 学会 2015 年合同大会講演要旨	**, *

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等	年・月	雑誌名等	巻(号),頁
127	樹上完熟レモン'の果重および果皮色別の果実品質と果皮糖含量	菊池知古(東京都産業労働局島しょ農林水産総合センタ), 星典宏, 吉田滋美(東京都産業労働局島しょ農林水産総合センタ), 根角博久	2015.9	園芸学研究	14(別2),324
128	中山間地流域における物質輸送に及ぼす耕作放棄地の影響評価	清水裕太, 小野寺真一(広島大学), 松森堅治	2015.5	日本地球惑星科学連合	*,*
129	Impact analysis of the decline of agricultural land-use on flood risk and material flux in hilly and mountainous watersheds	清水裕太, 小野寺真一(広島大学), 高橋英博, 松森堅治	2015.5	XXVI General Assembly in The International Union of Geodesy and Geophysics (IUGG)	*,*
130	地下水水位制御システム設置枠圍場における設定地下水水位と窒素流出量の関係	清水裕太, 笠原賢明, 松森堅治, 望月秀俊, 竹田博之, 石川直幸, 奥野林太郎	2015.9	土壌肥料学会講演要旨集	61,9
131	地下水水位制御システム設置枠圍場における設定地下水水位と窒素流出量の関係	清水裕太, 笠原賢明, 望月秀俊, 松森堅治, 奥野林太郎	2015.10	日本水文科学学会学術大会	30,27-28
132	Estimation of sediment and nutrient fluxes from suburban watershed using SWAT	清水裕太, 小野寺真一(広島大学), 松森堅治	2015.10	International SWAT-Asia Conference IV	*,34
133	シジミチョウ科オオルリシジミの分子系統地理	伊藤勇人(東京大学総研博), 三浦一芸, 阿部芳久(九州大学比文), 村田浩平(九州東海大学農学), 山下秀次(九州東海大学農学), 矢後勝也(東京大学総研博)	2015.9	日本昆虫学会第75回大会プログラム・講演要旨	*,52
134	有用天敵の薬剤抵抗性系統選抜の可能性について	西森敬晃(広島大学生物圏), 田村光記(山口大学農学), 竹松葉子(山口大学農学), 三浦一芸	2015.9	日本昆虫学会第75回大会プログラム・講演要旨	*,50
135	NGSを用いた捕食者餌メニュー分析の問題点	南部隆宏(神戸大学農学), 小川遼(神戸大学農学), 前藤薫(神戸大学農学), 三浦一芸	2015.9	日本昆虫学会第75回大会プログラム・講演要旨	*,50
136	琉球産ヤマトシロアリ属のミトコンドリア及び核DNAに基づく分子系統解析と琉球列島における分布形成	高倉武(山口大農), 竹松葉子(山口大農), 三浦一芸	2016.3	日本昆虫学会・日本応用動物昆虫学会合同大会	*,140
137	琉球産ヤマトシロアリ属の分子系統に基づく分類形質評価	竹松葉子(山口大農), 高倉武(山口大農), 三浦一芸	2016.3	日本昆虫学会・日本応用動物昆虫学会合同大会	*,141
138	NGSを用いた捕食者餌メニュー分析手法の改善	南部隆宏(神戸大農), 小川遼(神戸大農), 前藤薫(神戸大農), 三浦一芸	2016.3	日本昆虫学会・日本応用動物昆虫学会合同大会	*,192
139	アメンボタマゴクロバチ(Tiphodytes)属の分子生物学的手法を用いた解析の検討2	西森敬晃(広島大生物圏), 山岸健三(名城大農), 三浦一芸	2016.3	日本昆虫学会・日本応用動物昆虫学会合同大会	*,204
140	共生微生物を人為的に移植した寄生蜂の産雌性単為生殖化の試み	對馬佑介(広島大生物圏), Kao Gary(広島大生物圏), 三浦一芸	2016.3	日本昆虫学会・日本応用動物昆虫学会合同大会	*,196
141	面源負荷原単位の簡易推定法の提案、およびその妥当性の検討	吉川省子(農環研), 望月秀俊, 高橋英博	2015.5	日本地球惑星科学連合 連合大会 2015	*,*
142	For developing of an alternative model on temperature dependence of soil thermal conductivity	Iwao Sakaguchi(埼玉大学), 望月秀俊, Arata Katayama(名古屋大学), Tatsuaki Kasubuchi(山形大学), Takeshi Saito(埼玉大学), Ken Kawamoto(埼玉大学), Toshiko Komatsu(埼玉大学)	2015.11	International Symposium on EcoTopia Science 2015	*,*
143	ボーリングコアサンプルの熱伝導率の温度依存性	坂口巖(埼玉大学), 望月秀俊, 斎藤健志(埼玉大学), 川本健(埼玉大学), 小松登志子(埼玉大学)	2015.9	環境科学会 2015 年会 講演要旨集	*,3
144	可動式光反射シートがイチゴ'紅い栗'高設栽培における光環境と生育および収量に及ぼす影響	大西亮樹(愛媛県農林水産研究所), 山崎敬亮, 永井賢治(愛媛県農林水産研究所), 中川健也(愛媛県農林水産研究所)	2015.9	園芸学研究	14(別2),176

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
145	高設栽培システムの違いが無育苗栽培法によるイチゴ促成栽培の収量に及ぼす影響	金森健一(島根県農業技術センター),山崎敬亮,松崎朝浩(香川県農業試験場),内山知二(大阪府立環境農林水産総合研究所),森川信也(大阪府立環境農林水産総合研究所),大西亮樹(愛媛県農林水産研究所),石津文人(島根県農業技術センター)	2015.9	園芸学研究	14(別2),177
146	イチゴ高設栽培システムの違いが無育苗栽培法による2作目の生育・開花に及ぼす影響	金森健一(島根県農業技術センター),山崎敬亮,松崎朝浩(香川県農業試験場),小川彰子(香川県農業試験場),森川信也(大阪府立環境農林水産総合研究所),金剛穂波(大阪府立環境農林水産総合研究所),大西亮樹(愛媛県農林水産研究所),石津文人(島根県農業技術センター)	2016.3	園芸学研究	15(別1),131
147	もち性大麦配合ごはんの摂取による介護老人保健施設入所者の便秘改善と下剤使用減について	谷口啓子(美作市立作東老人保健施設),遠藤順朗(美作市立作東老人保健施設),小前幸三(農研機構フェロー),吉岡藤治,高橋飛鳥,曾根良昭(美作大学)	2015.9	第62回日本栄養改善学会学術集会	*,*
148	地域木質資源を燃料としたバイオマス加温機による暖房効果と排熱の利用	千葉彩香(岩手県農業研究センター),太田祐樹(岩手県農業研究センター),川村浩美(岩手県農業研究センター),鈴木朋代(岩手県農業研究センター),藤尾拓也(岩手県農業研究センター),石村真一(石村工業株式会社),小国克也(石村工業株式会社),水戸谷剛(東日本機電開発株式会社),佐藤良(東日本機電開発株式会社),赤堀卓央(東日本機電開発株式会社),田上栄司(東日本機電開発株式会社),山田修(岩手県中央農業改良普及センター),松田周,吉越恆,小野寺牧民(東日本機電開発株式会社)	2015.9	農業環境工学関連5学会2015年合同大会講演要旨集	*,*
149	地域木質資源を利用したハウスの構造および地域適応性	鈴木朋代(岩手県農業研究センター),熊谷秀明(木楽創研株式会社),太田祐樹(岩手県農業研究センター),千葉彩香(岩手県農業研究センター),藤尾拓也(岩手県農業研究センター),山田修(岩手県中央農業改良普及センター),松田周,吉越恆,川村浩美(岩手県農業研究センター)	2015.9	農業環境工学関連5学会2015年合同大会講演要旨集	*,*
150	地域木質資源を利用したハウスの園芸への利用拡大に向けた現状と課題	太田祐樹(岩手県農業研究センター),熊谷秀明(木楽創研株式会社),千葉彩香(岩手県農業研究センター),鈴木朋代(岩手県農業研究センター),藤尾拓也(岩手県農業研究センター),山田修(岩手県中央農業改良普及センター),吉越恆,松田周,川村浩美(岩手県農業研究センター)	2015.9	農業環境工学関連5学会2015年合同大会講演要旨集	*,*
151	生産現場での天敵利用の現状と今後の展開	柿元一樹(鹿児島農総セ),安部順一朗	2016.3	日本昆虫学会第76回大会 第60回日本応用動物昆虫学会大会 合同大会 小集会「第1回天敵利用を考える会 天敵利用の最近の動向と今後の展開」	*,254

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等	年.月	雑誌名等	巻(号),頁
152	土壌中での有機物の分解と土壌消毒資材としての適性	石岡巖,野見山孝司,森伸介,竹原利明	2015.9	平成27年度(2015年)近畿中国四国試験研究推進会議土壌肥料推進部会問題別研究会資料	22-25
153	なぜ大豆畑で帰化アサガオが蔓延するのか	石岡巖,窪田潤,橘雅明,奥野林太郎	2015.9	平成27年度(2015年)近畿中国四国試験研究推進会議土壌肥料推進部会問題別研究会資料	42-45
154	高齢・障がい者による省力的果樹栽培を想定した拍動かん水技術の開発	笠原賢明	2015.12	多様な主体による農業参入支援技術の普及に関する研究会PART 2	*,*
155	「果樹農業における技術開発動向と経営的評価の課題」に対するコメント	棚田光雄	2015.9	日本農業経営学会大会第3分科会	*,*
156	単為生殖系統から両性生殖系統がわかれたのか?	三浦一芸	2016.3	日本昆虫学会・日本応用動物昆虫学会合同大会講演要旨	*,234
157	あなたは寄生蜂の性についてどこまで知っていますか?	三浦一芸	2016.3	日本昆虫学会・日本応用動物昆虫学会合同大会	*,257

V 研究情報活動

4) その他

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁 (参加人数)
1	洋菓子類製造用米粉ブレンド粉とそれを用いた洋菓子類	船附稚子, 山内宏昭(帯広畜産大学), 長澤幸一, 西尾善太, 野田高弘, 瀧川重信, 鈴木達郎, 遠藤千絵, 山本嘉彦(江別製粉(株)), 山本マサヒコ((株)山本忠信商店), 佐藤英司((株)山本忠信商店)	2015.7	日本	2011-045442
2	パン類、麺類、菓子類向けブレンド用米粉	船附稚子, 山内宏昭(帯広畜産大学), 西尾善太, 野田高弘, 長澤幸一, 鈴木達郎, 瀧川重信, 遠藤千絵, 早野由里子, 山本嘉彦(江別製粉(株)), 山本マサヒコ((株)山本忠信商店), 佐藤英司((株)山本忠信商店)	2015.12	日本	2010-243123
3	自然通風湿式シェルター及び測定装置	黒瀬義孝	2015.8	日本	2015-156029
4	農村における畦畔法面での二重ネット工法によるシバ植栽方法	伏見昭秀, 橘雅明, 長沼和夫(ゾイシアンジャパン株式会社)	2015.5	日本	特願 2015-106144
5	Plant Apex Tracker	黒崎秀仁, 梅田大樹	2016.1	職務作成プログラム	
6	イネ縞葉枯病抵抗性品種「恋の予感」の育成と今後の普及	出田収	2016.2	植物防疫	70,84-88
7	天敵の育種 飛ばないテントウムシ	世古智一	2015.7	化学と生物	53(8), 542-546
8	カンキツ作における加工事業の取組実態—ビジネスモデルの視点から—	棚田光雄, 河野恵伸	2016.3	近畿中国四国農研農業経営研究	26,100-114
9	果樹産業における地域戦略モデルの収益性向上の可能性と条件—カンキツ作における6次産業化の展開—	棚田光雄	2016.3	中央農業総合研究センター経営研究	64,25-38
10	肥料の種類に注意して小麦のカドミウム濃度を下げる	石川直幸	2015.9	近中四農研ニュース	57,4
11	棚田跡地のアスパラガス栽培圃場の灌水を自動化する	笠原賢明	2016.1	近中四農研ニュース	59,3
12	トマト着果処理ロボットの開発	黒崎秀仁	2015.9	近中四農研ニュース	57,5
13	免疫機能を活性化する食品成分の探索	齋藤武	2015.11	近中四農研ニュース	58,4
14	畜産技術研究のご紹介「革新的赤身牛肉生産コンソーシアムの取り組み」	柴田昌宏	2015.7	関西畜産学会報	4
15	植物ホルモン・オーキシンの生合成を制御せよ!	添野和雄	2016.1	近中四農研ニュース	59,5
16	中山間の資源を活用した土壌消毒法の実用化	竹原利明	2016.3	近中四農研ニュース	60,3
17	防護柵への侵入経験がイノシシの行動に及ぼす影響	堂山宗一郎	2016.3	近中四農研ニュース	60,5
18	田んぼで牛のエサを作る専用品種の開発	中込弘二	2015.10	近中四農研ニュース	58,3
19	中山間の草刈りを軽労化する小型除草ロボット	中元陽一	2016.3	近中四農研ニュース	60,4
20	土壌中の酸素を遮断して植物病害を防除する	野見山孝司	2016.1	近中四農研ニュース	59,4
21	夏作ホウレンソウの遮光栽培における品質向上技術	吉田祐子	2015.11	近中四農研ニュース	58,5
22	主食用米価格が低迷する中で、何をどれだけ作れば収益を上げられるか?	渡部博明	2015.9	近中四農研ニュース	57,3
23	天敵温存技術に利用可能な天敵温存植物と土着天敵	安部順一郎	2016.1	技術と普及	53,19-21
24	小麦の品質に関わるグルテンの遺伝的素質について	池田達哉	2015.10	全国米麦改良協会	10,2-8

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁 (参加人数)
25	高品質大豆品種「あきまる」の地下水水位制御システム(フォアス)を利用した安定生産技術	岡部昭典	2016.3	平成26・27年度近畿産大豆生産・需要拡大協議会報告書	*7-8
26	タイヌビエの生育抑制を目的とした飼料イネ湛水直播様式と目標苗立ち数	橘雅明	2015.12	農業技術体系 作物編 追録第37号(農文協)	
27	タイヌビエの生育抑制を目的とした飼料イネ湛水直播様式と目標苗立ち数	橘雅明	2015.12	最新農業技術『作物 vol.8』(農文協)	8,46-50
28	カンキツ作における加工事業拡大型ビジネスモデル(1) —その事業活動と運営体制—	棚田光雄	2015.10	果実日本	70(10),75-78
29	カンキツ作における加工事業拡大型ビジネスモデル(2) —その構成要素とポイント—	棚田光雄	2015.11	果実日本	70(11)75-78
30	カンキツ作における加工事業拡大型ビジネスモデル(3) —その経済的成果と意義—	棚田光雄	2015.12	果実日本	70(12),19-22
31	耕作放棄地の植生と牧養力	堤道生	2016.1	畜産技術	728,6-8
32	鳥獣被害対策関連制度早わかりマニュアル	鈴木正嗣(岐阜大学), 山端直人(三重県農業研究所), 古谷益朗(埼玉県農業技術研究センター), 江口祐輔	2016.3	鳥獣被害対策関連制度早わかりマニュアル	***
33	6. カンキツ類とその加工品の真正評価に関する研究: 沖縄産シークワシャー品種判別への展開	太田英明(中村学園大学), 山本健太(中村学園大学), 矢羽田歩(中村学園大学), 野方洋一	2015.4	ソフト・ドリンク技術資料	175(1), 71-90
34	環境にやさしい病害虫防除技術 天敵を味方につけて害虫を叩く!	安部順一郎	2015.5	福山市園芸振興連絡協議会研修会(福山市、アルセ)	70名
35	天敵を活かすための研究開発 景観植物を利用した天敵の保護・強化を中心に	安部順一郎	2015.6	九州昆虫セミナー(佐賀大学農学部)	50名
36	天敵を活かすための研究開発 景観植物を利用した天敵の保護・強化を中心に	安部順一郎	2015.7	鳥取大学昆虫セミナー(鳥取大学農学部)	25名
37	瑞穂地区におけるハウレンソウケナガコナダニの調査結果	安部順一郎	2015.7	ハウレンソウケナガコナダニの効果的な防除に向けた講習会(JA 京都瑞穂支店)	36名
38	バンカー法とバンカー植物	安部順一郎	2015.10	農研機構シンポジウム「バンカー法による天敵利用の新展開」(今池ガスホール)	251名
39	天敵温存技術に関する最近の話題	安部順一郎	2015.11	福山市園芸振興連絡協議会視察(近畿中国四国農業研究センター コミュニケーションルーム)	15名
40	天敵温存植物等を利用した植生管理による害虫防除技術の研究開発	安部順一郎	2015.12	平成27年度全国農業システム化研究会 園芸作物における生物農薬等を活用した総合的病害虫管理(IPM)に関する研修会(高知サンライズホテル)	102名
41	バンカー植物の選定と管理法	安部順一郎, 綱島健司(岡山県農林水産総合センター農業研究所), 飛川光治(岡山県農林水産総合センター農業研究所)	2015.12	施設キュウリとトマトにおけるIPMのためのタバコカスミカメ利用技術マニュアル	**
42	なす栽培における天敵利用について	安部順一郎	2016.2	天敵利用に関する勉強会(JA 倉敷かさや笠岡営農センター)	10名
43	シソ科植物由来成分は培養筋細胞の脂肪酸代謝を促進する	阿部大吾	2015.11	四国オープンイノベーションワークショップ	150名
44	近畿中国四国農業研究センターにおける機能性研究の展開	阿部大吾, 齋藤武, 野方洋一	2016.1	産業技術連携推進会議四国地域部会 食品健康産業分科会食品機能性評価研究会	20名
45	製パン性に関わる小麦品種の遺伝的素質について	池田達哉	2015.5	敷島製パン(株) 講演会	20名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁 (参加人数)
46	製パン性に関わる小麦品種の遺伝的素質について	池田達哉	2015.7	全粉協アドバンス.21 研修会	50 名
47	フランス産小麦と国産小麦の特性の違いについて	池田達哉	2016.3	Pain (J・I・B)	63(3).10-14
48	サツマイモあれこれ	生駒泰基	2016.3	農業のライフアンドワーク (FMいかる)	
49	「恋の予感」育種について	出田収	2015.4	JA 福山市水稲新品種「恋の予感」生産者大会	約 300 名
50	これから求められる水稲・飼料用米品種について	出田収	2016.1	兵庫県奨励品種審査会幹事会	27 名
51	高温登熟下での水稲品質低下要因とその対策及び温暖化に適応した水稲新品種の育成	出田収	2016.2	岡山地域農業技術者連絡協議会作物部会研修会	25 名
52	1 環境変動に適応した水稲品種の開発 (1) ゲノム情報を利用したイネ高温耐性品種の育成 ② 温暖地西部向き優良品種	出田収	2016.3	研究成果第 554 集 気候変動に対応した循環型食料生産等の確立のための技術開発 ―気候変動に対応したイネ科作物・品種の開発―	554.20-26
53	やせいどうぶつ	上田弘則	2015.4	野菜栽培体験道場 (邑智小学校)	50 名
54	鳥獣被害はなぜ起こるのか	上田弘則	2015.5	第 1 回鳥獣被害対策技術指導研修会 (広島県・近中四主催)	50 名
55	平成 27 年度埼玉県農作物鳥獣害防止指導者育成研修	上田弘則	2015.6	野生動物の生態からわかる被害対策 (埼玉県主催)	40 名
56	ほにゅうるい	上田弘則	2015.6	野菜栽培体験道場 (邑智小学校)	50 名
57	鳥獣害対策	上田弘則	2015.7	広島県農業技術大学校カリキュラム	50 名
58	野生動物の行動と被害対策 (イノシシ・シカ編)	上田弘則	2015.7	第 2 回鳥獣被害対策技術指導研修会 (広島県・近中四農研主催)	50 名
59	野生動物の行動と被害対策 (サル・クマ編)	上田弘則	2015.9	第 3 回鳥獣被害対策技術指導研修会 (広島県・近中四農研主催)	50 名
60	被害対策の基本的な考え方	上田弘則	2015.9	山口大学農学部生物資源環境科学科鳥獣害研修会	20 名
61	野生動物の生態と行動からわかる被害対策	上田弘則	2015.9	大分県鳥獣害対策アドバイザー養成研修会 (第 3 回)	100 名
62	やせいどうぶつとのつきあいかた	上田弘則	2015.10	野菜栽培体験道場 (邑智小学校)	50 名
63	野生動物の生態と行動からわかる被害対策	上田弘則	2015.10	大分県鳥獣害対策アドバイザー養成研修会 (第 4 回)	100 名
64	被害対策の基本的な考え方	上田弘則	2015.10	NHK 中山間地域 (里山) 課題研修会	5 名
65	中型獣の見分け方と被害対策	上田弘則	2015.11	第 4 回鳥獣被害対策技術指導研修会 (広島県・近中四農研主催)	50 名
66	シカの生態と行動に基づいた被害対策	上田弘則	2015.11	島根県県央地区鳥獣害対策研修会	80 名
67	鳥獣害対策のまとめ	上田弘則	2016.1	第 5 回鳥獣被害対策技術指導研修会 (広島県・近中四農研主催)	50 名
68	集落ぐるみの獣害対策	上田弘則	2016.2	安芸高田市獣害対策研修	20 名
69	園地気象推定技術の生産現場での活用に向けた取り組み	植山秀紀	2015.10	平成 27 年度中国四国地域マッチングフォーラム「カンキツ農業における担い手の規模拡大と新規就農者支援による産地力強化を目指して	186 名
70	農業支援システムの基盤となる精密気象情報	植山秀紀	2015.12	平成 27 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議農業環境工学推進部会問題別研究会	70 名
71	気象変動に対応した栽培を実現する園地環境推定システム	植山秀紀	2016.1	香川の果樹 (香川県果樹研究同士の会)	185, 25-27
72	ICT を活用した精密園地気象推定技術によるカンキツ栽培支援や栽培適地評価	植山秀紀	2016.2	高品質安定生産を支えるマルチ方式を基軸とした技術カタログ集	*.1001r

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁 (参加人数)
73	気象庁データ等を用いた農地環境推定技術の開発	植山秀紀	2016.2	平成 27 年度近畿地域農業気象協議会	29 名
74	鳥獣被害はなぜ起こるのか	江口祐輔	2015.5	第 1 回平成 27 年度鳥獣被害対策技術指導研修会	40 名
75	イノシシ・シカ等の行動特性と被害対策について	江口祐輔	2015.6	平成 27 年度埼玉県鳥獣害防止指導者育成研修	40 名
76	サル被害対策と被害に強い集落対策	江口祐輔	2015.6	平成 27 年度第 1 回大分県鳥獣害対策アドバイザー養成研修会(白杵市)	50 名
77	イノシシ・シカ被害等に強い集落対策	江口祐輔	2015.6	平成 27 年度第 2 回大分県鳥獣害対策アドバイザー養成研修会	60 名
78	大型野生動物の行動特性と被害対策	江口祐輔	2015.7	第 2 回平成 27 年度鳥獣被害対策技術指導研修会	40 名
79	野生鳥獣による農作物被害対策と資源化の関係-動物と人の行動学-	江口祐輔	2015.7	日本大学生物資源科学部動物医科学研究センターセミナー	100 名
80	獣害対策の考え方と新島村におけるシカ管理について	江口祐輔	2015.7	獣害防止対策支援事業・新島村獣害検討会	30 名
81	被害対策とジビエについて	江口祐輔	2015.7	近畿地域野生鳥獣対策連絡協議会	30 名
82	イノシシの行動と被害防止対策	江口祐輔	2015.8	氷見市鳥獣被害防止対策協議会講演会	60 名
83	イノシシ被害防止対策集落環境点検と捕獲について	江口祐輔	2015.8	氷見市鳥獣被害防止対策協議会現地研修会	40 名
84	ニホンザルの行動特性と被害対策	江口祐輔	2015.9	第 3 回平成 27 年度鳥獣被害対策技術指導研修会	40 名
85	野生動物の行動と被害対策	江口祐輔	2015.9	平成 27 年度第 3 回大分県鳥獣害対策アドバイザー養成研修会(竹田市)	100 名
86	野生動物の行動と被害対策	江口祐輔	2015.9	平成 27 年度第 4 回大分県鳥獣害対策アドバイザー養成研修会	100 名
87	イノシシの生態と行動特性を考慮した効果的な被害対策のあり方	江口祐輔	2015.10	環境省委託事業特定鳥獣の保護・管理に係る研修会(上級編イノシシ)	50 名
88	中型動物の行動特性と対策	江口祐輔	2015.11	第 4 回平成 27 年度鳥獣被害対策技術指導研修会	40 名
89	野生動物の行動特性と被害防止対策について	江口祐輔	2015.11	岡山畜産協会平成 27 年度野生動物衛生体制整備緊急対策事業に係る研修会	60 名
90	野生鳥獣による被害対策 Q&A 捕獲に関する Q&A	江口祐輔	2015.11	農耕と園芸	70(12),62-65
91	野生鳥獣による被害対策 Q&A 捕獲に関する Q&A 2	江口祐輔	2015.12	農耕と園芸	71(1),62-65
92	農地周辺の環境管理について	江口祐輔	2015.12	平成 27 年度農作物獣害防止対策支援事業現地検討会(東京都農業振興事務所)	15 名
93	野生動物の行動と被害対策について	江口祐輔	2015.12	東京都平成 27 年度農作物獣害防止対策支援事業現地検討会講演	50 名
94	鳥獣害対策の考え方について	江口祐輔	2015.12	平成 27 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議鳥獣害推進部会問題別研究会	70 名
95	被害対策における指導方法	江口祐輔	2016.1	第 5 回平成 27 年度鳥獣被害対策技術指導研修会	40 名
96	野生鳥獣による被害対策 Q&A 檻に関する Q&A	江口祐輔	2016.1	農耕と園芸	71(2),62-65
97	野生鳥獣による被害対策 Q&A 撮影装置の利用	江口祐輔	2016.2	農耕と園芸	71(3),62-65
98	えそ斑点病	大崎秀樹	2015.7	農文協	新版 原色果樹の病害虫診断事典 p.66

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁 (参加人数)
99	モモひだ葉ウイルス	大崎秀樹	2015.11	朝倉書店	植物ウイルス大事典 p.480
100	スモモ黄色網斑ウイルス	大崎秀樹	2015.11	朝倉書店	植物ウイルス大事典 p.497
101	ブルーネ萎縮ウイルス	大崎秀樹	2015.11	朝倉書店	植物ウイルス大事典 p.510
102	黒毛和種繁殖牛へのたちすずか WCS 給与	大島一修	2015.11	ウシの受胎率改善および受胎性評価に関する技術シーズ研究会	96 名
103	授乳期の黒毛和種繁殖牛に対する「たちすずか」WCS 給与が分娩後の繁殖成績に与える影響	大島一修	2015.11	農食事業「画期的 WCS 用稲「たちすずか」の特性を活かした微細断収穫調製・給与体系の開発実証(25073C)」平成 27 年度現地検討会	約 100 名
104	たちすずか WCS 給与牛の産子の発育	大島一修, 後藤裕司, 大谷一郎, 山本直幸, 田原和典, 森脇匡史, 川上千尋, 赤木隆志, 岸本公一	2015.11	農食事業「画期的 WCS 用稲「たちすずか」の特性を活かした微細断収穫調製・給与体系の開発実証(25073C)」平成 27 年度現地検討会	約 100 名
105	微細断「たちすずか」WCS の繁殖牛への給与 微細断「たちすずか」WCS 収穫調製・給与体系のコストまとめ	大島一修	2016.3	画期的 WCS 用稲「たちすずか」の特性を活かした低コスト微細断収穫調製・給与マニュアル	*42-43,45
106	大豆新品種「あきまる」の特性と栽培について	岡部昭典	2015.7	JA 尾道市世羅・御調地区大豆生産部会	30 名
107	大豆単収向上のための技術開発と現地実証	岡部昭典	2016.2	近畿産大豆生産・需要拡大協議会講演会	*,*
108	地下水位制御システム(FOEAS)を活用したダイズ新品種「あきまる」の晩播栽培	岡部昭典	2016.3	第 9 回ダイズ研究会	*,*
109	圃場の急速な多筆化で ICT の導入が進む「除草ロボットで軽労化図る」	奥野林太郎	2015.8	機械化農業(新農林社)	*(3171), 15-18
110	革新的技術緊急展開事業(水田作)における ICT 関連技術の取り組み	奥野林太郎	2015.9	平成 27 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議農業環境工学推進部会問題別研究会	41 名
111	中山間地等条件不利地の集落営農法人における軽労・効率的作業管理技術を核とする水田作の実証	奥野林太郎	2015.11	アグリビジネス創出フェア 2015 革新的技術実証事業セミナー	約 20 名
112	革新プロ「中山間地等条件不利地の集落営農法人における軽労・効率的作業管理技術を核とする水田作の実証」における実証内容	奥野林太郎	2016.2	平成 27 年度東北農業試験研究推進会議農業生産基盤推進部会作業技術研究会	38 名
113	中山間地域に見られる地形向けの配管手法を提案する	笠原賢明	2015.11	平成 27 年度農研機構シンポジウム露地栽培における点滴灌水技術の展開と進化	130 名
114	被覆資材の基礎知識	川嶋浩樹	2015.5	第 17 回施設園芸技術初級講座(一般社団法人日本施設園芸協会)	50 名
115	高断熱被覆資材の特性と園芸施設の暖房・保温における活用	川嶋浩樹	2015.5	高断熱資材(布団資材)研究会(和歌山県農業試験場)	30 名
116	ハウスの高強度化と省エネ技術実証経過	川嶋浩樹	2015.6	第 6 回未来農業検討会(佐藤産業株式会社)	150 名
117	傾斜地園芸研究領域傾斜地野菜生産研究グループの研究紹介	川嶋浩樹	2015.8	平成 27 度先進的生産者等との意見交換会「地域における高収益施設生産技術開発を目指して」	39 名
118	被覆資材の種類と利用	川嶋浩樹	2015.9	第 10 回施設園芸技術初級講座(一般社団法人日本施設園芸協会)	32 名
119	中国四国地域の傾斜地における施設園芸に係る新技術	川嶋浩樹	2015.10	施設園芸新技術セミナー in 中国四国	*,37-42

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁 (参加人数)
120	布団資材の性能表示に向けた取り組み	川嶋浩樹	2015.11	平成 27 年度 農研機構 近中四農研セミナー「布団資材の性能評価手法・規格の確立に向けた技術的課題」	47 名
121	高断熱資材による温室の保温技術	川嶋浩樹	2015.12	平成 27 年度食料生産地域再生のための先端技術展開事業施設園芸(岩手県・福島県・宮城県)・未利用エネルギー合同研究成果伝達会「東日本大震災からの復興に向けた施設園芸の取り組みと今後の課題」	70 名
122	マルドリ方式栽培におけるマルチシート資材選択の考え方	國賀武	2016.2	高品質安定生産を支えるマルドリ方式を基軸とした技術カタログ集	G007d
123	簡易土壌水分計利用による樹体ストレスの高度管理技術	黒瀬義孝	2015.8	常緑果樹研究会	185 名
124	簡易土壌水分計を使ったかん水管理	黒瀬義孝	2016.1	香川の果樹	184,21-23
125	土壌水分を調べて高品質化	黒瀬義孝	2016.1	土壌水分見える化講習会	40 名
126	カンキツの高品質生産のための土壌乾燥指標となる「簡易土壌水分計」	黒瀬義孝	2016.2	カンキツ産地改革フォーラム「産地力強化を支援する生産技術体系と機能性成分(βクリプトキサンチン)含有量保証供給に向けた取り組みの成果」	約 800 名
127	降雨の影響と農業利用への展望	黒瀬義孝	2016.3	日本農業気象学会 2016 年全国大会公開シンポジウム	約 300 名
128	降雨の影響と農業利用への展望	黒瀬義孝	2016.3	日本農業気象学会 2016 年全国大会公開シンポジウム「降水予測の最前線とその農業利用への展望」	約 300 名
129	効率的な炭酸ガス施用について	畔柳武司	2015.4	炭酸ガス研究会(高知県香南市)	30 名
130	風が強いとハウスが冷える本当の理由	畔柳武司	2015.7	植物工場三重実証拠点研修会	25 名
131	Computational Fluid dynamics for efficient energy use of heated greenhouses	畔柳武司	2015.11	中華人民共和国農業部施設農業工程重点実験室特別学術報告会	46 名
132	温室内環境の均質化に使用される循環扇	畔柳武司	2016.1	フルードパワーシステム	47(1),22-24
133	二酸化炭素施用効率と群落光合成速度のリアルタイムモニタリングに向けて	畔柳武司	2016.1	平成 27 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議花き推進部会	38 名
134	育成前期における微細断イネ WCS 給与量が黒毛和種育成牛の発育に及ぼす影響	後藤裕司, 大島一修, 山本直幸, 大谷一郎	2015.11	「画期的 WCS 用稲「たちすずか」の特性を活かした微細断収穫調製・給与体系の開発実証」平成 27 年度現地検討会	約 100 名
135	「たちすずか」WCS の黒毛和種育成牛に対する給与実証について	後藤裕司	2015.11	「画期的 WCS 用稲「たちすずか」の特性を活かした微細断収穫調製・給与体系の開発実証」平成 27 年度現地検討会	約 100 名
136	甘酸の好みで“みかん”の食味評価に差は出るか?	齋藤仁蔵	2015.10	平成 27 年度四国研究センター一般公開ミニ講演	20 名
137	食品成分によるナチュラルキラー細胞の活性化	齋藤 武	2015.11	平成 27 年度四国オープンイノベーションワークショップ講演要旨集	*281
138	水稲新品種「恋の予感」と色々な料理向きのお米の紹介	重宗明子	2015.9	平成 27 年度近畿中国四国農業研究センター一般公開ミニ講演会	20 名
139	いろんな美味しさ届けたい～お米の品種開発のいま～	重宗明子	2015.11	AKIMEYA TOKYO	40 名
140	加工・調理に向くお米のニューフェイス -すし、カレー、めん、リゾット用など-	重宗明子	2016.3	平成 27 年度つくば市「農業分野における新技術事例発表会及び交流会」	100 名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁 (参加人数)
141	放牧および飼料イネ等の粗飼料の複合給与による放牧肥育技術の開発、実証	柴田昌宏	2015.11	平成 27 年度近畿地域飼料増産シンポジウム	50 名
142	人工湿地と活性汚泥法の環境影響評価 (LCA)	志村もと子, 高橋英博	2015.8	第 10 回人工湿地ワークショップ 2015 in 別海・中標津 研究事例発表会	40 名
143	飛ばないナミテントウの育成と利用技術の開発	世古智一	2015.4	JATAFF ジャーナル	3(4), 17-22
144	先輩研究者からのメッセージ③～飛ばないテントウムシの事例から～	世古智一	2015.4	H27 年度新規採用者研修	17 名
145	天敵の育種：飛ばないテントウムシで害虫防除	世古智一	2015.6	平成 27 年度第 1 回蔵高セミナー	42 名
146	若手農林水産研究者表彰事例～飛ばないテントウムシ～	世古智一	2015.7	平成 27 年度農林水産関係若手研究者研修	69 名
147	飛ばないテントウムシによる害虫防除～環境保全型野菜生産を目指して～	世古智一	2015.7	平成 27 年度玉島地区環境衛生協議会研修会	305 名
148	飛ばないナミテントウにおける寄主探索行動の個体間変異は、定着性や防除効果に影響するか？	世古智一, 三浦一芸	2015.10	平成 27 年度日本応用動物昆虫学会中国 4 部・日本昆虫学会中国支部合同例会	41 名
149	天敵の育種～飛ばないテントウムシの育成事例と今後の展望～	世古智一	2015.10	九州昆虫セミナー	40 名
150	パンづくりの科学	高田兼則	2015.8	山口大学公開講座「小麦栽培から始めるパンづくり」	30 名
151	小麦品種の遺伝子的素質から考える品種開発について	高田兼則	2015.9	平成 27 年度 近畿中国四国農業試験研究推進会議 作物生産推進部会 冬作技術研究会	24 名
152	パン用小麦品種「せときらら」の育成・普及と、DNA マーカーを利用した品種育成	高田兼則	2015.12	Pain 雑誌「パン」	63(1):8-11
153	モチ性大麦の概略や機能性および「ダイシモチ」についての説明 (なるほど NEWS コーナー)	高橋飛鳥	2015.7	なんしょん? (OHK)	
154	作業計画・管理支援システム「PMS」の概要	高橋英博	2015.9	PMS 説明会	10 名
155	果樹産業における地域戦略モデルの収益性向上の可能性と条件	棚田光雄	2015.4	平成 27 年度総合研究試験研究推進会議 (農業経営分野) 農業経営全国研究会 (中央農業総合センター)	*34-35
156	「マルドリ方式」による早期成圃化の経済性	棚田光雄	2015.9	香川の果樹 (香川県果樹研究同志会)	29(3),21-23
157	技術体系の活用による収益性向上のためのポイントー「マルドリ方式」の有効利用ー	棚田光雄	2016.2	カンキツ産地改革フォーラム (革新的技術 (カンキツ) コンソーシアム、静岡県、静岡県経済農業協同組合連合会、一般社団法人静岡県柑橘振興会)	683 名
158	カンキツ作における加工事業の拡大要因	棚田光雄	2016.3	技術の窓 (日本政策金融公庫)	2122,*
159	穂肥が「恋の予感」の収量、品質及び玄米タンパク濃度に及ぼす影響	千葉雅大, 長田健二, 出田収	2015.7	JA 福山営農専門研修	10 名
160	基盤地図情報 DEM 切り取りサービスの開発	寺元郁博	2015.11	FOSS4G 大阪	50 名
161	ドローンを活用した農業研究の取組	寺元郁博	2016.1	ICT 研修会 (岡山県農林水産総合センター)	50 名
162	リアルタイムで進捗把握可能～スマートフォン用収穫作業記録作成アプリ～	寺元郁博	2016.3	Daily Japan	2016 年 4 月号
163	野生動物について	堂山宗一郎	2015.4	邑智小学校課外授業 (主催：邑智小学校)	50 名
164	野生動物の勉強	堂山宗一郎	2015.6	邑智小学校課外授業 (主催：邑智小学校)	50 名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年.月	雑誌名等	巻(号),頁 (参加人数)
165	鳥獣害対策について	堂山宗一郎	2015.7	2年生カリキュラム授業(主催:広島県立農業大学校)	40名
166	イノシシ・シカの行動と被害対策 侵入防止柵設置実習	堂山宗一郎	2015.7	平成27年度鳥獣被害対策技術 指導研修会(主催:広島県 近 畿中国四国農業研究センター)	40名
167	鳥獣(シカ・イノシシ・サル)の生 態と地域ぐるみで行う鳥獣被害対策 について	堂山宗一郎	2015.7	小豆島町(内海地区)鳥獣被害 防止対策講習会(主催:小豆島 町鳥獣被害対策協議会)	50名
168	鳥獣(シカ・イノシシ・サル)の生 態と地域ぐるみで行う鳥獣被害対策 について	堂山宗一郎	2015.7	小豆島町(池田地区)鳥獣被害 防止対策講習会(主催:小豆島 町鳥獣被害対策協議会)	50名
169	サル・イノシシ・シカによる農作物 等への被害防止対策	堂山宗一郎	2015.7	鳥獣被害防止対策講習会(主催: 土庄町鳥獣害対策協議会)	70名
170	動物行動学から見た被害防除	堂山宗一郎	2015.8	平成27年度鳥獣被害防止対策 研修及び鳥獣行政連絡会(主催: 島根県中山間地域研究センタ ー)	60名
171	サル・クマの行動と被害対策 集落 点検実習	堂山宗一郎	2015.9	平成27年度鳥獣被害対策技術 指導研修会(主催:広島県 近 畿中国四国農業研究センター)	40名
172	ツキノワグマについて	堂山宗一郎	2015.10	邑智小学校課外授業(主催:邑 智小学校)	50名
173	中型動物の行動と対策 防鳥網設置 実習	堂山宗一郎	2015.11	平成27年度鳥獣被害対策技術 指導研修会(主催:広島県 近 畿中国四国農業研究センター)	40名
174	鳥獣害対策 Q&A	堂山宗一郎	2015.11	鳥獣被害対策現地検討会(主催: 四国地域野生鳥獣対策ネットワ ーク)	100名
175	指導実践	堂山宗一郎	2016.1	平成27年度鳥獣被害対策技術 指導研修会(主催:広島県 近 畿中国四国農業研究センター)	40名
176	検討会 Q&A	堂山宗一郎	2016.1	鳥獣被害対策現地検討会(主催: 中国地域野生鳥獣対策ネットワ ーク)	30名
177	害獣に強い地域を目指そう	堂山宗一郎	2016.1	薩摩川内市鳥獣被害講習会(主 催:薩摩川内市鳥獣被害対策協 議会)	80名
178	イノシシ・ハクビシンの被害対策	堂山宗一郎	2016.1	伊予市双海生産者大会記念講演 (主催:えひめ中央農業協同組 合)	90名
179	野生動物の行動から考える被害対策	堂山宗一郎	2016.2	島根県集落営農ネットワーク研 修会西部会場(主催:島根県集 落営農ネットワーク)	30名
180	野生動物の行動から考える被害対策	堂山宗一郎	2016.2	島根県集落営農ネットワーク研 修会東部会場(主催:島根県集 落営農ネットワーク)	20名
181	多収専用品種の栽培のポイントと新 系統「中国217号」の紹介(主催: 近畿農政局)	中込弘二	2015.6	平成27年度近畿地域飼料増産 行動会議	70名
182	WCS 専用品種の特徴と栽培方法	中込弘二	2015.8	兵庫県畜産環境保全研修会(主 催:兵庫県畜産協会)	50名
183	たちすずか、たちあやかの採種量拡 大のための栽培技術	中込弘二	2015.9	平成27年度九州地域飼料増産 に関する研修会(主催:九州農 政局)	100名
184	稲 WCS の多収と品質向上のための留 意点について	中込弘二	2015.9	平成27年度畜産セミナー(主 催:京都府)	50名
185	WCS 専用品種の育種動向や栽培管 理、利用技術の紹介	中込弘二	2015.10	平成27年度東海地域飼料増産 研修会(主催:東海農政局)	100名
186	飼料用米向け新品種・新系統の特徴	中込弘二	2016.1	平成27年度近畿中国四国農業 試験研究推進会議作物生産推進 部会	53名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁 (参加人数)
187	温暖地西部での栽培に適した飼料米品種の育成状況	中込弘二	2016.2	平成27年度山口県飼料用米推進大会(主催:山口県)	100名
188	たちすずか、たちあやかの採種量拡大のための栽培技術	中込弘二	2016.3	平成27年度中国四国地域飼料増産研修会(主催:中国四国農政局)	100名
189	イネ発酵粗飼料専用品種「たちすずか」「たちあやか」	中込弘二	2016.3	肉牛用新飼料資源の特徴と給与(肉牛新報社)	p 40-41
190	マラフィウイルス属 第2編 植物ウイルスとウイロイドの分類 植物ウイルス大事典(日比忠明・大木理 監修)	中野正明	2015.11	朝倉書店	p 138-137
191	ラッカセイ斑紋ウイルス 第3編 日本の植物ウイルスとウイロイド 植物ウイルス大事典(日比忠明・大木理 監修)	中野正明	2015.11	朝倉書店	p 483
192	ダイズモザイクウイルス 第3編 日本の植物ウイルスとウイロイド 植物ウイルス大事典(日比忠明・大木理 監修)	中野正明	2015.11	朝倉書店	p 555
193	中山間の急傾斜面に対応した小型除草ロボットの開発	中元陽一	2015.7	平成27年度第1回農研機構産学官連携交流セミナー	39名
194	傾斜地果樹園の運搬作業の軽労化技術	中元陽一	2015.7	香川の果樹(香川県果樹同志会)	29(2),21-23
195	近中四農研における除草ロボットの開発	中元陽一	2015.10	平成27年度農研機構畦畔管理技術情報セミナー	147名
196	除草ロボット開発の現状について	中元陽一	2015.11	NHK 広島放送局 お好みワイド「経済リポート」	
197	草刈りの負担新技術で軽減 除草ロボットの開発状況について	中元陽一	2015.11	NHK おはよう日本	
198	近中四農研における除草ロボットの開発	中元陽一	2016.3	平成27年度国営事業地区営農担当者会議	65名
199	ノウケンキコウはどんなところ? 食と農の未来を拓くNAROと私	長崎裕司	2015.7	広島県立西条農業高等学校平成27年度第1回SSH(スーパーサイエンスハイスクール)講演会	750名
200	地球温暖化と植物について考える	長崎裕司	2015.9	イオン宇品チアーズクラブ	10名
201	設置の容易な中空培地を利用した高密度栽培の可能性	長崎裕司, 森川信也(大阪府立環境農林水産総合研究所)	2015.11	平成27年度近畿地域マッチングフォーラム「中山間地域や都市近郊においてイチゴ栽培等で高収益生産を実現するために」	120名
202	鳥獣被害について	長崎裕司	2015.12	平成27年度福岡市農業指導センター全体研修会	50名
203	現場に普及できる技術の開発ー農業気象研究者への期待ー	長崎裕司	2015.12	平成27年度近畿中国四国農業試験研究推進会議農業環境工学推進部会問題別研究会(農業気象)	70名
204	飼料用米の栽培について	長田健二	2015.9	農事組合法人上櫛営農組合 飼料イネに関する視察研修	11名
205	飼料用多収品種の多収性を引き出す栽培法	長田健二	2015.10	多収品種の導入に関する中国四国地域飼料用米現地研究会	約80名
206	飼料用米の栽培法および稲こうじ病対策について	長田健二	2016.2	南宇和稲作部会研修	20名
207	飼料用米の多収栽培技術について	長田健二	2016.3	これからの香川のコメを考える会	約400名
208	産地力強化に向けた技術の提案 ~柑橘の省力化・軽労化および安定生産を可能とする技術体系~	根角博久	2016.1	フルーツ広島(JA広島果実連)	36,10-14

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁 (参加人数)
209	マルドリ方式・ICTなどを活用した省力的な高品質カンキツ安定生産技術体系とその実現のための傾斜地園地整備技術の実証	根角博久, 棚田光雄, 島崎昌彦, 杉浦実, 加美豊 (愛媛県農林水産研究所果樹研究センター), 吉川公規 (静岡県農林技術研究所果樹研究センター), 須崎徳高 (三重県農業研究所), 村本和之 (山口県農林総合技術センター), 大谷衛 (香川県農業試験場府中果樹研究所), 神谷俊之 (NEC ソリューションイノベータ), 竹内新二 (中国紙工業株式会社), 清家伯弘 (えひめ中央農業協同組合), 森康弘 (越智今治農業協同組合)	2016.2	「攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業」(うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立) 網羅型研究 研究成果報告書	*、1-272
210	小麦ふすま自己消化物の非アルコール性脂肪性肝炎モデルマウスに対する効果	野方洋一	2015.11	平成27年度四国オープンイノベーションワークショップ	150名
211	技術特集「共生微生物の可能性」生育促進や果実重増加など確認 [くぼうれんそう、かぼちゃ] てん菜有用細菌で試験	野見山孝司	2016.1	ニューカントリー	743,18-19
212	ブドウ果皮色に関するDNAマーカーとその育種への活用	伴雄介	2015.6	果実日本 (日本園芸農業協同組合連合会)	70(6),29-32
213	菌根菌について	福永亜矢子	2015.11	FM いかる「農業のライフ&ワーク」	
214	二重ネット工法を用いた畦畔法面におけるシバ (Zoysia japonica) の植栽技術	伏見昭秀	2015.7	平成27年度近畿中国四国農業試験研究推進会議 作物生産推進部会問題別研究会「近未来の畦畔管理ー最新技術の紹介ー」	100名
215	畦畔法面における二重ネット工法を用いたシバ (zoysia japonica) の植栽技術 (農村の畦畔管理にお困りの方へ)	伏見昭秀	2015.8	農研機構 近畿中国四国農業研究センター	1~6頁
216	畦畔法面における二重ネット工法を用いたシバ (Zoysia japonica) の植栽技術【普及員、指導者等向け】	伏見昭秀	2015.8	農研機構 近畿中国四国農業研究センター	1~6頁
217	シバ畦畔等、畦畔管理の省力技術について紹介	伏見昭秀	2015.8	「水稲の省力・低コスト・安定生産に係る新技術に関する情報交換会」(北陸東海近畿ブロック) 全国農業改良普及支援協会 津市	30名
218	シバ畦畔等、畦畔管理の省力技術について紹介	伏見昭秀	2015.9	「水稲の省力・低コスト・安定生産に係る新技術に関する情報交換会」(中国四国九州ブロック) 全国農業改良普及支援協会 福山市	60名
219	「二重ネット工法で農村の畦畔法面にシバを植栽 通常の雑草畦畔を芝生畦畔に植生転換	伏見昭秀	2015.9	農研機構プレスリリース	
220	二重ネット工法を用いた畦畔法面におけるシバ (zoysia japonica) の植栽技術	伏見昭秀	2015.10	平成27年度農研機構 畦畔管理技術情報セミナー	150名
221	シバ二重ネット工法開発の経緯について	伏見昭秀	2015.11	NHK おはよう日本	
222	シバ二重ネット工法開発の経緯について	伏見昭秀	2015.11	NHK 広島 お好みワイドひろしま 「経済レポート」	
223	二重ネット工法を用いた畦畔法面におけるシバ (Zoysia japonica) の植栽技術	伏見昭秀	2016.3	「シバ二重ネット技術研修会」における講演, 世代をつなぐ農村まるごと保全推進協議会湖北支部 (事務局: 滋賀県湖北農業農村振興事務所田園振興課	60名
224	「シバ二重ネット工法について (案)」講演	伏見昭秀	2016.3	平成27年度国営事業地区営農担当者会議 中国四国農政局	30名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁 (参加人数)
225	乾田直播の動向	藤本寛	2015.9	平成 27 年度全国農業システム化研究会 水稲の省力・低コスト・安定生産に係る新技術に関する情報交換会(全国農業改良普及支援協会 中国四国九州ブロック)	32 名
226	フォアスを活用した水稲乾田直播栽培	藤本寛	2016.3	地下水位制御システム(フォアス)を導入した中山間水稲・大麦・大豆での 2 年 3 作体系	*12-15
227	2-1-4 瀬戸内沿岸地域の水稲乾田直播栽培における FOEAS を利用した節水管理	藤本寛	2016.3	水田輪作における地下水位制御システム活用マニュアル 増補改訂版	*31-32
228	岡山市西大寺地区における乾田直播栽培安定化の試み	藤本寛, 橘雅明, 望月秀俊, 高橋英博, 森伸介	2016.3	平成 27 年度栽培研究会	35 名
229	乱流シミュレーションモデルを用いた中山間地パイプハウス地点における風況推定の試み	松田 周	2015.7	平成 27 年度中国四国地域農業気象協議会(中国四国農政局)	39 名
230	地元の牛肉「放牧仕上げ熟ビーフ」ってなに? (主催:大田市消費者のつどい、共催:大田市消費者問題研究協議会、協力:大田市地産地消推進協議会他)	松本和典	2016.1	消費者まつり	30 名
231	水源を持たない傾斜地カンキツ園において点滴かんがい用水を安定確保するために	向井章恵	2016.3	香川の果樹(香川県果樹研究同志会)	174,23-25
232	トマト周年生産にむけた徳島県での取り組み	村上健二	2015.6	FM いかる	
233	大学院から現在までの研究	森伸介	2015.10	生物応用化学科研究室演習(二)	30 名
234	The present condition and problems of summer and autumn strawberry production in Japan	矢野孝喜	2015.11	中国農業大学(中華人民共和国北京市)での講演	49 名
235	イチゴ促成栽培における多面的機能を有する光質制御・照明法に関する研究・技術紹介	山崎敬亮	2015.9	上浦町青年農業者協議会視察研修	11 名
236	イチゴ高設栽培における気化潜熱を利用した培地冷却技術の紹介	山崎敬亮	2015.9	西八田高齢者学級	40 名
237	イチゴ高設栽培における気化潜熱を利用した培地冷却技術の紹介	山崎敬亮	2015.9	綾部高校園芸科の綾部研究拠点見学会	10 名
238	害虫の目と植物の「目」の違いを利用した「光防除」技術	山崎敬亮	2015.10	農業のライフ & ワーク(FM いかる)	
239	高設イチゴ栽培における気化潜熱を利用した低コスト培地冷却技術の効果と応用	山崎敬亮	2015.11	平成 27 年度近畿地域マッチングフォーラム「中山間地域や都市近郊においてイチゴ栽培等で高収益生産を実現するために」	120 名
240	気化潜熱利用培地冷却技術のイチゴ無育苗栽培法への導入効果	山崎敬亮	2016.2	革新的技術緊急展開事業「地域間連携による低投入型・高収益施設野菜生産技術体系の実証」成果発表会	70 名
241	無育苗栽培法を核とした省力・多収イチゴ高設栽培システム	山崎敬亮	2016.2	「革新的技術緊急展開事業」成果マニュアル	*14
242	農作物における光害について	山崎敬亮	2016.2	農業のライフ & ワーク(FM いかる)	
243	β -グルカン含量が高い大麦(もち麦)品種の育種	吉岡藤治	2015.4	第 8 回医食農連携プラットフォーム研究会	25 名
244	美味しい高 β -グルカン大麦品種の活用	吉岡藤治	2015.7	第 9 回医食農連携プラットフォーム研究会	30 名
245	モチ性大麦品種の育成と生産・供給の問題点	吉岡藤治	2015.9	平成 27 年度 近畿中国四国農業試験研究推進会議 作物生産推進部会 冬作技術研究会	約 30 名
246	裸麦をはじめとする大麦品種と機能性	吉岡藤治	2015.11	第 10 回医食農連携プラットフォーム研究会	30 名
247	はだか麦の未来を探る	吉岡藤治	2015.11	作物学会四国支部会・育種学会四国談話会シンポジウム	90 名

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁 (参加人数)
248	高付加価値大麦としての“もち麦”の育種と機能性研究	吉岡藤治	2015.12	高付加価値大麦に係る意見交換会	40名
249	瀬戸内地域の特産農作物“はだか麦”と“もち麦”	吉岡藤治	2015.12	四国地域資源の会	30名
250	LED Lights in Plant Cultivation Facilities in Japan	吉越恆	2015.11	中華人民共和国農業施設農業工程重点実験室特別学術報告会	46名
251	環境制御のための ICT 技術の開発	吉越恆	2015.12	平成 27 年度近畿中国四国農業試験研究推進会議 農業環境工学推進部会問題別研究会	69名
252	ICTによる簡易環境モニタリングシステムの開発	吉越恆	2016.2	攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業研究成果発表会	80名
253	夏作ハウレンソウについて	吉越恆	2015.7	FM いかる	
254	夏作ハウレンソウの話～遮光資材を上手に使うって品質向上～	吉田祐子	2015.10	近畿中国四国農業研究センター 綾部研究拠点 一般公開講演	40名
255	ダイズ難防除雑草「マルバルコウ」の防除技術の現地実証	窪田潤, 奥野林太郎	2016.3	第9回ダイズ研究会	約200名
256	ここまで完成した画像処理による微小害虫の自動カウント	中野昭雄(徳島農総技セ), 高科勇太(徳島大学大学院), 池本直矢(徳島大学大学院), 寺田賢治(徳島大学大学院), 三浦一芸	2015.7	第20回農林害虫防除大会大分大会	100名
257	高温登熟性に優れ、良食味で多収の水稲新品種「恋の予感」	出田収	2015.10	農業日誌 平成 28 年 (農林統計協会)	2016,260-261
258	精密園地環境推定値のカンキツ栽培における活用	植山秀紀	2015.10	果樹の省力化・軽労化及び安定生産を可能とする技術体系公開現地検討会(資料)(革新的技術(カンキツ)コンソーシアム、果樹省力・軽労化コンソーシアム)	*14
259	獣害対策 / 成功への鍵は	江口祐輔	2015.4	農業共済新聞	7面
260	獣害対策 / 野生動物の気持ち	江口祐輔	2015.4	農業共済新聞	6面
261	獣害対策 / 農地内外の環境管理	江口祐輔	2015.6	農業共済新聞	6面
262	獣害対策 / 加害個体の捕獲	江口祐輔	2015.7	農業共済新聞	6面
263	獣害対策 / 柵を張ろう 1	江口祐輔	2015.8	農業共済新聞	6面
264	獣害対策 / 柵を張ろう 2	江口祐輔	2015.9	農業共済新聞	6面
265	獣害対策 / 音、光、におい	江口祐輔	2015.11	農業共済新聞	6面
266	獣害対策 / サル対策	江口祐輔	2015.12	農業共済新聞	6面
267	獣害対策 / なぜ増えるのか	江口祐輔	2016.2	農業共済新聞	4面
268	獣害対策 / 様々な動物の対策	江口祐輔	2016.3	農業共済新聞	6面
269	ここまで来た！ ICT 農業	黒崎秀仁, 大森弘美	2016.1	日本農業新聞	9面
270	簡易土壌水分計	黒瀬義孝	2015.9	日本農業新聞	12面
271	団地型マルドリ方式のタイプと取り組みのポイント	齋藤仁蔵	2015.10	果樹の省力化・軽労化及び安定生産を可能とする技術体系 公開現地検討会(資料)	*21
272	100% 国産飼料で和牛	柴田昌宏	2015.8	日本農業新聞	1面
273	和牛の放牧肥育実験開始	柴田昌宏	2015.8	山陰中央新報	24面
274	濃厚飼料に依存しない黒毛和牛肥育粗飼料自給と放牧で実現へ	柴田昌宏	2015.12	全国農業新聞	1面
275	飛ばないナミテントウの育成と生物防除への応用に関する研究	世古智一	2015.6	食と農の研究メールマガジン	http://www.s.affrc.go.jp/docs/mg/back/150601.htm
276	研究のきっかけ	世古智一	2015.11	JATAFF ジャーナル	3(11), 37
277	「マルドリ方式」の経済性・有効性を高めるためのポイント	棚田光雄	2015.10	果樹の省力化・軽労化及び安定生産を可能とする技術体系 公開現地検討会(資料)	*22

V 研究情報活動

No.	研究成果のタイトル等	著者名等 (アルファベット順)	年・月	雑誌名等	巻(号),頁 (参加人数)
278	「マルドリ方式」の経済性・有効性を高めるためのポイント	棚田光雄	2016.2	高品質安定生産を支えるマルドリ方式を基軸とした技術カタログ集	*8-9
279	栽培管理の基本技術と登熟期の高温・低温対策	長田健二	2015.7	全国農業新聞	14 面
280	除草ロボ実用化を急げ	中元陽一	2015.9	日本農業新聞	1 面
281	カンキツ産地のブランド力強化に向けた取り組みのために	根角博久	2016.2	高品質安定生産を支えるマルドリ方式を基軸とした技術カタログ集 (農研機構近畿中国四国農業研究センター)	*1-2
282	畦畔管理テーマに広島でセミナー	伏見昭秀	2015.8	日本農業新聞	18 面
283	イベント 畦畔管理技術情報セミナー「シバ二重ネット工法」技術実演会	伏見昭秀	2015.9	全国農業新聞	8 面
284	シバ植栽の「二重ネット工法」開発急傾斜の畦畔法面を芝生化	伏見昭秀	2015.9	農業共済新聞	9 面
285	畦畔管理の省力化シバ二重ネット工法 農研機構	伏見昭秀	2015.9	農機新聞	4 面
286	急傾斜ののり面を芝緑化 ネット広げ苗植栽 近中四農研	伏見昭秀	2015.9	日本農業新聞	1 面
287	芝生で水田の雑草制御	伏見昭秀	2015.10	山陽新聞	5 面
288	シバ植栽二重ネット工法 のり面管理を省力化	伏見昭秀	2015.10	全国農業新聞	5 面
289	日本シバで畦畔被覆 除草作業を軽労化 近中四農研セミナー	伏見昭秀	2015.10	日本農業新聞	16 面
290	機能的な「熟ピーフ」	松本和典	2015.11	全国農業新聞	3 面
291	イチゴ‘さちのか’の間欠冷蔵処理における非低温処理時の温度条件および高温遭遇時期の違いが頂花房の開花に及ぼす影響	矢野孝喜, 杉浦誠, 川嶋浩樹	2015.11	平成 27 年度近畿地域マッチングフォーラム (ポスターセッション)	120 名
292	近畿中国四国地域に適した小麦品種「ふくほのか」「ふくはるか」「せときらら」の育成	石川直幸, 高田兼則, 谷中美貴子, 池田達哉, 船附稚子	2016.2	第 11 回近畿中国四国農業研究協議会賞 普及・技術賞	近畿中国四国農業研究協議会
293	植物医師認定審査合格	大崎秀樹	2015.12	日本植物医科学協会	審査番号 154006
294	中山間地域農業・農村の活性化にむけた有機農業振興方策に関する研究	尾島一史	2015.9	博士 (学術), 岡山大学, 博甲第 5231 号	
295	遺伝的に飛翔能力を欠くナミテントウを活用した生物防除法の開発	世古智一	2015.11	第 14 回日本農学進歩賞	公益財団法人農学会
296	水田飼料作経営成立の可能性と条件-数理計画法適用による水田飼料作経営の規範分析と飼料生産コスト	千田雅之, 恒川磯雄	2015.9	日本農業経営学会学会賞学会誌賞	日本農業経営学会
297	‘たちすずか’等飼料イネ栽培における窒素等施肥管理上の留意点	大家理哉 (岡山県農林水産総合センター), 鷲尾建紀 (岡山県農林水産総合センター), 河野幸雄 (広島県立総合技術研究所畜産技術センター), 猪谷富雄 (県立広島大学生命環境学部), 藤本寛	2015.12	近畿中国四国農業研究協議会賞「論文賞」	近畿中国四国農業研究協議会
298	農業排水路における水制を用いた砂州創出に関する研究-生態系配慮の技術として-	向井章恵	2015.9	博士 (緑地環境科学), 大阪府立大学, 環境第 26 号	

V 研究情報活動

3. 知的財産権

1) 産業財産権の登録および出願

【国内特許】

特許権等の名称	発明者 (共同発明者)	出願公開 年月日	登録年月日および 登録番号
リン脂質及び／又はリゾリン脂質の抽出方法	川瀬眞市朗	H23.10.13	H27.5.1 特許第 5737778 号
オーキシン生合成阻害剤	添野和雄、 (独) 理化学研究所)	H24.9.7 (国際公開)	
N K細胞活性化剤、及びN K細胞活性化方法	齋藤武	H24.9.20	H27.5.15 特許第 5742050 号
植物栽培装置及び植物栽培装置における可動ベッドの運用方法	長崎裕司、中元陽一、川嶋浩樹、 畔柳武司	H24.9.27	H27.10.30 特許第 5828541 号
自動灌水方法及びその装置	長崎裕司、吉川弘恭、川嶋浩樹	H24.10.18	H27.12.11 特許第 5850360 号
農業用傾斜地構造	澤村篤、星典宏、根角博久、 川嶋浩樹、細川雅敏	H24.10.25	H27.11.13 特許第 5834351 号
農業用ハウス	澤村篤、星典宏、川嶋浩樹、 長崎裕司、畔柳武司	H24.10.25	H27.11.13 特許第 5834352 号
農業用ハウス	澤村篤、星典宏、川嶋浩樹、 長崎裕司、柴田昇平	H24.11.1	H27.11.13 特許第 5834353 号
温室構造体および温室構造体の温度調整方法	澤村篤、川嶋浩樹、 (住友大阪セメント(株))	H25.2.28	H27.12.18 特許第 5856893 号
かん水制御装置及びかん水制御方法	星典宏、井上久義、植山秀紀、根 角博久	H25.4.25	
排土板及び排土装置	田中宏明、中元陽一、岡信光、松 崎健文、藤川益弘	H25.5.13	H27.12.4 特許第 5845800 号
単軌条運搬機の停止位置自動制御装置	中元陽一、角川修、田中宏明、 岡信光、松崎健文	H25.5.13	
オオムギ属植物の1H染色体の一部を 導入することによる小麦粉の生地物性を 向上させる方法	池田達哉、高田兼則、 (日本製粉(株)、国立大学法人岡 山大学)	H26.3.27	
アタッチメント及びこれを用いた果樹 根元処理方法	田中宏明、藤川益弘、岡信光、 中元陽一、 (兵庫県立農林水産技術総合センタ ー)	H26.5.8	
小麦ふすま、大麦糠、または米糠に由 来するペプチドを含む脂肪性肝疾患を 処置するための組成物	野方洋一、 (学校法人久留米大学)	H26.5.12	
オーキシン生合成阻害剤	添野和雄、 (公立大学法人横浜市立大学)	H26.6.30	
測定装置	柴田昇平、植山秀紀、 (九州沖縄農業研究センター)	H26.9.8	
土壌採取補助具及び土壌採取方法	田中宏明、岡信光、藤川益弘、松 上勝利、中元陽一、大谷恭史	H26.9.8	
ボロン酸基を有するオーキシン生合成 阻害剤	添野和雄、石井貴広、 (公立大学法人横浜市立大学)	H26.9.18	
地域集中探索型天敵の作出方法	世古智一、三浦一芸	H26.11.6	
植物生育環境調節装置	長崎裕司、山崎敬亮、 (大阪府環境農林水産総合研究所、 奈良県農業技術センター、鳥取大 学、大日本プラスチック(株)、 (株)ヴェイル)	H26.11.20	H27.4.10 特許第 5725627 号
植物の生育促進剤	関口博之、 (北海道農業研究センター、東北大 学、帯広畜産大学)	H27.1.29	

※新たに登録された特許および現在出願公開中の特許について掲載。その他、出願公表前出願中特許 11 件。

V 研究情報活動

【実用新案】

特許権等の名称	発 明 者 (共同発明者)	出願公開 年月日	登録年月日および 登録番号
粉塵対策作業台	原富男、山下大朗 松井輝徳、大野靖志		H27.7.15 登録第 3199106 号

2) 新品種の登録および出願

【品種登録】

農林水産植物の種類	出願品種の名称	育 成 者 (共同育成者)	出願年月日	登録年月日および 登録番号
水 稻	せとのかがやき	石井卓朗、出田収 中込弘二、松下景 春原嘉弘、前田英郎 飯田修一	H25.4.17	H27.6.19 第 24361 号
大 豆	こがねさやか	高田吉丈、猿田正恭 岡部昭典、菊池彰夫 小野貞芳	H26.4.18	H28.3.22 第 24955 号
大 豆	たつまる	高田吉丈、猿田正恭 岡部昭典、菊池彰夫	H26.4.18	H28.3.22 第 24956 号

【出願品種】

農林水産植物の種類	出願品種の名称	育 成 者 (共同育成者)	出願年月日	登録年月日および 登録番号
水 稻	恋の予感	石井卓朗、出田収、 中込弘二、松下景、 春原嘉弘、前田英郎、 飯田修一	H26.5.23	
小 麦	セトデュール	高田兼則、渡邊美貴子 石川直幸、長嶺敬	H27.11.19	
水 稻	つきすずか	出田収、重宗明子 中込弘二、松下景 石井卓朗、春原嘉弘 飯田修一	H28.3.30	
水 稻	みなちから	出田 収、重宗明子 中込弘二、松下景 春原嘉弘、石井卓朗 前田英郎、飯田修一	H28.3.31	
水 稻	ふくのこ	重宗明子、出田収 中込弘二、石井卓朗 松下景、春原嘉弘 飯田修一	H28.3.31	

※新たに登録された品種および現在出願中の品種について掲載。

V 研究情報活動

4. 広報活動

1) 記者発表（資料配付含む）

年月日	発 表 内 容
H27.4.30	放牧履歴集計プログラム「GRT」を開発 - 普及指導機関における放牧向け草地管理指針等の策定を支援 -
H27.5.11	大豆新品種説明会の開催について ～醤油醸造等、多様な加工に向く大豆「こがねさやか」と「たつまる」～ (平成 27 年 5 月 14 日 (木))
H27.8.10	カンキツの点滴かんがいのためのソーラーポンプシステム - 自然エネルギー利用でマルドリ方式導入 -
H27.9.7	「二重ネット工法で農村の畦畔法面にシバを植栽」 - 通常の雑草畦畔を芝生畦畔に植生転換 -
H27.9.16	農研機構近畿中国四国農業研究センター綾部研究拠点 一般公開のご案内 (平成 27 年 10 月 2 日 (金))
H27.9.16	農研機構近畿中国四国農業研究センター福山本所 一般公開のご案内 (平成 27 年 10 月 3 日 (土))
H27.9.16	農研機構近畿中国四国農業研究センター四国研究センター 一般公開のご案内 (平成 27 年 10 月 3 日 (土))
H27.9.24	攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業 (うち産学の英知を結集した革新的な 技術体系の確立)「マルドリ方式・ICT などを活用した省力的な高品質カンキツ生産技術体系とそ の実現のための圃地整備技術の実証」公開現地検討会の開催について (平成 27 年 10 月 21 日 (水) ～ 22 日 (木))
H27.9.30	平成 27 年度農研機構シンポジウム 「露地栽培における点滴灌水技術の展開と進化」の開催について (平成 27 年 11 月 10 日 (火))
H27.9.30	平成 27 年度 農研機構近畿中国四国農業研究センター研究セミナー 「国土資源を活用した酪農・肉用牛経営のコスト低減の可能性と条件及び技術開発方向」の開催 について (平成 27 年 11 月 11 日 (水))
H27.10.2	平成 27 年度 中国四国地域マッチングフォーラム 「カンキツ農業における担い手の規模拡大と新規就農者支援による産地力強化を目指して」の開 催について (平成 27 年 10 月 21 日 (水))
H27.10.5	平成 27 年度 近畿地域マッチングフォーラム ～中山間地域や都市近郊においてイチゴ栽培等で高収益生産を実現するために～の開催について (平成 27 年 11 月 5 日 (木))
H27.10.21	農研機構近畿中国四国農業研究センター大田研究拠点 一般公開のご案内 (平成 27 年 10 月 31 日 (土))
H27.10.26	冊子「細霧ノズル付循環扇を用いた中山間地域向け 簡易細霧冷房システムの利用法」を公開
H27.11.6	「直売所の切り花向け新技術に関する 12 通りの活用法」 - パンフレットを公開 -
H27.11.13	農研機構発！西日本向け良食味水稻新品種お披露目会 ～恋の予感・にこまる・きぬむすめ～ の開催について (平成 27 年 12 月 3 日 (木))
H28.1.20	「カンキツ産地改革フォーラム」を開催 攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術体系の実証研究成果 (平成 28 年 2 月 26 日 (金))

2) 近畿中国四国農業研究センター刊行物（会議資料等除く）

刊 行 物 名	発行年月	印刷数
近畿中国四国農業研究センター要覧 (和文) 印刷	H27.4	2,000
温室における循環扇の設置マニュアル (発行・編集：農工研、近中四農研)	H27.4	3,000
平成 26 年度 近畿中国四国農業研究成果情報	H27.7	Web 公開
農研機構畦畔管理技術情報セミナー・「シバ二重ネット工法」技術実演会 ポスター	H27.8	300
農研機構畦畔管理技術情報セミナー・「シバ二重ネット工法」技術実演会 チラシ	H27.8	600
畦畔法面における二重ネット工法を用いたシバの植栽技術【農村の畦畔管 理にお困りの方へ】パンフレット	H27.8 H28.1	1,500 2,000
印刷 (畦畔法面における二重ネット工法を用いたシバの植栽技術【普及員、 指導者等向け】パンフレット	H27.8 H28.1	1,500 2,000

V 研究情報活動

刊 行 物 名	発行年月	印刷数
一般公開(綾部) ポスター	H27.8	50
農研機構シンポジウム ポスター	H27.8	300
農研機構シンポジウム チラシ	H27.8	600
近畿中国四国農業研究センター研究セミナー ポスター	H27.8	300
近畿中国四国農業研究センター研究セミナー ポスター	H27.8	600
平成 26 年度 年報	H27.9	Web 公開
平成 27 年度中国四国地域マッチングフォーラム ポスター	H27.9	300
平成 27 年度中国四国地域マッチングフォーラム チラシ	H27.9	700
一般公開(福山) ポスター	H27.9	230
一般公開(福山) チラシ	H27.9	2,350
パンフレット「細霧ノズル付循環扇を用いた中山間地域向け簡易細霧冷房システムの利用法」	H27.9	150
近畿地域マッチングフォーラム ポスター	H27.9	300
近畿地域マッチングフォーラム チラシ	H27.9	600
近中四農研ニュース No.57 号	H27.9	1,000
シバ二重ネット工法 チラシ	H27.9	1,500
一般公開(四国) ポスター	H27.9	350
一般公開(四国) チラシ(配布用)	H27.9	650
一般公開(四国) チラシ	H27.9	16,900
カンキツ用簡易土壌水分計利用マニュアル	H27.9	Web 公開
「平成 27 年度中国四国地域マッチングフォーラム」講演要旨パンフレット	H27.10	350
果樹の省力化・軽労化及び安定生産を可能とする技術体系	H27.10	600
アグリビジネス創出フェア 2015 広報用パンフレット	H27.10	500
アグリビジネス創出フェア 2015 広報用パンフレット「マルドリ方式・ICTなどを活用した省力的な高品質カンキツ生産技術体系とその実現のための傾斜地整備技術の実証」7 種	H27.10	3,500
農研機構近畿中国四国農業研究センター研究セミナー ポスター	H27.10	300
農研機構近畿中国四国農業研究センター研究セミナー チラシ	H27.10	600
平成 27 年度農研機構 畦畔管理技術情報セミナー - 講演要旨集 -	H27.10	200
大家畜畜産及び飼料作経営の展開方向と技術開発課題	H27.10	500
平成 27 年度農研機構シンポジウム 講演要旨	H27.10	200
平成 27 年度近畿地域マッチングフォーラム 講演要旨	H27.10	150
平成 27 年度農研機構近畿中国四国農業研究センター研究セミナー	H27.10	150
省エネハウス布団資材 リーフレット	H27.11	1,000
印刷(農研機構発! 西日本向け良食味水稻新品種お披露目会ポスター)	H27.11	270
印刷(農研機構発! 西日本向け良食味水稻新品種お披露目会チラシ)	H27.11	800

V 研究情報活動

刊 行 物 名	発行年月	印刷数
印刷（水稲新品種「恋の予感」リーフレット）	H27.11	2,000
地域農業の将来動向と担い手経営の成立・展開に必要な技術開発方向	H27.11	500
近中四農研ニュース No.58号	H27.11	1,000
平成27年「水田里山」セミナー 講演要旨	H27.12	150
カンキツ産地改革フォーラム チラシ	H28.1	1,000
近中四農研ニュース No.59号	H28.1	1,000
農産物直売所 打って出る！「出張直売」のススメ（紹介事例のDVD付） 増刷	H28.2	200
無育苗栽培法を核とした省力・多収イチゴ高設栽培システム	H28.2	1,000
高品質安定生産を支えるマルドリ方式を基軸とした技術カタログ集 2015	H28.2	1,000
チラシ（機能性表示食品としてのウンシュウミカン）	H28.2	1,000
画期的 WCS 用稲「たちすずか」の特性を生かした低コスト微細断収穫調製・ 給与マニュアル	H28.2	3,000
近畿中国四国農研農業経営研究 第26号	H28.3	420
近中四農研ニュース No.60号	H28.3	1,000
近畿中国四国農業研究センター研究報告 第15号	H28.3	650
近畿中国四国農業研究センター研究資料 第12号	H28.3	600
近畿中国四国農業研究センター研究報告 第16号	H28.3	650
太陽熱利用土壌消毒とネットトンネルによるキャベツ等アブラナ科野菜の 有機 JAS 準抛露地栽培マニュアル（改訂版）	H28.3	Web 公開
地下水位制御システム（フォアス）を導入した中山間水稲・大麦・大豆で の2年3作体系	H28.3	Web 公開
西日本農業研究センターパンフレット	H28.3	4,000
地下水位制御システム（フォアス）を導入した中山間水稲・大麦・大豆で の2年3作体系	H28.3	Web 公開

V 研究情報活動

3) 一般公開、イベント、講演会、シンポジウム等の開催

一般公開

一般公開のテーマ名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
春のミニ一般公開（福山）	近畿中国四国農業研究センター	H27.4	福山本所	310
一般公開（福山）「見てみよう！食を ささえる農業研究」	近畿中国四国農業研究センター（中 国四国農政局／種苗管理センター／ 果樹研究所）	H27.10	福山本所	1,372
一般公開（四国）「未来に羽ばたく四 国農業!! 農業で日本を元気に」	近畿中国四国農業研究センター	H27.10	四国研究センター	669
一般公開（綾部）「食の未来と環境を 守る野菜づくり」	近畿中国四国農業研究センター	H27.10	綾部研究拠点	220
一般公開（大田）	近畿中国四国農業研究センター	H27.10	大田研究拠点	460

イベント（一般公開以外の主催イベント）

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
第12回食と農のサイエンスカフェ in ふくやま	近畿中国四国農業研究センター	H27.8	福山本所	25
食と農のサイエンスカフェ（四国第 5回）	近畿中国四国農業研究センター	H27.8	四国研究センター	22
食と農のサイエンスカフェ（四国第 6回）	近畿中国四国農業研究センター	H27.11	四国研究センター	20
第13回食と農のサイエンスカフェ in ふくやま	近畿中国四国農業研究センター	H27.12	福山本所	20

科学技術離れ対策の協力状況（サイエンスキャンプ、出前レクチャーなど）

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所	参加者数
職場体験学習	善通寺市立東部小学校	H27.5	四国研究センター	39
チャレンジウィーク	福山市教育委員会	H27.8	福山本所	6
職場体験学習	善通寺市立東中学校	H27.8	四国研究センター	3
インターンシップ	新居浜工業高等専門学校	H27.8	四国研究センター	2
サイエンスセミナー	島根県立大田高等学校	H27.9	大田研究拠点	25
事業所体験学習	近畿大学附属広島中学校福山校	H27.10	福山本所	1
インターンシップ	島根県立仁摩高校	H27.10	大田研究拠点	2

V 研究情報活動

科学技術離れ対策以外のイベントへの協力および参画状況

イベント名	主催者（共催）	開催年月	開催場所
大豆新品種説明会	近畿中国四国農業研究センター	H27.5	兵庫県たつの市 (株) ヒガシマル醤油
消費者の部屋「局外展示」	農林水産省近畿農政局	H27.6	近畿農政局
消費者の部屋「特別展示」	農林水産省近畿農政局	H27.7	近畿農政局
夏休み子ども消費者の部屋	農林水産省近畿農政局	H27.7	近畿農政局
セミナー「日本農業の再生は中山間地域農業のイノベーションから」	近畿中国四国農業研究センター	H27.7	近畿研四国研究センター
ハウレンソウケナガコナダニの効果的な防除に向けた講習会	近畿中国四国農業研究センター	H27.7	京都府船井郡 JA 京都瑞穂支店 会議室
備後ものづくりフェア出展	備後地域地場産業振興センター／福山市／府中市／福山物産協会	H27.10	エフピコ RiM7 階「福山市ものづくり交流館」
FABEX 関西（食品展示会）	日本食糧新聞社	H27.10	インテックス大阪
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業（うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立）平成 27 年度公開現地検討会	攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業（うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立）カンキツコンソーシアム、果樹省力・軽労化コンソーシアム	H27.10	愛媛県松山市ほか
和牛入門セミナー（実習の部・西日本）	全国和牛登録協会／全国肉用牛振興基金協会	H27.11	大田研究拠点
プロ米 EXPO 2015	日本食農連携機構	H27.11	東京都立 産業貿易センター
農研機構セミナー 根こぶ病発病リスク診断のための病原菌検出法	近畿中国四国農業研究センター	H27.11	京都市下京区キャンパスプラザ京都
農研機構シンポジウム「露地栽培における点滴灌水技術の展開と進化」	近畿中国四国農業研究センター	H27.11	東京都北区滝野川会館
農研機構近畿中国四国農業研究センター研究セミナー「国土資源を活用した酪農・肉用牛経営のコスト軽減の可能性と条件及び技術開発方向」	近畿中国四国農業研究センター	H27.11	東京都北区滝野川会館
平成 27 年度農研機構近中四農研セミナー	近畿中国四国農業研究センター	H27.11	東京都江東区 TFT ビル東館
しまなみ・かんきつフェスタ	愛媛県東予地方局今治支局産地育成室／上島町／越智今治農業協同組合	H27.11	愛媛県・岩城島 今治支局産地育成室
農研機構近中四農研セミナー「水田里山の畜産利用と土作りを基礎にした中山間地域営農発展の可能性と研究課題」	近畿中国四国農業研究センター	H27.12	岡山市岡山国際交流センター
中国四国農政局消費者の部屋「特別展示」	農林水産省中国四国農政局	H28.1	中国四国農政局
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業（うち産学の英知を結集した革新的な技術体系の確立）カンキツ産地改革フォーラム「産地力強化を支援する生産技術体系と機能性成分（β-クリプトキサンチン）含有量保証供給に向けた取り組みの成果」	革新的技術（カンキツ）コンソーシアム・静岡県・静岡県経済連・静岡県柑橘振興会	H28.2	静岡県静岡市 グランシップ静岡
第 10 回 JA グループ国産農畜産物商談会	JA 全農／JA バンク／JA 全中	H28.3	東京ドームシティ

V 研究情報活動

4) 技術相談および見学

生産者：農協、農業関係公益法人なども「生産者」に含める

消費者：消費者団体も含める

青少年：幼稚園児～高校生

行政：国行政、県行政

研究機関：大学、公立試、国研、独法

民間：民間企業、民間団体、民間の試験研究機関

(1) 技術相談

相談方法	生産者	消費者	青少年	マスコミ	行政	研究機関	民間	海外	その他	合計
インターネットによる相談件数	43	2	0	2	14	33	27	0	3	124
電話による相談件数	128	9	0	31	61	29	55	0	9	322
面談による相談件数	58	18	2	8	19	24	64	0	2	195
現地指導による件数	21	0	3	4	1	3	1	0	2	35
その他の手段による相談件数	6	0	0	1	0	4	2	0	0	13
合計	256	29	5	46	95	93	149	0	16	689

(2) 見学者

	生産者	消費者	青少年	マスコミ	行政	研究機関	民間	海外	その他	合計
見学件数	28	0	5	4	17	13	12	3	4	86
外部からの見学者数(人)	383	0	79	7	189	50	43	46	84	881

V 研究情報活動

5. 図書資料の収集・受入、サービス

1) 収書数

① 単行書

単位：冊

	和 書			洋 書			合計
	購入	寄贈交換	計	購入	寄贈交換	計	
本所（福山）	63	81	144	3	1	4	148
四国研究センター	28	0	28	9	0	9	37
綾部研究拠点	3	1	4	0	0	0	4
大田研究拠点	2	0	2	3	0	3	5
合 計	96	82	178	15	1	16	194

② 逐次刊行物

単位：誌

	和 書			洋 書			合計
	購入	寄贈交換	計	購入	寄贈交換	計	
本所（福山）	123	318	441	25	34	59	500
四国研究センター	69	221	290	26	10	36	326
綾部研究拠点	22	98	120	5	3	8	128
大田研究拠点	8	111	119	15	5	20	139
合 計	222	748	970	71	52	123	1,093

③ その他の資料

単位：冊

	和 書			洋 書			合計
	購入	寄贈交換	計	購入	寄贈交換	計	
本所（福山）	0	67	67	0	0	0	67
四国研究センター	0	56	56	0	0	0	56
綾部研究拠点	0	0	0	0	0	0	0
大田研究拠点	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	123	123	0	0	0	123

2) 除籍数

単位：冊

	和 書			洋 書			合計
	単行書	逐次刊行物	計	単行書	逐次刊行物	計	
本所（福山）	0	0	0	0	0	0	0
四国研究センター	0	0	0	0	0	0	0
綾部研究拠点	0	0	0	0	0	0	0
大田研究拠点	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0	0	0

(注) 逐次刊行物は、製本に換算した冊数

3) サービス

	文献複写（件）		相互貸借（件）		貸出（冊）
	依 頼	提 供	依 頼	提 供	
本所（福山）	65	99	2	13	254
四国研究センター	77	23	8	10	369
合 計	142	122	10	23	623

VI 研究交流

1. 研究員などの受入・研修

1) 国際農林水産業研究センター (JIRCAS) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

2) 国際協力機構 (JICA) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

3) 日本学術振興会 (JSPS) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

4) 科学技術振興機構 (JST) 研究員

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

5) その他の制度等による海外研究員の受入

国名	受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし			

6) 流動研究員

受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
該当なし		

7) 依頼研究員

受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
広島大学	環境保全型野菜研究領域	H27.8.10 ~ H27.10.12

8) 技術講習生

受入者所属機関名	受入先研究領域	期間
麻布大学獣医学部	畜産草地・鳥獣害研究領域	H27.9.1 ~ H28.2.28
国立大学法人高知大学農学部	傾斜地園芸研究領域	H27.9.7 ~ H27.9.11
新居浜工業高等専門学校 生物応用化学科	傾斜地園芸研究領域	H27.8.17 ~ H27.8.28
新居浜工業高等専門学校 生物応用化学科	傾斜地園芸研究領域	H27.8.17 ~ H27.8.28
新居浜工業高等専門学校 生物応用化学科	作物機能開発研究領域	H27.8.17 ~ H27.8.28
国立大学法人京都大学農学部	水田作研究領域	H27.8.24 ~ H27.8.28
日本大学生物資源科学部	畜産草地・鳥獣害研究領域	H27.9.7 ~ H27.9.11

VI 研究交流

9) 国内留学

区 分	受入者所属機関名	研究課題	受入先研究領域	期 間
長期留学	該当なし			
短期留学	該当なし			

10) 連携大学院

受入者所属機関	研究課題	受入先研究領域	期 間
国立大学法人 広島大学	タイリクヒメハナカメムシにおける細胞内 共生細菌 Wolbachia の生態系影響評価	水田作研究領域	H26.4.1 ~ H29.3.31
国立大学法人 広島大学	共生微生物の移植による有用昆虫の性操作	水田作研究領域	H27.4.1 ~ H29.3.31

2. 研究員の派遣

1) 流動研究員

氏 名	所 属	研究課題	派 遣 先	期 間
該当なし				

2) 国内留学

区 分	所 属	氏 名	研究課題	派 遣 先	期 間
長期留学	該当なし				
短期留学	該当なし				

3) 海外派遣・出張

制度・事業等 区 分	所 属	氏 名	目 的	派 遣 先	期 間
長期在外研究 員制度	該当なし				

3. 技術協力・指導

1) 連携大学院への派遣

氏 名	所 属	派 遣 先	期 間
三浦一芸	水田作研究領域	国立大学法人広島大学	H27.4.1 ~ H28.3.31
黒瀬義孝	水田作研究領域	国立大学法人広島大学	H27.4.1 ~ H28.3.31

2) 他機関主催研修会等への講師派遣

氏 名	講師所属	研修会等名	依 頼 者	期 間
川嶋浩樹	傾斜地園芸研究領域	第 17 回施設園芸技術初級講 座	一般社団法人日本施 設園芸協会	H27.5.14 ~ H27.5.15
川嶋浩樹	傾斜地園芸研究領域	高断熱被覆資材（布団資材） に関する現地指導及び研究会	和歌山県	H27.5.19 ~ H27.5.20
安部順一郎	水田作研究領域	福山市園芸振興連絡協議会研 修会	福山市園芸振興連絡 協議会	H27.5.19 ~ H27.5.19

VI 研究交流

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
池田達哉	水田作研究領域	「パン用国産小麦の遺伝的質素に関する講演会」	敷島製パン（株）	H27.5.20 ～ H27.5.20
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成 27 年度鳥獣害防止指導者育成研修	埼玉県	H27.6.1 ～ H27.6.3
上田弘則	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成 27 年度鳥獣害防止指導者育成研修	埼玉県	H27.6.1 ～ H27.6.3
世古智一	水田作研究領域	「蕨高セミナー」	埼玉県立蕨高等学校	H27.6.17 H27.6.17
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	大分県鳥獣害対策アドバイザー養成研修会	大分県知事	H27.6.22 ～ H27.6.25
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害防止対策講習会	小豆島町鳥獣被害防止対策協議会	H27.7.3 ～ H27.7.4
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害防止対策講習会	土庄町鳥獣害対策協議会	H27.7.4 ～ H27.7.4
世古智一	水田作研究領域	平成 27 年度農林水産関係若手研究者研修	農林水産技術会議事務局	H27.7.8 ～ H27.7.8
畔柳武司	傾斜地園芸研究領域	平成 27 年度植物工場三重実証拠点研修会	一般社団法人日本施設園芸協会	H27.7.9 ～ H27.7.10
世古智一	水田作研究領域	玉島地区環境衛生協議会改善組合長研修会	玉島地区環境衛生協議会	H27.7.12 ～ H27.7.12
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	日本大学生物資源科学部動物医科学研究センターセミナー	日本大学生物資源科学部	H27.7.14 ～ H27.7.14
長崎裕司	企画管理部	スーパーサイエンスハイスクール事業に係る平成 27 年度第 1 回 SSH 講演会	広島県立西条農業高等学校	H27.7.15 ～ H27.7.15
池田達哉	水田作研究領域	ADVANCE21 研修会	協同組合全国製粉協議会	H27.7.24 ～ H27.7.15
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	獣害防止対策支援事業・新島村獣害検討会	東京都産業労働局農林水産部	H27.7.27 ～ H27.7.30
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	イノシシ被害防止対策集落環境点検	水見市鳥獣被害防止対策協議会	H27.8.4 ～ H27.8.6
高田兼則	水田作研究領域	山口大学公開講座	山口大学地域未来創生センター	H27.8.19 ～ H27.8.19
根角博久	傾斜地園芸研究領域	研修会	三ヶ日町認定農業者協議会	H27.8.20 ～ H27.8.21
中込弘二	水田作研究領域	平成 27 年度兵庫県畜産環境保全研修会	公益社団法人兵庫県畜産協会	H27.8.21 ～ H27.8.21
川嶋浩樹	傾斜地園芸研究領域	第 10 回施設園芸技術中級講座	一般社団法人日本施設園芸協会	H27.9.1 ～ H27.9.2
植山秀紀	傾斜地園芸研究領域	農業気象と環境に関する講演	香川県立農業大学校	H27.9.2 ～ H27.9.2
植山秀紀	傾斜地園芸研究領域	農業気象と環境に関する講演	香川県立農業大学校	H27.9.3 ～ H27.9.3
中込弘二	水田作研究領域	平成 27 年度九州地域飼料増産に関する研修会	一般社団法人日本草地畜産種子協会	H27.9.7 ～ H27.9.8
植山秀紀	傾斜地園芸研究領域	農業気象と環境に関する講演	香川県立農業大学校	H27.9.9 ～ H27.9.9
中込弘二	水田作研究領域	平成 27 年度畜産セミナー「稲 WCS の多収と品質向上のための留意点について」	京都府農林水産技術センター	H27.9.17 ～ H27.9.17
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	大分県鳥獣害対策アドバイザー養成研修会	大分県	H27.9.28 ～ H27.10.1
上田弘則	畜産草地・鳥獣害研究領域	大分県鳥獣害対策アドバイザー養成研修会	大分県	H27.9.28 ～ H27.10.1
千田雅之	営農・環境研究領域	平成 27 年度中央畜産技術研修会（放牧）	農林水産省生産局	H27.9.29 ～ H27.9.29
植山秀紀	傾斜地園芸研究領域	農業気象と環境に関する講演	香川県立農業大学校	H27.9.30 ～ H27.9.30

VI 研究交流

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
根角博久	傾斜地園芸研究領域	平成27年度新品種・新技術コーディネーター活動支援事業 新品種・新技術コーディネーター研修会(果樹CO5②)	一般財団法人全国農業改良普及支援協会	H27.9.30 ~ H27.9.30
池田達哉	水田作研究領域	平成27年度地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト(調査研究事業) ばらの酵母菌で瀬戸内・福山の六次産業を醸すプロジェクト推進委員会	福山商工会議所	H27.10.1 ~ H27.10.1
川嶋浩樹	傾斜地園芸研究領域	「施設園芸新技術セミナー 機器資材展 in 中国四国」	一般社団法人日本施設園芸協会	H27.10.1 ~ H27.10.2
根角博久	傾斜地園芸研究領域	平成27年度新品種・新技術コーディネーター活動支援事業 新品種・新技術コーディネーター研修会(果樹CO5②)	一般財団法人全国農業改良普及支援協会	H27.10.2 ~ H27.10.2
森伸介	水田作研究領域	生物応用科学科研究室演習(二) 特別講義	東京農業大学 生物応用化学科	H27.10.6 ~ H27.10.7
中込弘二	水田作研究領域	平成27年度東海地域飼料増産推進研修会(稲WCS)	一般社団法人日本草地畜産種子協会	H27.10.14 ~ H27.10.15
上田弘則	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成27年度那賀町鳥獣被害防止対策強化月間 那賀町木頭北川地区獣害防止研修会	那賀町鳥獣被害防止対策協議会	H27.10.19 ~ H27.10.20
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	特定鳥獣の保護・管理に係る研修会(上級編イノシシ)	一般財団法人自然環境研究センター	H27.10.27 ~ H27.10.29
千田雅之	営農・環境研究領域	「全国肉用牛放牧シンポジウム～放牧を活用した繁殖基盤強化～」	一般社団法人日本草地畜産種子協会	H27.10.28 ~ H27.10.28
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成27年度野生獣衛生体制整備緊急対策事業に係る研修会	一般社団法人岡山県畜産協会	H27.11.4 ~ H27.11.4
柴田昌宏	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成27年度近畿地域飼料増産シンポジウム	一般社団法人日本草地畜産種子協会	H27.11.15 ~ H27.11.17
千田雅之	営農・環境研究領域	平成27年度山口型放牧研究会研修会	山口県畜産技術協会	H27.11.26 ~ H27.11.27
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成27年度農作物獣害防止対策支援事業現地検討会(あきる野市)	東京都農業振興事務所	H27.11.30 ~ H27.12.2
長崎裕司	企画管理部	福岡市農業指導センター全体研修	福岡市農業指導センター	H27.12.8 ~ H27.12.8
千田雅之	営農・環境研究領域	平成27年度事業化を加速する産学連携支援事業 事業化可能性調査「ミトコンドリア形質と保存精液資源を活用した赤身志向対応型次世代WAGYU創出の可能性」第2回検討会	公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会	H27.12.15 ~ H27.12.15
千田雅之	営農・環境研究領域	平成27年度岡山県コントラクター協議会研修会	一般社団法人日本草地畜産種子協会	H27.12.24 ~ H27.12.24
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	イノシシ被害対策講演会	福島県相双農林事務所	H28.1.14 ~ H28.1.16
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	薩摩川内市鳥獣被害対策講習会	薩摩川内市鳥獣被害防止対策協議会	H28.1.18 ~ H28.1.20
出田収	水田作研究領域	新品種育成(飼料用米等)「これから求められる水稲・飼料用米品種について」	兵庫県農政環境部 農産園芸課	H28.1.26 ~ H28.1.26
黒瀬義孝	水田作研究領域	“土壌水分見える化講習会”	大阪府南河内農と緑の総合事務所	H28.1.29 ~ H28.1.29
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	平成28年度伊予市双海生産者大会	えひめ中央農業協同組合下灘支部	H28.1.29 ~ H28.1.31
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	イノシシ被害防止対策研修会	氷見市鳥獣被害防止対策協議会	H28.2.1 ~ H28.2.3
中込弘二	水田作研究領域	平成27年度飼料用米推進大会	一般社団法人日本草地畜産種子協会	H28.2.4 ~ H28.2.4
出田 収	水田作研究領域	岡山地域農業技術者連絡協議会作物部会研修会	岡山地域農業技術者連絡協議会	H28.2.9 ~ H28.2.9
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	獣害防止対策支援事業・新島村獣害検討会	東京都産業労働局 農林水産部	H28.2.14 ~ H28.2.16

VI 研究交流

氏名	講師所属	研修会等名	依頼者	期間
堂山宗一郎	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣害対策研修会	島根県集落営農ネットワーク	H28.2.22 ~ H28.2.23
岡部昭典	水田作研究領域	平成27年度近畿産大豆生産・需要拡大協議会(第2回)	一般社団法人全国農業改良普及支援協会	H28.2.23 ~ H28.2.23
千田雅之	営農・環境研究領域	平成27年度西部地区肉用牛振興大会	石西地域農林振興協議会	H28.2.24 ~ H28.2.25
長田健二	水田作研究領域	「これからの香川の米を考える」研修会	香川県	H28.3.7 ~ H28.3.7
中込弘二	水田作研究領域	平成27年度中国四国地域飼料増産研修会	一般社団法人日本草地畜産種子協会	H28.3.7 ~ H28.3.7
千田雅之	営農・環境研究領域	平成27年度中国四国地域飼料増産研修会	一般社団法人日本草地畜産種子協会	H28.3.7 ~ H28.3.7
伏見昭秀	水田作研究領域	「シバ二重ネット技術研修会」	滋賀県世代をつなぐ農村まるごと保全推進協議会	H28.3.8 ~ H28.3.9
伏見昭秀	水田作研究領域	平成27年度国営事業地区営農担当者会議	中国四国農政局	H28.3.11 ~ H28.3.11
中元陽一	傾斜地園芸研究領域	平成27年度国営事業地区営農担当者会議	中国四国農政局	H28.3.11 ~ H28.3.11
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	鳥獣被害対策研修会	菊川市有害鳥獣対策協議会	H28.3.15 ~ H28.3.16
江口祐輔	畜産草地・鳥獣害研究領域	獣害防止対策支援事業・新島村獣害検討会	東京都産業労働局農林水産部	H28.3.20 ~ H28.3.24

3) 当センター主催の技術指導

研修会等名	期間	開催場所	参加者数
鳥獣被害対策技術指導研修会	平成27年度中(計5回)	広島県内	158

4) 依頼分析、試験および同定

区分	担当研究領域	件数
該当なし		

4. 共同研究

担当研究領域	共同研究相手先	件数
営農・環境研究領域	公的機関	1
	公的機関	5
水田作研究領域	民間、その他	2
	公的機関、民間	2
作物機能開発研究領域	公的機関	2
傾斜地園芸研究領域	公的機関	2
	民間、その他	1
環境保全型野菜研究領域	民間、その他	1
畜産草地・鳥獣害研究領域	公的機関、民間	1

5. 協定研究

担当研究領域	協定研究相手先	件 数
営農・環境研究領域	公的機関	2
	民間、その他	1
水田作研究領域	公的機関	7
	民間、その他	18
作物機能開発研究領域	公的機関	2
傾斜地園芸研究領域	公的機関	5
	民間、その他	6
環境保全型野菜研究領域	民間、その他	1
畜産草地・鳥獣害研究領域	公的機関	1
	民間、その他	2

6. 開放型研究施設（オープンラボ）の利用状況

施 設 名	利用者数（人）
農産物等成分解析開放型研究施設	812
傾斜地農業開放型研究施設	232
第2共同実験棟	1,121

Ⅶ 組織・人事・会計

1. 組織

所 長		
— 四国農業研究監		四国地域の農業に関する試験及び研究並びに調査に関する業務
— 企画管理部	— 審 議 役	重要な総務に関する業務を総括整理
	— 研究調整役	特定の試験及び研究並びに調査の企画、立案及び調整に関する業務
	— 業務推進室	
	— 調査役	予算の要求、配分及び執行に係る計画の立案等に係る調査の業務
	— 企画チーム	(企画調整、交流調整)
	— 運営チーム	(連絡調整、運営調整、予算管理)
	— 管 理 課	
	— 庶務チーム	(労務・職員管理、庶務、厚生)
	— 会計チーム	(会計、審査、調達、資産管理)
	— 綾部管理チーム	(庶務、会計)
	— 大田管理チーム	(庶務、会計)
	— 情報広報課	試験及び研究並びに調査に係る情報の収集、整理、提供及び成果の広報並びに情報システムの管理
	— 四国企画管理室	
	— 調査役	四国研究センターにおける総務に関する特定の業務を総括し、及び総務に関する事項についての関係部署との連絡調整の業務
	— 連絡調整チーム	(企画調整、情報広報)
	— 管理チーム	(庶務、厚生、会計、調達、資産管理)
— 営農・環境研究領域		営農・環境研究領域は、近畿中国四国地域における水田営農に関する技術の開発及び経営評価並びに環境保全技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 水田作研究領域		水田作研究領域は、近畿中国四国地域における水稻・小麦の品種育成及び作物栽培管理に関する技術に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 作物機能開発研究領域		作物機能開発研究領域は、近畿中国四国地域における大麦・大豆品種の育成並びに農産物の健康機能性の解明及び有効利用技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 傾斜地園芸研究領域		傾斜地園芸研究領域は、近畿中国四国地域における傾斜地資源を活用したカンキツ等の果樹生産技術の開発及び施設等を利用した野菜生産技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 環境保全型野菜研究領域		環境保全型野菜研究領域は、近畿中国四国地域における環境保全型野菜生産技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 畜産草地・鳥獣害研究領域		畜産草地・鳥獣害研究領域は、近畿中国四国地域における地域飼料資源による黒毛和種の生産技術の開発及び鳥獣害対策技術の開発に係る試験及び研究並びに調査に関する業務
— 研究支援センター		試験及び研究並びに調査に供する圃場及び動植物の管理に関する業務
	— 業務第1科 (福山)	
	— ” (綾部研究拠点駐在)	
	— 業務第2科 (善通寺)	
	— 業務第3科 (大田)	

Ⅶ 組織・人事・会計

2. 人 事

1) 現在員数

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

所 属	指定職員	一般職員	技術専門 職員	研究職員	任期付 研究員	計
所長	1					1
所付						0
四国農業研究監				1		1
企画管理部		44	1	5		50
営農・環境研究領域				17		17
水田作研究領域				28	1	29
作物機能開発研究領域				9		9
傾斜地園芸研究領域				19	1	20
環境保全型野菜研究領域				8		8
畜産草地・鳥獣害研究領域				9	1	10
研究支援センター		3	60	1		64
計	1	47	61	97	3	209

※ 現在員：3 月 31 日付け定年退職、辞職を含む。

：派遣職員および育児休業を含む。

：育児休業に伴う任期付職員を除く。

2) 農研機構特別研究員

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

研 究 課 題	福 山	善通寺	綾 部	大 田	計
該当なし					

3) 委員等の就任状況

委 員 等	依 頼 元	所 属	氏 名	任 期
岡山県野生鳥獣保護管理対策協議会委員	岡山県環境文化部長	畜産草地・鳥獣害研究領域上席研究員	江口祐輔	H23.6.23～H29.3.31
山口県鳥獣被害防止対策協議会委員	山口県農林水産部長	畜産草地・鳥獣害研究領域主任研究員	上田弘則	H25.6.1～H28.5.31
営農計画管理調査に係る有識者	農林水産省中国四国農政局長	水田作研究領域上席研究員	岡部昭典	H26.5.2～H28.3.31
香川県農業技術総合推進検討会委員	香川県知事	四国農業研究監	中野正明	H26.7.26～H29.7.25
滋賀県農林水産関係試験研究外部評価委員会委員	滋賀県農政水産部長	環境保全型野菜研究領域長	佐藤隆徳	H26.9.1～H28.8.31
笠岡市バイオマス利活用推進協議会委員	笠岡市長	営農・環境研究領域上席研究員	松森堅治	H26.10.9～H28.10.2
東京都鳥獣害対策委員会評価部会委員	東京都産業労働局農林水産部長	畜産草地・鳥獣害研究領域上席研究員	江口祐輔	H27.2.16～H29.2.15
香川大学公正研究委員会委員	国立大学法人香川大学長	四国農業研究監	中野正明	H27.4.1～H29.3.31
専門調査員	文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター長	水田作研究領域主任研究員	小林英和	H27.4.1～H28.3.31
専門調査員	文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター長	作物機能開発研究領域主任研究員	阿部大吾	H27.4.1～H28.3.31
農林水産祭中央審査委員会専門委員	農林水産祭中央審査委員会会長	企画管理部長	水町功子	H27.4.6～H28.7.31

Ⅶ 組織・人事・会計

委 員 等	依 頼 元	所 属	氏 名	任 期
香川県ふるさと・水と土保全対策推進委員会委員	香川県知事	傾斜地園芸研究領域主任研究員	松田 周	H27.4.1 ~ H30.4.9
岡山県農林水産総合センター農業研究所外部評価委員会委員	岡山県農林水産総合センター農業研究所長	所長	竹中重仁	H27.4.15 ~ H28.3.31
燃油価格高騰緊急対策審査委員	一般社団法人日本施設園芸協会会長	傾斜地園芸研究領域上席研究員	川嶋浩樹	H27.4.22 ~ H28.4.30
岡山県農林水産総合センター畜産研究所外部評価委員会委員	岡山県農林水産総合センター畜産研究所長	畜産草地・鳥獣害研究領域長	山本直幸	H27.4.22 ~ H28.3.31
水稲関係生育調節剤専門委員会専門調査員	公益財団法人日本植物調節剤研究協会理事	水田作研究領域上席研究員	長田健二	H27.5.1 ~ H28.3.31
水稲関係除草剤専門委員会専門調査員	公益財団法人日本植物調節剤研究協会理事	水田作研究領域主任研究員	橘雅明	H27.5.1 ~ H28.3.31
水稲関係除草剤専門委員会専門調査員	公益財団法人日本植物調節剤研究協会理事	水田作研究領域主任研究員	伏見昭秀	H27.5.1 ~ H28.3.31
緑地管理関係植物調節剤専門委員会専門調査員	公益財団法人日本植物調節剤研究協会理事	畜産草地・鳥獣害研究領域上席研究員	大谷一郎	H27.5.1 ~ H28.3.31
大阪府立環境農林水産総合研究所研究アドバイザー委員会委員	地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所理事長	企画管理部長	水町功子	H27.5.12 ~ H28.3.31
和歌山県農林水産関係試験研究評価委員会委員	和歌山県農林水産部長	傾斜地園芸研究領域長	亀井雅浩	H27.5.12 ~ H29.3.31
平成 27 年度知の集積による産学連携推進事業のうち事業化を加速する産学連携支援事業におけるコーディネーター	公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会理事長	傾斜地園芸研究領域上席研究員	川嶋浩樹	H27.5.27 ~ H28.3.23
中国四国農政局国営事業地区営農基盤整備等推進委員会委員及び幹事会幹事	農林水産省中国四国農政局長	企画管理部長	水町功子	H27.6.2 ~ H29.3.31
中国四国農政局国営土地改良事業地区営農推進功労者表彰審査会審査員	農林水産省中国四国農政局長	営農・環境研究領域長	笹倉修司	H27.6.2 ~ H28.3.31
中国四国農政局国営事業地区営農基盤整備等推進委員会作業部会員	農林水産省中国四国農政局長	企画管理部業務推進室長	長崎裕司	H27.6.2 ~ H29.3.31
中国四国農政局国営事業地区営農基盤整備等推進委員会作業部会員	文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術動向研究センター長	水田作研究領域主任研究員	谷中美貴子	H27.6.11 ~ H28.3.31
兵庫県立農林水産技術総合センター外部評価専門委員会委員	兵庫県知事	畜産草地・鳥獣害研究領域長	山本直幸	H27.6.29 ~ H28.3.31
山口県農林総合技術センター外部評価会議委員	山口県農林総合技術センター所長	営農・環境研究領域長	笹倉修司	H27.6.29 ~ H28.3.31
平成 27 年度計画基礎諸元調査意見聴取会等委員(水田有効活用分科会)	株式会社プロセスユニーク代表取締役	営農・環境研究領域主任研究員	望月秀俊	H27.7.3 ~ H28.3.18
中心経営体の WCS・飼料用米栽培をとした耕畜連携等に関する検討会委員	一般財団法人日本水産総合研究所理事長	営農・環境研究領域主任研究員	高橋仁康	H27.7.15 ~ H28.3.31
平成 27 年度地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト(調査研究事業)ばらの酵母菌で瀬戸内・福山の六次産業を醸すプロジェクト推進委員	福山商工会議所会頭	水田作研究領域主任研究員	池田達哉	H27.8.11 ~ H28.2.29
平成 27 年度中国四国農政局多面的機能発揮促進事業局長表彰選定委員	農林水産省中国四国農政局長	四国農業研究監	中野正明	H27.11.19 ~ H28.3.31

Ⅶ 組織・人事・会計

4) 叙位・叙勲

氏名	所属	名称	受賞年月日
橋本恵次	元 中国農業試験場農業経営部経営第5研究室長	瑞宝双光章	H27.4.1
高橋和夫	元 四国農業試験場栽培部土壤肥料研究室長	瑞宝双光章	H27.5.1
久保千冬	元 四国農業試験場栽培部主任研究官	瑞宝双光章	H27.6.1
角田久夫	元 中国農業試験場畑地利用部養蚕研究室長	瑞宝双光章	H27.10.1
森田林逸	元 四国農業試験場土地利用部業務科長	瑞宝双光章	H28.1.1

5) 受賞

氏名	所属	名称	受賞年月日	受賞課題
出田収	水田作研究領域	日本育種学会論文賞	H26.3.21	Population structure in Japanese rice population
佐藤恵一 黒瀬義孝	傾斜地園芸研究領域 水田作研究領域	日本農業気象学会論文賞	H27.3.18	Analysis of normalized daily change of air temperature using an S-shaped function to detect fog occurrence (和名：霧の発生を検出するためのS字型関数を用いた基準化した気温日変化の解析)
三浦一芸	水田作研究領域	日本応用動物昆虫学会賞	H27.3.26	分子生物学的手法を利用した新しい害虫防除技術開発に関する一連の研究
千田雅之	営農・環境研究領域	日本農業経営学会賞学会誌賞	H27.9.11	水田飼料作経営成立の可能性と条件—数理計画法の適用による水田飼料作経営の規範分析と飼料生産コスト—
世古智一	水田作研究領域	日本農学進歩賞	H27.11.27	遺伝的に飛翔能力を欠くナミテントウを活用した生物防除法の開発

6) 学位授与

氏名	所属	名称	取得年月日	論文名
向井章恵	傾斜地園芸研究領域	博士(緑地環境科学)(大阪府立大学)	H27.9.25	農業排水路における水制を用いた砂州創出に関する研究—生態系配慮の技術として—
尾島一史	営農・環境研究領域	博士(学術)(岡山大学)	H27.9.30	中山間地域農業・農村の活性化にむけた有機農業振興方策に関する研究

3. 会 計

1) 決 算 (所在地別内訳)

単位：千円

区 分	福 山	善 通 寺	綾 部	大 田	計
収 入					
1. 運営費交付金収入 (前年度繰越金)	21,490	0	0	0	21,490
2. 事業収入	1,101	854	0	21,818	23,773
(1) 生産物等売払収入	0	854	0	21,818	22,672
(2) その他事業収入	1,101	0	0	0	1,101
3. 受託収入	29,310	0	0	0	29,310
(1) 受託研究収入	23,686	0	0	0	23,686
ア. 政府受託研究収入	13,033	0	0	0	13,033
イ. 地方公共団体受託研究収入	0	0	0	0	0
ウ. 独立行政法人受託研究収入	0	0	0	0	0
エ. 国立大学法人受託研究収入	0	0	0	0	0
オ. その他受託研究収入	513	0	0	0	513
カ. 国立研究開発法人受託研究収入	10,140	0	0	0	10,140
(2) 共同研究収入	0	0	0	0	0
(3) 受託調査等収入	0	0	0	0	0
(4) 受託出張収入	5,624	0	0	0	5,624
ア. 地方公共団体受託出張収入	1,290	0	0	0	1,290
イ. 独立行政法人受託出張収入	0	0	0	0	0
ウ. 国立大学法人受託出張収入	50	0	0	0	50
エ. その他受託出張収入	4,284	0	0	0	4,284
4. 補助金等収入	9,034	0	0	0	9,034
5. 事業外収入	5,858	0	0	19	5,877
6. 臨時収入	184	55	0	103	342
7. 通過資金預り金	52,938	0	0	0	52,938
8. 繰越積立金	2	0	0	0	2
計	119,917	909	0	21,940	142,766

Ⅶ 組織・人事・会計

区 分	福 山	善 通 寺	綾 部	大 田	計
支 出					
1. 運営費交付金	318,493	177,593	34,636	89,438	620,160
(1) 人件費	36,256	0	0	0	36,256
(2) 一般管理費	46,278	21,585	5,395	16,508	89,766
ア. 所運営費	12,140	1,693	58	232	14,123
イ. 管理諸費	34,104	19,730	5,337	16,253	75,424
ウ. 平成 27 年度特に必要な経費	34	162	0	23	219
(3) 業務経費	235,959	156,008	29,241	72,930	494,138
2. 事業収入経費	11,486	7,171	1,557	3,560	23,774
3. 受託収入経費	81,653	34,770	13,819	9,089	139,331
(1) 受託研究収入経費	75,061	34,630	13,819	8,680	132,190
ア. 政府受託研究収入	59,001	27,303	3,593	8,680	98,577
イ. 地方公共団体受託研究経費	0	0	0	0	0
ウ. 国立研究開発法人受託研究経費	15,547	7,327	10,226	0	33,100
エ. 国立大学法人受託研究経費	0	0	0	0	0
オ. その他受託研究経費	513	0	0	0	513
(2) 共同研究経費	1,517	0	0	0	1,517
(3) 受託調査等経費	0	0	0	0	0
(4) 受託出張経費	5,075	140	0	409	5,624
ア. 地方公共団体受託出張経費	1,157	4	0	129	1,290
イ. 独立行政法人受託出張経費	0	0	0	0	0
ウ. 国立大学法人受託出張経費	50	0	0	0	50
エ. その他受託出張経費	3,868	136	0	280	4,284
4. 補助金等経費	7,168	4,663	1,867	10,630	24,328
5. 事業外収入経費	3,852	1,268	48	709	5,877
6. 臨時収入経費	184	55	0	103	342
7. 通過資金預り金	146,799	3,951	0	1,673	152,423
計	569,635	229,471	51,927	115,202	966,235

2) 固定資産 (所在地別内訳)

平成 28 年 3 月 31 日現在

区 分	福 山	善 通 寺	綾 部	大 田	計
有形固定資産					
土 地 (㎡)	227,093.05	963,610.29	62,907.89	2,019,455.99	3,273,067.22
建物建面積 (㎡)	11,291.50	11,872.55	4,535.03	9,691.45	37,390.53
建物延面積 (㎡)	16,148.28	15,150.69	5,138.98	11,167.18	47,605.13
構 築 物 (式)	1	1	1	1	4
樹 木 (本)	343	741	35	250	1,369
立 木 (㎡)	0.00	4,045.92	0.00	6,698.57	10,744.49
機械装置 (点)	93	67	12	26	198
車輛運搬具 (点)	15	15	8	8	46
工具器具備品 (点)	285	258	88	79	710
無形固定資産					
ソフトウェア (点)	16	14	2	0	32

VIII 主な会議等

1. 近畿中国四国農業試験研究推進会議

会議名	開催日	開催場所	参集者
近畿中国四国農業試験研究推進会議 評価企画会議	H27.8.5	広島県民文化センターふくやま	合計 44 名 (内訳) 農政局 3 名、府県関係者 25 名、果樹研 1 名、野茶研 1 名、 近中四農研 14 名
近畿中国四国農業試験研究推進会議 試験研究推進部会	H28.1.25 ~ H28.1.29	近畿中国四国農業研究センター 福山市生涯学習プラザ 広島県民文化センターふくやま 三原市市民福祉会館 野菜茶業研究所(金谷)	合計 462 名 (延人数) 生産局 1 名、植防 1 名、 農政局 10 名、大学等 15 名、府 県関係者 299 名、機構内 41 名、 近中四農研 88 名、その他 7 名
近畿中国四国農業試験研究推進会議 本会議	H28.2.5	福山市ものづくり交流館	合計 58 名 (内訳) 大臣官房 1 名、技術会 議 1 名、農政局 4 名、府県関係 者 32 名、機構本部 1 名、果樹研 1 名、野茶研 1 名、農工研 1 名、 近中四農研 15 名、その他 1 名

2. 近畿中国四国地域問題別研究会

会議名	開催日	開催場所	参加者数
西日本地域麦類育成系統立毛検討会	H27.5.12 ~ H27.5.13	山口県農林総合技術セ ンター(山口市)	77 名
輸出を視野に入れた農産物のニーズ把握とバリューチ ェーン構築の課題	H27.7.8	近畿中国四国農業研究 センター(福山市)	29 名
近未来の畦畔管理—最新技術の紹介—	H27.7.17	ホテルモナーク鳥取 (鳥取市)	71 名
果樹の生育及び果実生産と樹体内水分動態特性	H27.7.23 ~ H27.7.24	米子コンベンションセ ンター BiG SHiP(米子 市)	70 名
農村活性化における多様な担い手とネットワークの現 状と課題	H27.7.30 ~ H27.7.31	広島県民文化センター ふくやま(福山市)	40 名
温暖地域水稻育成系統立毛検討会	H27.8.20 ~ H27.8.21	食と農の科学館(つく ば市)、谷和原水田圃 場(つくばみらい市)、 茨城県農業総合センタ ー農業研究所(龍ヶ崎 市)他	56 名
農村活性化に向けた地域政策の課題と展望	H27.9.2	近畿中国四国農業研究 センター(福山市)	35 名
地域特産作物の効率的な生産技術	H27.9.8 ~ H27.9.9	ホテルセントノーム京 都(京都市)他	41 名
冬作技術研究会	H27.9.17 ~ H27.9.18	近畿中国四国農業研究 センター(福山市)	24 名
地域資源を活用した持続的農業生産技術	H27.9.17 ~ H27.9.18	ロイヤルアイゼン総合 資源リサイクルセンタ ー、愛媛県農林水産研 究所、えひめ共済会館 (松山市)	44 名
一般化線形混合モデルを病虫害研究に適用するための 講習会	H27.10.6 ~ H27.10.7	近畿中国四国農業研究 センター(福山市)	20 名
花き研究成果の中山間地域への普及、貢献	H27.10.15 ~ H27.10.16	翠山荘(山口市)他	27 名
茶輸出への各地の取組の現状と課題	H27.10.21 ~ H27.10.22	ホテルアジュール・奈良 (奈良市)、京田辺市、 相楽郡和束町	50 名
完全人工光型植物工場の現状と課題	H27.11.10 ~ H27.11.11	エル・おおさか(大阪 市)、大阪府立大学植 物工場研究センター (堺市)	46 名
ゲノミック評価を活用した特色のある黒毛和種の生産	H27.12.2	福山市ものづくり交流 館(福山市)	26 名

Ⅷ 主な会議等

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
農業における ICT およびデータベースの活用	H27.12.3	近畿中国四国農業研究センター四国研究センター（善通寺市）	70名
鳥獣被害防止対策の生産現場における問題点とその対策について	H27.12.4	岡山シティミュージアム（岡山市）	64名
食品流通問題別研究会	H27.12.10～H27.12.11	和歌山県J Aビル（和歌山市）他	35名
病害分科会	H28.1.25～H28.1.26	福山市生涯学習プラザ（福山市）	75名
虫害分科会	H28.3.2～H28.3.4	福山市生涯学習プラザ（福山市）	63名
育種栽培検討会（水稲品種・系統検討会 栽培研究会（水稲等） 大豆品種・系統検討会 栽培研究会（大豆））	H28.3.9～H28.3.11	福山市生涯学習プラザ（福山市）	64名

3. 地域研究・普及連絡会議

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
平成 27 年度中国四国地域研究・普及連絡会議	H27.10.27	中国四国農政局（岡山市）	34名
平成 27 年度近畿地域研究・普及連絡会議	H27.10.29	ホテルルビノ京都堀川（京都市）	38名

4. 農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業推進会議等

会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（実用技術開発ステージ）27016C「中山間の未利用有機性資源を活用した人にも環境にもやさしい土壌消毒技術の実用化」平成 27 年度研究推進会議（キックオフ会議）	H27.7.13	近畿中国四国農業研究センター（福山市）	30名
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（実用技術開発ステージ）課題番号 27013C「温室における冬の省エネと夏の環境改善はナノファイバーが解決する」2015 年度推進会議	H27.7.30～H27.7.31	京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパス（京都市）	17名
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（実用技術開発ステージ）25073C『画期的WCS用稲「たちすずか」の特性を活かした微細断収穫調製・給与体系の開発実証』平成 27 年度研究推進会議	H27.11.19	三次グランドホテル（三次市）	33名
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（実用技術開発ステージ）25073C『画期的WCS用稲「たちすずか」の特性を活かした微細断収穫調製・給与体系の開発実証』平成 27 年度現地検討会	H27.11.19～H27.11.20	広島県三次庁舎（三次市）、広島県立総合技術研究所畜産技術センター（庄原市）	105名
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（実用技術開発ステージ）27016C「中山間の未利用有機性資源を活用した人にも環境にもやさしい土壌消毒技術の実用化」平成 27 年度研究推進会議	H28.1.19～H28.1.20	福山市生涯学習プラザ（福山市）	30名
農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（実用技術開発ステージ）課題番号 27013C「温室における冬の省エネと夏の環境改善はナノファイバーが解決する」2015 年度推進会議	H28.1.21～H28.1.22	近畿中国四国農業研究センター四国研究センター（善通寺市）	19名

5. 革新的技術緊急展開事業関係会議等

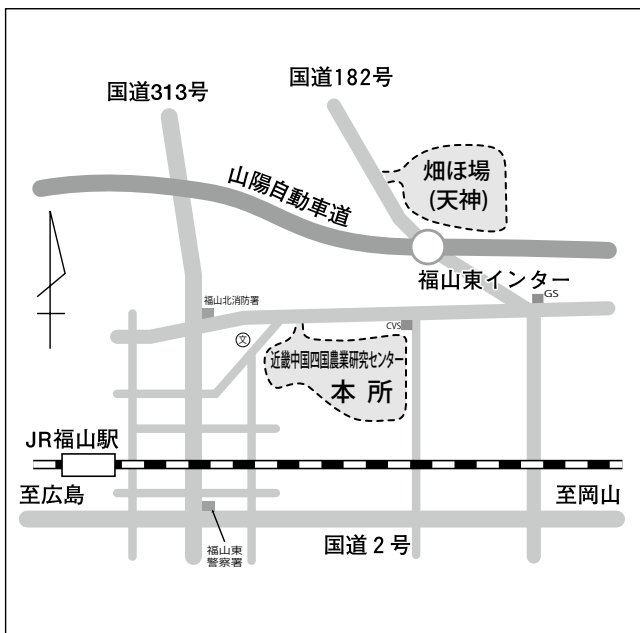
会 議 名	開 催 日	開 催 場 所	参加者数
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「マルドリ方式・ICTなどを活用した省力的な高品質カンキツ生産技術体系とその実現のための園地整備技術の実証」平成27年度研究推進会議	H27.4.16～ H27.4.17	近畿中国四国農業研究センター四国研究センター（善通寺市）	56名
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「中山間地等条件不利地の集落営農法人における軽労・効率的作業管理技術を核とする水田作の実証」現地見学会・中間検討会議	H27.8.27～ H27.8.28	農事組合法人グリーンファーム名田島、新山口ターミナルホテル（山口市）	115名 (現地見学会) 50名 (中間検討会)
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「マルドリ方式・ICTなどを活用した省力的な高品質カンキツ生産技術体系とその実現のための園地整備技術の実証」平成27年度第2回研究推進会議・公開現地検討会	H27.10.20～ H27.10.22	にぎたつ会館（松山市）、実証園（松山市、今治市）、農事組合法人シトラスかみじま（大崎上島町）	57名 (推進会議) 209名 (現地検討会)
農林水産業の革新的技術緊急展開事業「国産飼料の高度活用による資源循環型、牛肉生産システムの実証研究」中間報告会	H27.11.4	松江エクセルホテル東急（松江市）	37名
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「マルドリ方式・ICTなどを活用した省力的な高品質カンキツ生産技術体系とその実現のための園地整備技術の実証」平成27年度第3回研究推進会議	H27.11.30～ H27.12.1	近畿中国四国農業研究センター（福山市）、中国紙工業（株）三原工場（三原市）	55名
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「中山間地等条件不利地の集落営農法人における軽労・効率的作業管理技術を核とする水田作の実証」成績検討会議	H28.1.15	近畿中国四国農業研究センター（福山市）	52名
農林水産業におけるロボット技術開発実証事業（研究開発）「中山間の急傾斜法面に対応した小型除草ロボット開発」	H28.2.2	近畿中国四国農業研究センター四国研究センター（善通寺市）	16名
攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業「マルドリ方式・ICTなどを活用した省力的な高品質カンキツ生産技術体系とその実現のための園地整備技術の実証」平成27年度第4回研究推進会議・成果報告会	H28.2.25～ H28.2.26	グランシップ静岡（静岡市）	49名 (推進会議) 683名 (成果報告会)

Ⅷ 主な会議等

6. その他会議

会 議 名	開催日	開催場所	参加者数
農林水産研究基本計画に関する意見交換会	H27.6.9	近畿中国四国農業研究センター（福山市）	61名
セミナー「日本農業の再生は中山間地域農業のイノベーションから」	H27.7.2～ H27.7.3	近畿中国四国農業研究センター四国研究センター（善通寺市）	28名
平成27年度近中四農研先進的生産者等との意見交換会「地域における高収益施設生産技術開発を目指して」	H27.8.18	近畿中国四国農業研究センター四国研究センター（善通寺市）	39名
平成27年度農研機構 畦畔管理技術情報セミナー「シバ二重ネット工法」技術実演会	H27.10.29～ H27.10.30	東広島市市民文化センター、ファーム・おだ（東広島市）	147名 (講演会) 132名 (実演会)
農研機構セミナー 根こぶ病発病リスク診断のための病原菌検出法（第5回根こぶ病研究会）	H27.11.4	キャンパスプラザ京都	58名
平成27年度農研機構近中四農研セミナー「温室の省エネルギー技術の現状と防風施設の活用」	H27.11.4～ H27.11.5	近畿中国四国農業研究センター四国研究センター（善通寺市）	12名
平成27年度農研機構シンポジウム「露地栽培における点滴灌水技術の展開と進化」	H27.11.10	滝野川会館（東京都北区）	129名
農研機構近中四農研 研究セミナー「国土資源を活用した酪農・肉用牛経営のコスト低減の可能性と条件及び技術開発方向」	H27.11.11	滝野川会館（東京都北区）	109名
平成27年度農研機構近中四農研セミナー「布団資材の性能評価手法・規格の確立に向けた技術的課題」	H27.11.19	TFTビル東館（東京都江東区）	47名
農研機構発！西日本向け良食味水稲新品種お披露目会～恋の予感・にこまる・きぬむすめ～	H27.12.3	岡山国際交流センター（岡山市）	125名
農研機構近中四農研セミナー「水田里山の畜産利用と土作りを基礎にした中山間地域営農発展の可能性と研究課題」	H27.12.7	岡山国際交流センター（岡山市）	93名

IX 所在地



【本所】(福山市)

〒 721-8514

広島県福山市西深津町 6-12-1

T E L 084-923-4100 (代)

F A X 084-924-7893

最寄駅 JR 山陽本線、JR 山陽新幹線、
JR 福塩線「福山駅」

【四国研究センター】(善通寺市)

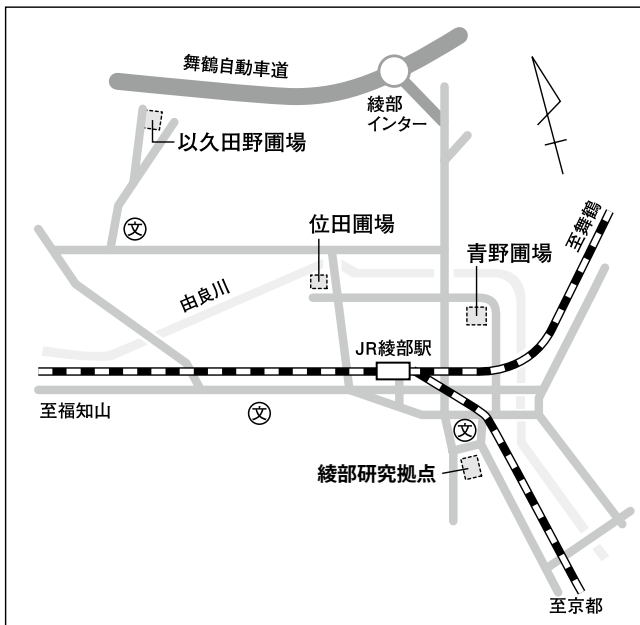
〒 765-8508

香川県善通寺市仙遊町 1-3-1

T E L 0877-62-0800 (代)

F A X 0877-63-1683

最寄駅 JR 土讃線「善通寺駅」



【綾部研究拠点】(綾部市)

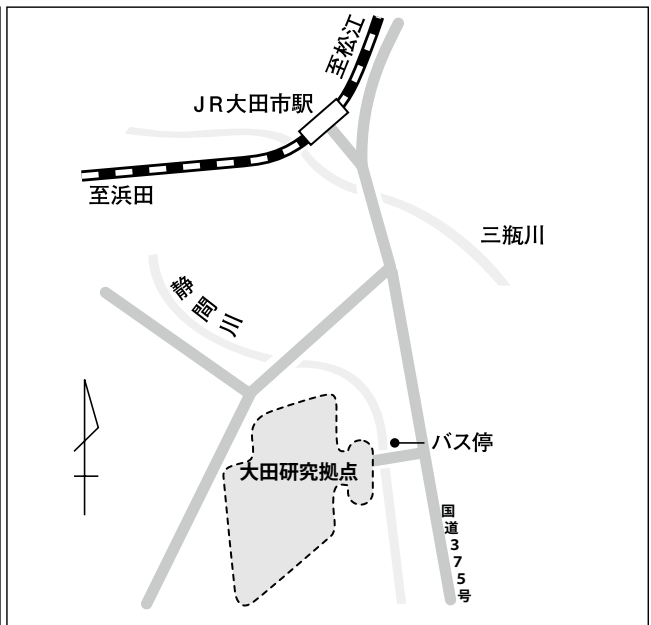
〒 623-0035

京都府綾部市上野町上野 200

T E L 0773-42-0109 (代)

F A X 0773-42-7161

最寄駅 JR 山陰本線「綾部駅」



【大田研究拠点】(大田市)

〒 694-0013

島根県大田市川合町吉永 60

T E L 0854-82-0144 (代)

F A X 0854-82-2280

最寄駅 JR 山陰本線「大田市駅」